

授業科目	英語コミュニケーション I	担当者	近藤 未奈		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

この授業では、語彙、リスニング、リーディング、ライティングの各技能の演習をバランス良く行い、医療実務に役立つ総合的な英語力の養成をはかります。ロールプレイ方式によるペアワークにより英会話力のアップも目指します。

## ■ 目 標

医療専門分野に関係した基礎的な英語表現に慣れ、現場で英語が必要とされた際にも対応できる英語運用能力を養成することを目標とします。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 First Visit (初診/問診表)
- 第3回 At the Examination Room (診察室での基本会話/ノロウイルス)
- 第4回 Flu Symptoms (インフルエンザの症状/タミフル)
- 第5回 Pain Problems (痛みへの対処/BSE、狂牛病)
- 第6回 Stomachache (胃痛/摂食障害)
- 第7回 Abdominal Pain (腹痛/ホルモン攪乱物質)
- 第8回 Urinalysis (尿検査/市販薬)
- 第9回 Cholesterol (コレステロール/メタボリック症候群)
- 第10回 Anemia (貧血/バランスのとれた食事)
- 第11回 Injury (怪我/ウォーキングの効能)
- 第12回 Operation Period (手術の準備/入院手順)
- 第13回 Alcohol Poisoning (アルコール中毒)
- 第14回 Ultrasound Examination (超音波検査)
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

出席および受講態度 (40% 予習や授業中の発表も含める)、小テスト (20%)、試験 (40%) の結果を総合的に評価します。

## ■ 教科書

書名: Medical English Clinic 『やさしい医療英語』

著者名: 西原 俊明, 西原 真弓, Tony Brown

出版社: センゲージ ラーニング株式会社

書名: カタカナでわかる医療英単語

著者名: 飯田 恭子

出版社: 医学書院

## ■ 参考図書

書名: 『大学生のための英文法ビフォー & アフター』

著者名: 豊永 彰

出版社: 南雲堂

## ■ 留意事項

授業中に英和辞典 (電子辞書可/高校英語に対応できるレベルのもの) が必要となるので、毎回必ず持参すること。その他諸注意については初回授業で伝えるので、必ず初回から出席すること。

授業科目	英語コミュニケーションⅡ	担当者	近藤 未奈		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

この授業では、医療の現場を想定した英会話の練習、医学関連の英文読解などを通し、医療実務に有効な英語力の養成をはかります。

## ■ 目 標

「英語コミュニケーションⅠ」の内容を発展させ、特に理学療法・作業療法分野を中心とした医療英語の運用能力を養成することを目標とします。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Higher Brain Dysfunction (高次脳機能障害)
- 第3回 Parkinson's Disease (パーキンソン病)
- 第4回 Osteoporosis (骨粗鬆症)
- 第5回 Cerebral Apoplexy (脳卒中)
- 第6回 Cardiovascular Disease (循環器疾患)
- 第7回 Diabetes Mellitus (糖尿病)
- 第8回 Respiratory Disease (呼吸器疾患)
- 第9回 Chronic Rheumatoid Arthritis (慢性関節リウマチ)
- 第10回 Femoral Neck Fractures (大腿骨頸部骨折)
- 第11回 Spinal Cord Injuries (脊髄損傷)
- 第12回 Cerebral Palsy (脳性麻痺)
- 第13回 Case Study 1 (事例研究)
- 第14回 Case Study 2 (事例研究)
- 第15回 Case Study 3 (事例研究)

## ■ 評価方法

出席および受講態度 (40% 予習や授業中の発表も含める)、小テスト (20%)、試験 (40%) の結果を総合的に評価します。

## ■ 教科書

書名：THE ART OF HEALING『医療・リハビリテーションを学ぶ学生のための総合英語』  
 著者名：荒金 房子, 村上 仁之, マーク・レモン  
 出版社：南雲堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業中に英和辞典 (電子辞書可/高校英語に対応できるレベルのもの) が必要となるので、毎回必ず持参すること。その他諸注意については初回授業で伝えるので、受講の意思のある場合必ず初回から出席すること。

授業科目	英語コミュニケーションⅢ	担当者	近藤 未奈		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、専門用語の成り立ちを学びます。また、英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習します。英語論文の抄録を読む演習も適宜行います。

## ■ 目 標

医学英語に特有の英語表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に理解できる力を身に付けることを目標とします。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション／医学英語の基本構造
- 第2回 接尾辞と接頭辞
- 第3回 英文法の重要項目（1）
- 第4回 身体部位の用語
- 第5回 骨の用語
- 第6回 英文法の重要項目（2）
- 第7回 筋肉の用語
- 第8回 神経の用語
- 第9回 英文法の重要項目（3）
- 第10回 英文読解（1）
- 第11回 英語論文の基礎知識（1）
- 第12回 英文読解（2）
- 第13回 英語論文の基礎知識（2）
- 第14回 運動療法に関する用語
- 第15回 英文読解（3）

## ■ 評価方法

出席および受講態度（30% 予習や授業中の発表も含める）、小テストおよびレポート課題（30%）、試験（40%）の結果を総合的に評価します。

## ■ 教科書

書 名：カタカナでわかる医療英単語（注：前期「英語コミュニケーションI」より継続使用）  
 著者名：飯田 恭子  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：実例による英文診断書・医療書類の書き方  
 著者名：篠塚 規  
 出版社：メジカルビュー社

書 名：医学英語の文法と書き方  
 著者名：横井川 泰弘  
 出版社：金芳堂

## ■ 留意事項

授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。その他諸注意については初回授業で伝えるので、受講の意思のある場合必ず初回から出席すること。

授業科目	国語表現学	担当者	岡崎 昌宏		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

レポートの作成など、大学では、自身の考えを練り、それを正確に、過不足なく表現する能力が一層求められる。そしてそれは、社会の様々な場面でも必要となる能力である。この授業では、正確な表現のために必要な知識や技術を習得するとともに、レポートの作成方法を実践的に学ぶ。また、優れた文章を読み、表現技術への意識を高める。

## ■ 目 標

自身の考えを整理し、それをレポートなどの形で正確に表現できるようになる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 概説—正確な表現の重要性
- 第2回 文章を書くための知識（1）— 表記など
- 第3回 文章を書くための知識（2）— 原稿用紙の使い方、段落など
- 第4回 正確な文章のために（1）— 説明不足の文をなくす
- 第5回 正確な文章のために（2）— 過度な説明、重複説明をなくす
- 第6回 正確な文章のために（3）— 長くなってしまった文を、短くする
- 第7回 正確な文章のために（4）— 句読点への意識を高める、語彙力を高める
- 第8回 論文・レポートの文章を読み、その表現の特徴を学ぶ
- 第9回 レポートを書く（1）— 様々な事実を集める
- 第10回 レポートを書く（2）— 意見の方向を定める
- 第11回 レポートを書く（3）— 自説の明確な根拠を考える
- 第12回 レポートを書く（4）— 基本的な展開方法を知る
- 第13回 レポートを書く（5）— レポートを書き、推敲する
- 第14回 様々な文章に接し、表現への意識を高める
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

平常点（授業中の課題への取り組みも含む）100%

## ■ 教 科 書

授業中に配布するプリントを用いる。

## ■ 参 考 図 書

必要に応じて授業中に紹介する。

## ■ 留 意 事 項

--

授業科目	論理学	担当者	辻 虎志		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

大学の講義やゼミでは、レポート・意見の発表・ディベート・卒業論文などが課されます。この講義では、こうしたこと全体に必要な不可欠な「考える」技術、および「読む・書く」技術の習得を目指します。特に、この「論理学」では、①問題解決に必要な資料や文献を分析し、それらを活用して発信する技術（コミュニケーション・リテラシー）と、②文章作成に関わるより実践的な技術や知識、つまり「論証のテクニック」といった論理的で説得力のある文章を書くためのスキル（ロジカル・コミュニケーション）を身につけることが目標となります。

## ■ 目 標

現代社会において、どのような仕事もコミュニケーションなくしては成り立ちません。将来社会人になった際、友人・知人・上司・部下・同僚と、実に様々な相手とのコミュニケーションが必要になってきます。こうした多様な相手にたいして、自分の考えを分かりやすく伝え納得してもらい、実行を意思決定してもらうことが今まで以上に求められるようになります。この講義で紹介する技術は、大学生活を有効に使うために役立つのはもちろんのこと、将来社会人となってからも、自分自身の問題解決のためや、社会に貢献するために役立つでしょう。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 はじめに
- 第2回 「メッセージ」とは何か
- 第3回 「メッセージ」と見抜く（1） — 内田樹を読む
- 第4回 「メッセージ」と見抜く（2） — 村上龍を読む
- 第5回 「メッセージ」を作る
- 第6回 「要約」とは何か
- 第7回 論理的な文章を書こう — 論文・レポートの「形」
- 第8回 わかりやすい文章を書くために（1） — 接続詞
- 第9回 わかりやすい文章を書くために（2） — パラグラフ・ライティング
- 第10回 思考の整理術 — MECE と So What? / Why So?
- 第11回 説得力を上げるために（1） — 論証とは何か
- 第12回 説得力を上げるために（2） — 妥当な論証形式（演繹）
- 第13回 説得力を上げるために（2） — ちょっと弱い論証形式（帰納など）
- 第14回 注の付け方、引用・参考文献の挙げ方
- 第15回 論文・レポートを書いてみよう

### ■ 評価方法

平常点 :30% (出席点・課題を含む)、筆記テスト :70%

### ■ 教科書

特になし

### ■ 参考図書

書名：『論文の教室 レポートから卒論まで』

著者名：戸田山和久

出版社：NHK ブックス、2002

書名：『レポートの組み立て方』

著者名：木下是雄

出版社：ちくま学芸文庫、1996

### ■ 留意事項

特になし

授業科目	人間関係学	担当者	吉富 千恵		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

人間関係とは即ち、人と人とのコミュニケーションと言っても過言ではありません。この講義では、円滑な人間関係を築き維持するための、対人コミュニケーション理論と具体的なコミュニケーションスキルについて学びます。

## ■ 目 標

対人コミュニケーションの基礎理論とスキルを理解し、福祉現場や日常の生活場面におけるコミュニケーション能力の向上を目標とします。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 コミュニケーション学とは？
- 第2回 コミュニケーション構造と機能
- 第3回 敬語と敬意表現
- 第4回 トータルコミュニケーション
- 第5回 非言語的コミュニケーション①
- 第6回 非言語的コミュニケーション②
- 第7回 アクティブ・リスニング①
- 第8回 アクティブ・リスニング②
- 第9回 コミュニケーション・スキル①
- 第10回 コミュニケーション・スキル②
- 第11回 恋愛コミュニケーション
- 第12回 就職活動コミュニケーション
- 第13回 アサーションとは？
- 第14回 アサーショントレーニング
- 第15回 総まとめ

## ■ 評 価 方 法

出席点：15回×2点＝30点（30％） 筆記試験：70点（70％）

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学	担当者	山口 忍・森岡 悦子		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

前半では、リハビリテーションにおけるコミュニケーション技術について学ぶ。後半では、コミュニケーション障害を生じる失語症、右半球損傷、脳外傷についての障害メカニズムと症状を理解し、コミュニケーション方法について学ぶ。

## ■ 目 標

リハビリテーションの臨床場面において、臨床的なコミュニケーション態度がとれ、患者および家族と対話ができるようになることを目標とする。

## ■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーションにおける「聴く」とは、どういうことか
- 第2回 リハビリテーションにおける「声をかける」とはどういうことか
- 第3回 リハビリテーションにおける「話す」とはどういうことか
- 第4回 クリアスピーチの演習
- 第5回 障害児を持つ母の手記から、嬉しかったことば、悲しかったことばの抽出
- 第6回 障害児を持つ母の手記から、嬉しかったことばのまとめ（脳の本能）
- 第7回 相手の顔を見ることと、応答性について（発達から考える）
- 第8回 右半球損傷によるコミュニケーション障害（1） 症状および障害機序を理解する。
- 第9回 右半球損傷によるコミュニケーション障害（2） 障害を理解しコミュニケーション方法を考える。
- 第10回 脳外傷によるコミュニケーション障害（1） 症状および障害機序を理解する。
- 第11回 脳外傷によるコミュニケーション障害（2） 障害を理解しコミュニケーション方法を考える。
- 第12回 失語症のコミュニケーション障害（1） 症状および障害機序を理解する。
- 第13回 失語症のコミュニケーション障害（2） 症状に応じたコミュニケーション方法を考える。
- 第14回 失語症のコミュニケーション障害（3）  
VTRを見て失語症者とのコミュニケーションのあり方について考えをまとめることができる。
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

前半授業の筆記試験40%、後半授業の筆記試験20%、後半授業の小レポート等20%、全体の出席20%

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項



授業科目	心理学	担当者	鈴木 暁子		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

心理学は人間の心や行動を客観的に理解する為の学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。

## ■ 目 標

人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。

## ■ 授業計画

- 第1回 心理学とは①
- 第2回 心理学とは②
- 第3回 心理学とは③
- 第4回 人の性格①
- 第5回 人の性格②
- 第6回 人の性格③
- 第7回 知能と記憶①
- 第8回 知能と記憶②
- 第9回 学習①
- 第10回 学習②
- 第11回 動機づけと情動①
- 第12回 動機づけと情動②
- 第13回 人と音楽
- 第14回 コーチング
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

期末試験80% 提出課題10%、出席・授業態度10%

## ■ 教科書

書名：改訂版 はじめて出会う心理学  
 著者名：長谷川寿一 他  
 出版社：有斐閣アルマ

## ■ 参考図書

書名：「心理学概論」 山内弘継・橋本宰監修 ナカニシヤ出版  
 著者名：山内弘継・橋本宰監修  
 出版社：ナカニシヤ出版

---

書名：ニセ心理学にだまされるな！  
 著者名：古澤照幸  
 出版社：同友館

## ■ 留意事項

--

授業科目	言語学	担当者	松井 理直		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

ことばと論理の関係、ことばと思考の関係について学習する。

## ■ 目 標

ことばと論理の関係について深く理解すると共に、ことばの障害についても基本的な理解を持てるようになることを目指す。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 導入：ことばとは何か
- 第2回 ことばと論理の関係（1）：正しい医療診断を行うために
- 第3回 ことばと論理の関係（2）：医療現場における「仮説」
- 第4回 ことばと論理の関係（3）：医療診断に必要な必要条件と十分条件
- 第5回 ことばと論理の関係（4）：医療診断における「真」と「偽」
- 第6回 ことばと「仮説」の関係の再考
- 第7回 仮説と錯誤
- 第8回 第一種のエラーと第二種のエラー
- 第9回 ことばと確率：医療診断におけるエビデンス
- 第10回 ことばと最適性の概念
- 第11回 日本語の構造と心理
- 第12回 日本語の「態」をめぐって
- 第13回 日本語のモダリティと対人関係
- 第14回 自閉症児のことば
- 第15回 授業のまとめ

## ■ 評価方法

授業内に行うミニテスト：50% 最終テスト：50%

## ■ 教 科 書

使用しません。毎回、プリントを配布します。

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

積極的な授業参加を望みます。

授業科目	情報処理学	担当者	永井 文子		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

Microsoft Windows© および Microsoft Office© アプリケーションを使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要なコンピュータスキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。

## ■ 目 標

- ・校内コンピュータシステム「ムードル」の特徴と利用上の注意事項を理解し利用できる。
- ・PC上のメールシステムを使用し、各種メールの送受信ができる。
- ・文書作成ソフトを使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。
- ・表計算ソフトを使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。
- ・プレゼンテーション資料作成ソフトを使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。
- ・レポートの特徴と作成の流れ、ルールとマナーの存在を理解してレポートを作成できる。
- ・セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応／対策を理解できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーションと校内システム
- 第2回 情報倫理、インターネット、eメール
- 第3回 文書作成① Word2010概要、入力、レポート作成と書式
- 第4回 文書作成② レポート作成と構成
- 第5回 文書作成③ 表作成、印刷、オブジェクト利用
- 第6回 文書作成課題 作成・提出
- 第7回 表計算① Excel2010概要、入力、集計表作成
- 第8回 表計算② 集計表作成、シート操作
- 第9回 表計算③ 集計表管理、関数
- 第10回 表計算④ グラフ作成、印刷
- 第11回 表計算課題 作成・提出
- 第12回 プレゼンテーション① PowerPoint2010概要、入力、保存
- 第13回 プレゼンテーション② 発表資料作成と特殊効果
- 第14回 プレゼンテーション課題 作成・発表
- 第15回 総合演習課題 作成・提出

## ■ 評価方法

受講態度20%、提出課題60%、総合演習20%

## ■ 教科書

書名：Windows 7対応 30時間でマスター Office2010 (ISBN978-4-407-32095-4)  
 著者名：実教出版編集部 編  
 出版社：実教出版株式会社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	医療情報学	担当者	星 雅文		
学科名	理学療法専攻	学年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

現代の保健・医療・福祉の分野において ICT の活用は必須となっており、将来、医療・福祉現場で働く者として、最低限習得が必要とされる基礎知識がある。本講義では医療情報システムが現場で如何に利用されているかについて解説し、さらに今後の調査研究活動に必要なデータ解析の基礎知識についても講義する。

## ■ 目 標

- ・ ICT の活用に必要な基礎知識を修得する。
- ・ 医療情報システムが実際にどのように利用されているかを理解する。
- ・ 調査研究におけるデータ解析の基礎知識について学ぶ。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 情報学（Ⅰ） 情報と社会の関わりについて
- 第2回 情報学（Ⅱ） 情報の表現と処理について
- 第3回 情報学（Ⅲ） ネットワーク技術について
- 第4回 医療情報システム（Ⅰ） オーダーエントリーシステムについて
- 第5回 医療情報システム（Ⅱ） 電子カルテシステムについて
- 第6回 医療情報システム（Ⅲ） 医用画像システムとリハビリテーションについて
- 第7回 医療情報システム（Ⅳ） リハビリテーション関連情報システムについて
- 第8回 医療情報システム（Ⅴ） 医療ネットワークシステムについて
- 第9回 医療情報の倫理 情報倫理・関係法規について
- 第10回 教室講義のまとめ／小テスト
- 第11回 演習：医療統計（Ⅰ） 医療評価指標について
- 第12回 演習：医療統計（Ⅱ） 尺度と度数分布・基本統計量について
- 第13回 演習：医療統計（Ⅲ） 仮説検定について
- 第14回 演習：調査研究（Ⅰ） 精度と真度／コホート研究とケースコントロール研究について
- 第15回 演習：調査研究（Ⅳ） 因果関係について

## ■ 評価方法

出席 30% / 小テスト 20% / 課題提出 10% / 期末レポート 40%

## ■ 教科書

適宜資料を配布

## ■ 参考図書

書名：医療情報 医療情報システム編（第2版）

著者名：日本医療情報学会編集

出版社：篠原出版新社

書名：医療情報 情報処理技術編（第2版）

著者名：日本医療情報学会編集

出版社：篠原出版新社

書名：第2版 医療情報サブノート

著者名：日本医療情報学会医療情報技師育成部会 編集

出版社：篠原出版新社

## ■ 留意事項

授業の進捗状況により授業計画を適宜変更することがある。

なお、情報処理演習室における演習講義（第11～15回）では各回の課題提出を電子メールにて行うため、前期科目の「情報処理」などにおいて、Yahoo!メール・GmailなどのWebメールのアカウントを取得しておくこと。

授業科目	統計学	担当者	武川 公		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

実際のデータ処理に役立つ統計学を学びたい。そのため数学的厳密さは必要最小限にとどめる。また離散確率過程のみを取り扱い、問題を解くことによって内容を理解させる。

## ■ 目 標

エクセルを用いて統計処理ができ、さらに高度な統計処理を目指すことの出来る基礎力を養うこと、を目標とする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 確率と統計
- 第2回 統計学の基礎 1
- 第3回 統計学の基礎 2
- 第4回 統計学の基礎 3
- 第5回 相関係数、回帰直線演習 (1)
- 第6回 相関係数、回帰直線演習 (2)
- 第7回 統計学の基礎 4
- 第8回 中心極限定理演習
- 第9回 統計学の基礎 5
- 第10回 正規検定演習 (1)
- 第11回 正規検定演習 (2)
- 第12回 t 検定演習 (1)
- 第13回 t 検定演習 (2)
- 第14回 区間推定演習
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

筆記試験 (約80%)、出席状況 (約20%) を総合的に評価する。

## ■ 教 科 書

書 名：プリント講義

## ■ 参 考 図 書

書 名：概説確率統計 [第2版]  
 著者名：前前園宣彦  
 出版社：サイエンス社

## ■ 留 意 事 項

エクセルをつかって授業を進めたいので、エクセルの基本は理解しておいてください。

授業科目	文学	担当者	蘆田 耕一		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

平安時代の著名な『伊勢物語』を読みます。全部で125段から成りますが、なかなか味わい深いものばかりですが、このうち特に有名な段を取り上げます。原文にとらわれることなく現代語訳を参考にしながら読んでいきたいと思えます。

## ■ 目 標

各々短編で、話の内容は簡単ですが、どこがこの話のポイントなのかを理解してください。また、特にこの作品は和歌が大事です。和歌が物語の中でどう機能しているかを考えていきます。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 平安時代の話および伊勢物語の概要
- 第2回 第1段の「初冠」の段
- 第3回 「初冠」の続き
- 第4回 第5・6段の「二条后」の段
- 第5回 「二条后」の続き
- 第6回 第9段の「東下り」の段
- 第7回 「東下り」の続き
- 第8回 「東下り」の続き
- 第9回 第23段の「筒井筒」の段
- 第10回 「筒井筒」の続き
- 第11回 第69段の「狩使い」の段
- 第12回 「狩使い」の続き
- 第13回 第82・83段の「惟喬親王」の段
- 第14回 「惟喬親王」の続き
- 第15回 「惟喬親王」の続き

## ■ 評 価 方 法

出席点（20%）、筆記試験（80%）で評価する。

## ■ 教 科 書

なし。プリントを配布する。

## ■ 参 考 図 書

なし

## ■ 留 意 事 項

特になし。

授業科目	教育学	担当者	加藤 啓一郎		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

本人の主体性の尊重、関係性の重視という視点に立って、発達、成長の過程を捉えなおし、教育的な働きかけについて実践研究を通して検討する

## ■ 目 標

教育についての問題を、社会とのかかわりの中で捉えなおすことを通して、医療関係者に必要とされる教育学的思考や手法を身につけることを目的とする

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 主体性、関係性の重視と教育
- 第3回 生涯発達の視点と障害について1
- 第4回 生涯発達の視点と障害について2
- 第5回 生涯発達の視点と障害について3
- 第6回 生涯発達の視点と障害について4
- 第7回 生涯発達の視点と障害について5
- 第8回 教育における主体性の問題を捉えなおす
- 第9回 家族、地域の問題について
- 第10回 実践的検討1
- 第11回 実践的検討2
- 第12回 実践的検討3
- 第13回 実践的検討4
- 第14回 実践的検討5
- 第15回 これからの課題

## ■ 評 価 方 法

レポート課題による。

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

教科書は使用しない。プリントを配布する。



授業科目	法学概論	担当者	家 正治		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

「社会あるところに法あり」と言われるが、道徳規範、宗教規範、習俗規範等に対する法規範の特徴を把握し、今日の国内法と国際法が当面する主要問題と課題を考察する。

## ■ 目 標

本講義を通じて、国内社会における「人の支配」に対する「法の支配」また国際社会における「力の支配」に対する「法の支配」を理解して、リーガル・マインド、「法的ものの考え方」に接近する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 法学を学ぶにあたって
- 第2回 法とは何か（法と道徳）
- 第3回 法の発展と法の体系
- 第4回 近代国家と憲法
- 第5回 日本国憲法と国民主権主義
- 第6回 日本国憲法と基本的人権尊重主義
- 第7回 日本国憲法と平和主義
- 第8回 日本国憲法と権力分立
- 第9回 法と裁判
- 第10回 国内法と国際法
- 第11回 戦争の違法化と安全保障
- 第12回 人民の自決権とその発展
- 第13回 国際人権保障とその発展
- 第14回 地球環境の保護とその展開
- 第15回 国内社会と国際社会における「法の支配」

## ■ 評 価 方 法

試験70%、出席点30%

## ■ 教 科 書

書 名：法学入門〔第6版〕  
 著者名：末川博編  
 出版社：有斐閣

## ■ 参 考 図 書

- 書 名：現代法学入門〔第4版〕  
 著者名：伊藤正己・加藤一郎 編  
 出版社：有斐閣
- 書 名：法における常識  
 著者名：P.G. ヴィノグラドフ著 / 末延三次・伊藤正己 訳  
 出版社：岩波書店
- 書 名：国際化時代の人権問題  
 著者名：田畑茂二郎 著  
 出版社：岩波書店

## ■ 留 意 事 項

問題意識を持つとともに日常的な勉学への努力を望みます。

授業科目	国際社会と日本	担当者	家 正治		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

国際社会の構造を理解し、現代国際社会が直面する「戦争と平和問題」「途上国問題」「人権問題」「地球環境問題」等の全人類的課題をとり上げながら、その中で占める日本の位置と係わりについて考察する。

## ■ 目 標

国際社会の構造や実態を把握し、国際社会を規律している原則や規範を理解・認識するとともに、現代国際社会における日本の位置と役割について理解できるようにする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 国際社会の成立と近代国際社会
- 第2回 国際社会の発展と現代国際社会
- 第3回 国際社会を動かす主要なアクター
- 第4回 戦争の違法化と国際紛争の平和的解決
- 第5回 勢力均衡政策から集団安全保障体制へ
- 第6回 平和維持活動（PKO）の位置と役割
- 第7回 軍縮の現状と阻害要因
- 第8回 日米安全保障体制の展開
- 第9回 先進国と発展途上国をめぐる国際経済問題①
- 第10回 先進国と発展途上国をめぐる国際経済問題②
- 第11回 人権の国際的保障とその発展①
- 第12回 人権の国際的保障とその発展②
- 第13回 難民問題とその庇護と保護
- 第14回 地球環境保護と国際協力
- 第15回 今後の国際社会と日本

## ■ 評 価 方 法

試験70%、出席点30%

## ■ 教 科 書

書 名：新版国際関係  
 著者名：家正治編  
 出版社：世界思想社

## ■ 参 考 図 書

- 書 名：国際機構〔第四版〕  
 著者名：家正治・小畑郁・桐山孝信編  
 出版社：世界思想社
- 書 名：国際紛争と国際法  
 著者名：家正治、末吉洋文、桐山孝信、岩本誠吾、戸田五郎 共著  
 出版社：嵯峨野書院
- 書 名：ポスト冷戦時代の国連  
 著者名：カレン・A・ミングスト、マーガレット・P・カーンズ / 家正治・桐山孝信 監訳  
 出版社：世界思想社

## ■ 留 意 事 項

問題意識を持つとともに日常的な勉学への努力を望みます。

授業科目	物理学	担当者	非常勤		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

リハビリテーションの基礎となる力学分野、および医療機器と関連が深い電磁気学分野を、演習を中心に学ぶ。

## ■ 目 標

革新的リハビリテーション技術の開発が出来る人材を育成するために、物理学における課題解決と研究開発のスキーマを習得させる。

合わせて、専門科目への移行をスムーズにさせる。

## ■ 授業計画

- 第1回 物理学の発想と方法 (P.1～14)
- 第2回 ベクトルによる力の表記 (P.15～19)
- 第3回 運動の解析 (I) (P.19～22)
- 第4回 運動の解析 (II)、運動の法則 (I) (P.22～24)
- 第5回 運動の法則 (II)、演習 (P.25～28)
- 第6回 運動の法則 (III)、運動量、エネルギー (P.29～41)
- 第7回 モーメントと応力 (P.42～47)
- 第8回 回転運動 (I) (P.48～52)、前半部分についてのテスト
- 第9回 回転運動 (II) (P.53～55)、流体 (I) (P.189～191)
- 第10回 流体 (II) (P.192～200)、熱 (P.175～187)
- 第11回 電気力と電場 (P.59～71)
- 第12回 電場のエネルギー (P.71～80)
- 第13回 コンデンサー (P.81～94)
- 第14回 電流回路 (P.95～110)
- 第15回 電流と磁気、医療への応用 (P.111～136)

## ■ 評価方法

試験70%、平常点30% (試験には小テストを含む)

## ■ 教科書

書名：生命科学のための基礎シリーズ 物理  
 著者名：監修：大島泰郎 著者：川久保達之 他3名  
 出版社：実教出版

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

第8回の小テストは必ず受験すること。

授業科目	生物学	担当者	林 研		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

細胞、遺伝子を中心に、生物がどのように成り立ち機能しているのかを学ぶ。

### ■ 目 標

生命の基本的なシステムをもとに体のはたらきを理解できるようになること。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 ガイダンス、生命とは何か
- 第2回 細胞（1） 細胞の種類と構造
- 第3回 細胞（2） 細胞の分裂と分化
- 第4回 特殊な細胞（1） 動物の発生と幹細胞
- 第5回 特殊な細胞（2） 神経、筋、骨
- 第6回 遺伝子（1） 遺伝の法則
- 第7回 遺伝子（2） DNA と遺伝子
- 第8回 遺伝子（3） タンパク質の合成
- 第9回 代謝（1） 酵素と物質代謝
- 第10回 代謝（2） エネルギー代謝
- 第11回 代謝（3） 生態系の物質循環
- 第12回 生体の維持（1） 内分泌系と自律神経系
- 第13回 生体の維持（2） 免疫
- 第14回 バイオテクノロジー
- 第15回 まとめと復習

### ■ 評 価 方 法

筆記試験 80%、小テスト 20%

### ■ 教 科 書

書名：ZEROからの生命科学  
 著者名：木下勉、小林秀明、浅賀宏昭  
 出版社：南山堂

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

授業科目	生活科学 (福祉住環境論)	担当者	山田 隆人		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

OT・PTの職能の一つとして、日常生活活動の支援がある。環境因子である居住環境を改善することで、対象者の生活機能の維持・向上を計ります。本講義では、居住環境の改善に関連する制度や施策、関連する職能との連携および居住環境改善を行う為の基礎知識を学びます。

## ■ 目 標

居住環境改善に関する法制度や社会状況を理解する  
 高齢者や障害者の暮らしの状況を理解する  
 障害の特性を理解し、環境支援の方法を理解する

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境
- 第2回 介護保険制度の概要
- 第3回 高齢者向けの住宅施策の変遷と概要
- 第4回 障害者を取り巻く社会状況と住環境
- 第5回 障害者福祉施策の概要、障害者向けの住宅施策の変遷と概要
- 第6回 高齢者に多い疾患別に見た福祉住環境整備1 脳血管障害1
- 第7回 高齢者に多い疾患別に見た福祉住環境整備2 脳血管障害2
- 第8回 高齢者に多い疾患別に見た福祉住環境整備3 脊髄損傷1
- 第9回 高齢者に多い疾患別に見た福祉住環境整備2 脊髄損傷2
- 第10回 住環境整備とケアマネジメント
- 第11回 福祉住環境整備の進め方
- 第12回 福祉住環境整備の共通基本技術1
- 第13回 福祉住環境整備の共通基本技術1
- 第14回 住居改善の実際
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

成績は、出席5割、提出物5割で判断します。講義の中で、レポート等の提出課題があります。

## ■ 教 科 書

書名：改訂版 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト  
 著者名：東京商工会議所 編  
 出版社：東京商工会議所

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

出席の代筆等不正行為があった場合は、相当の対処を行います。  
 受講時は学生証を必ず携帯すること。他の学生の迷惑になる行為は慎むようにして下さい。  
 15回の講義では、教科書すべての内容を網羅することはできません。検定試験を受ける予定の方への対応は、別途で行う予定です。

授業科目	自然科学概論	担当者	林 研		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

### ■ 内 容

自然科学の方法、歴史、現状などを様々な観点から紹介する。

### ■ 目 標

科学の方法を理解した上で、自然科学の様々な分野について幅広い知識を身につけ、現代の諸問題を考える力をつけることを目標とする。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 ガイダンス、自然科学とは何か
- 第2回 科学の方法（1）
- 第3回 科学の方法（2）
- 第4回 宇宙と物質（1）
- 第5回 宇宙と物質（2）
- 第6回 エネルギーと環境（1）
- 第7回 エネルギーと環境（2）
- 第8回 生命（1）
- 第9回 生命（2）
- 第10回 人体の科学史
- 第11回 脳と人間（1）
- 第12回 脳と人間（2）
- 第13回 新しい科学（1）
- 第14回 新しい科学（2）
- 第15回 まとめと復習

### ■ 評 価 方 法

出席 10%、筆記試験 90%

### ■ 教 科 書

使用しません。適宜資料を配付します。

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

授業科目	栄養学	担当者	岩田 美智子		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

食品に含まれる栄養素とその代謝、ライフステージ別の栄養、及び生活習慣病と食生活について学ぶ。理解を深めるために食文化、食事摂取基準、食事バランスガイド、食品成分表等についても解説する。

## ■ 目 標

複雑な消化吸収や代謝のメカニズム、及び栄養素について学び、「食べる」ことの意味を理解する。また、自らがより良い食べ方を実践することによって、心身共に健やかな生活を送ることを目標とする。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 栄養学についての解説
- 第2回 栄養状態の評価と判定①
- 第3回 栄養状態の評価と判定②
- 第4回 栄養素の種類と働き①
- 第5回 栄養素の種類と働き②
- 第6回 栄養素の種類と働き③
- 第7回 エネルギー代謝
- 第8回 消化と吸収①
- 第9回 消化と吸収②
- 第10回 ライフステージと栄養①
- 第11回 ライフステージと栄養②
- 第12回 臨床栄養①
- 第13回 臨床栄養②
- 第14回 食文化と食生活の変遷
- 第15回 栄養バランスのとれた食生活 —食事バランスガイドの活用—

## ■ 評価方法

筆記試験80% 提出物20%

## ■ 教科書

書名：栄養学 —人体の構造と機能—  
 著者名：中村丁次  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書名：新ビジュアル食品成分表  
 著者名：新しい食生活を考える会  
 出版社：大修館書店

## ■ 留意事項

--



授業科目	基礎ゼミナール	担当者	専任教員（多数）		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	必修

## ■ 内 容

自分自身の療法士として将来像、求められる学習態度・学習方法、療法士としてのコミュニケーション技能、対象者の理解、プレゼンテーション方法、レポートの書き方などについて、講義とグループ活動とおして学ぶ。

また、療法士として求められるリスク管理やチーム医療の概要について学ぶ。

## ■ 目 標

1. 自分の将来像をイメージし、早期に大学生としての学習方法や学習に対する構えをつくる。
2. 療法士としての求められる態度・知識・技能を知り、1歩でも近づくための方向付けを行う。
3. 他者の意見を理解する能力、自分の考えを整理して表現する能力、情報を収集し整理する力、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高める。

## ■ 授業計画

- 第1回 学長講話（清野学長）
- 第2回 先輩セラピストの話を聞いてみよう
- 第3回 自分が目指す療法士像（卒業後の自分）について考え、意見交換しよう
- 第4回 自分が目指す療法士（卒業後の自分）になるために必要なこと（これからのキャンパスライフ）について考え、意見交換してみよう
- 第5回 3、4の内容をまとめて発表の準備をしよう。
- 第6回 まとめた内容を発表会しグループ間で意見交換しよう（模造紙を使用） 2会場  
1グループ発表6分 質疑6分（12分） 1会場6～7班
- 第7回 自分自身の学習方法について見直そう①  
～お互いのノートを持ち寄り、良いノートの取り方と学習方法について意見交換しまとめる～
- 第8回 自分自身の学習方法について見直そう②  
～第7回で意見交換した内容を報告する（ノートの取り方の事例報告を含む）～
- 第9回 自分自身のコミュニケーション技能について見直そう①  
～療法士としてのコミュニケーション技能に関する講義～（山口教授）
- 第10回 自分自身のコミュニケーション技能について見直そう②  
グループでの演習（ロールプレイ）をおとして、自分自身のコミュニケーション技能を知り、コミュニケーション技能向上のための方法について意見交換する
- 第11回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修） \* 1
- 第12回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講演会） \* 1
- 第13回 ハラスメントについて学ぼう \* 1
- 第14回 障がいのある当事者の話を聞いてみよう①（事前準備）
- 第15回 障がいのある当事者の話を聞いてみよう②（講話・座談会）
- 第16回 国家試験の問題を解いてみよう
- 第17回 チーム医療について学ぼう① 講義とディスカッションテーマの提示（石倉教授）
- 第18回 チーム医療について学ぼう② グループディスカッション
- 第19回 療法士としてのリスク管理について学ぼう①（福山講師）
- 第20回 療法士としてのリスク管理について学ぼう②（一次救急救命法 AED の使用方法） \* 1
- 第21回 医療・福祉に関する情報収集の方法について学ぼう 講義
- 第22回 情報の収集を実践してみよう（課題を設定し、みんなで調べてみよう）①
- 第23回 情報の収集を実践してみよう（課題を設定し、みんなで調べてみよう）②
- 第24回 収集した情報の整理方法とレポートの作成方法について学ぼう 講義
- 第25回 収集した情報を整理しレポートの作成してみよう①
- 第26回 収集した情報を整理しレポートの作成してみよう②
- 第27回 わかりやすいプレゼンテーションの方法を学ぼう 講義
- 第28回 調べた内容を発表するための準備をしよう①（パワーポイントの作成）
- 第29回 調べた内容を発表するための準備をしよう①（パワーポイントの作成）
- 第30回 調べた内容を発表してみよう 2会場  
1グループ発表6分 質疑6分（12分） 1会場6～7班



## ■ 評価方法

授業への貢献度(講義・座談会・ディスカッション時)：60%、課題点(レポート)：20%、発表点：20% \* 2

## ■ 教科書

## ■ 参考書

書名：知へのステップ 第3版

著者名：学習技術研究会

出版社：くろしお出版

書名：アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門

著者名：佐藤望 他

出版社：慶應義塾大学出版会

書名：大学基礎講座 充実した大学生活をおくるために

著者名：藤田哲也

出版社：北大路書房

書名：広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン

著者名：北尾謙治 他

出版社：ひつじ書房

## ■ 留意事項

\* 1 第11回、12回、20回に関しては、外部講師の都合により日程を変更する可能性があります。

\* 2 授業を欠席した場合は、該当回の授業への貢献度、課題、発表点は0点となる。

授業科目	チーム医療論	担当者	阿部・今井・森田		
学科名	理学療法学専攻	学年	4年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

患者の治療という共通の目的を達成するために医療現場では様々な職種がそれぞれの専門を生かし協調して働くことが必要である。これがチーム医療である。皮相なチーム医療の解釈では、医師によるパートナーリズムを排して、職種の上下なく協調して医療をすることとしているが、リーダーシップのないチーム医療は危険である。本講義では、各自が、実習中の経験をもとにチーム医療について実践例をレポートにまとめ報告し、そのレポートも踏まえて医師、理学療法士、看護師、などの資格を持つ教官が講義をおこなう。

## ■ 目 標

チーム医療とは、チームリーダーの下に、自己の専門性を十分に理解をした応分の技量をもつ専門職種が各々の役割を認識し、問題点と療養目標を共有することの重要性を正しく認識し、各専門職種間の緻密な連携・協働を行うことである。こうした認識を踏まえた上で、本講義の目標は、各自の経験と講義から、の本質を理解し、医療チームとして機能するために必要なことは何かを学習し理解することである。

## ■ 授業計画

- 第1回 チーム医療の実際（1）今井
- 第2回 チーム医療の実際（2）今井
- 第3回 チーム医療の実際（3）
- 第4回 チーム医療の実際（4）
- 第5回 チーム医療論 概論（1）阿部
- 第6回 チーム医療論 概論（2）阿部
- 第7回 チーム医療の実際と必要な知識（1）今井
- 第8回 チーム医療の実際と必要な知識（2）今井
- 第9回 チーム医療の実際と必要な知識（3）今井
- 第10回 チーム医療の実際と必要な知識（4）今井
- 第11回 チーム医療実践のために必要な条件と能力（1）
- 第12回 チーム医療実践のために必要な条件と能力（2）
- 第13回 チーム医療実践のために必要な条件と能力（3）
- 第14回 チーム医療実践のために必要な条件と能力（4）
- 第15回 総括 今井

## ■ 評価方法

出席 30% 症例報告 30% 総括レポート 40%

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	スポーツ医学	担当者	中村 憲正		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

スポーツ医学の急性および慢性の内科的・整形外科的疾患について学ぶ。スポーツ選手の健康管理、トレーニングによる生理的適応現象、トレーニングによる病的現象、外傷、スポーツによる内科的・整形外科的障害とその対策。生活習慣病、フィットネスについて知識を得る。

## ■ 目 標

スポーツ活動の場において、医療スタッフ、教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得する。

## ■ 授業計画

- 第1回 スポーツ医学概論 スポーツと健康、エイジングについて学ぶ
- 第2回 運動の生理、病理学 力学刺激による生体反応を学ぶ
- 第3回 スポーツ障害総論1 内科的なスポーツ障害について学ぶ
- 第4回 スポーツ障害総論2 外科的なスポーツ障害について学ぶ
- 第5回 部位別スポーツ障害 頭頸部・体幹
- 第6回 部位別スポーツ障害 上肢
- 第7回 部位別スポーツ障害 下肢
- 第8回 アンチドーピング
- 第9回 スポーツにおけるメディカルサポートシステムの構築 その理論と実際
- 第10回 フィジカルトレーニングの理論と実践 その最先端を学ぶ
- 第11回 アスレティックトレーナーとは
- 第12回 スポーツ現場とスポーツ医学1 スポーツ現場で発生しやすいスポーツ医学的問題について学ぶ。
- 第13回 スポーツ現場とスポーツ医学2 スポーツ現場におけるコンディショニングについて学ぶ。
- 第14回 スポーツと栄養
- 第15回 予備日

## ■ 評価方法

レポート100%

## ■ 教科書

書 名：新板スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド

著者名：臨床スポーツ医学編集委員会

出版社：文光堂

書 名：アルレティックリハビリテーションガイド 競技復帰・再発予防のための実践的アプローチ

著者名：福林 徹

出版社：文光堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	リハビリテーション概論	担当者	佐藤 秀紀		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

本授業では、リハビリテーションに対する理解と正しい知識をもって各専門分野に活用できるようにする。

## ■ 目 標

リハビリテーション本来の理念を歴史的背景から理解でき、その上でリハビリテーション医療の対象や治療手段について基本的な知識を深めるようにする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 リハビリテーションの理念
- 第2回 リハビリテーションの諸段階
- 第3回 リハビリテーションの過程
- 第4回 障害の種類とその様相
- 第5回 障害と障害分類
- 第6回 高齢障害者の現状（閉じこもり：廃用症候群：ロコモティブシンドローム）
- 第7回 高齢者の身体的特徴とリハビリテーション
- 第8回 高齢者の機能障害 高齢者の転倒と骨折
- 第9回 高齢者の心理的特徴 認知症とそのリハビリテーション
- 第10回 障害と心理 高次脳機能障害
- 第11回 障害の受容とノーマライゼーション
- 第12回 障害とリハビリテーション
- 第13回 発達障害児とリハビリテーション
- 第14回 地域におけるリハビリテーション
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

小テスト50%、学期末試験 50%

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

書 名：『入門 リハビリテーション概論』  
 著者名：中村隆一編  
 出版社：医歯薬出版

## ■ 留 意 事 項

授業科目	リハビリテーション医学	担当者	阿部 和夫		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

リハビリテーション医学の講義では、リハビリテーション医学の目的である、「障害を持つ人々を身体的、精神的、社会的、経済的にできる限り自立させる」ことをどのように達成したら良いのかを考える機会を受講者に提供したいと思います。

## ■ 目 標

講義を参考にして、リハビリテーションに対する自分の考えを持つことができ、リハビリテーション関連職種の専門家を目指すための明確な動機付けができることを期待しています

## ■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーションとは（リハビリテーションの定義、目的）
- 第2回 疾病と障害について
- 第3回 リハビリテーションにおける障害の評価（障害の捉え方）
- 第4回 心理学（神経心理学、臨床心理学、など）とリハビリテーション
- 第5回 発達とリハビリテーション
- 第6回 リハビリテーションの段階
- 第7回 リハビリテーションの実際
- 第8回 各論のための概説（評価法、検査法）
- 第9回 脳血管障害
- 第10回 脳外傷における高次脳機能障害
- 第11回 脊髄損傷
- 第12回 変性疾患
- 第13回 筋疾患
- 第14回 末梢神経疾患
- 第15回 補遺、まとめ

## ■ 評価方法

試験100%

## ■ 教科書

書 名：リハビリテーション概論 医学生・コメディカルのための手引書  
 著者名：上好昭孝、土肥信之  
 出版社：永井書店

## ■ 参考図書

書 名：神経の病気  
 著者名：図説カラダ大辞典編集委員会 編  
 出版社：金沢医科大学出版局

.....

書 名：神経心理学入門  
 著者名：山鳥重  
 出版社：医学書院

## ■ 留意事項

私語など、他の受講者および講義をしている私の迷惑になる行為は、言うまでもなく厳禁です。医療業界で働くための最低限の常識を身につけて講義に望んでください。

授業科目	言語聴覚概論	担当者	山口 忍		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

言語聴覚士が担当する言語聴覚嚥下障害の概要について知る。臨床場面で遭遇する失語症・運動性構音障害の方とのフリートークについて、留意点を知るとともに、実際の患者様と「話そう会」を通じてコミュニケーションを図る。

## ■ 目 標

言語聴覚障害について知り、特に嚥下障害のメカニズムと評価・訓練について説明ができるようになる。言語障害の患者様と、障害に配慮したフリートークを実施できるようになる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 言語・聴覚・嚥下障害の概要
- 第2回 コミュニケーション・リハビリテーション学の復習 聞くことと話すこと
- 第3回 小児領域：発達遅滞
- 第4回 小児領域：発達障害
- 第5回 嚥下障害：嚥下の基本的メカニズムと嚥下障害の実態
- 第6回 嚥下障害：評価と訓練
- 第7回 聴覚障害：聴覚障害者の聞こえと補聴機器
- 第8回 失語症・運動性構音障害の症状
- 第9回 失語症・運動性構音障害の患者様とのコミュニケーションの注意点
- 第10回 失語症・運動性構音障害の会話場面の VTR 視聴と演習
- 第11回 話そう会の事前授業
- 第12回 話そう会の実施
- 第13回           〃
- 第14回           〃
- 第15回 話そう会の振り返りとレポート作成

## ■ 評 価 方 法

話そう会の出席を重視（80%）して評価する 残り20%はレポート評価

## ■ 教 科 書

書 名：絵でわかる言語障害－ことばのメカニズムから対応まで  
 著者名：毛束真知子  
 出版社：学研

## ■ 参 考 書

## ■ 留 意 事 項

話そう会は、土曜日に実施する。日程は、開講後追って知らせる。

授業科目	看護学・介護学概論	担当者	森田 婦美子・橋本 卓也		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

リハビリテーションの対象者は人間であり、人間を理解することはセラピストにとって大変重要な課題である。看護学を通して人間理解を深めるとともに、セラピストが「いのち」に向き合う大切さを学習する。また、介護学では近年、重要視されている「キュアからケアへ」という理念に内包されている「治療から全人的ケア」へ、「医学モデルから生活・社会モデル」への転換という視点を共有するとともに、「利用者本位」や「自己決定」等の理念・アプローチを巡って利用者－介護者間に生起する「ジレンマ」についても考察する。また、重度の脳性マヒ者から提起された「介助者手足論」という考え方を通して利用者の尊厳を支えるケアの在り方や自立（自律）支援をめざすケアについて理解を深める。

## ■ 目 標

- (看護学) ①看護の概説を学び、チーム医療の一員である看護師と看護の機能および役割について理解する。  
②生命の尊厳について考える。
- (介護学) ①日本が抱える介護問題の実態および、その要因について理解する。  
②利用者主体・当事者主体の視点にたった介護（介助）のあり方について考察することができる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 看護の歴史からみた看護の役割  
第2回 看護の理解とICF  
第3回 人間理解力を高めるコミュニケーション 傾聴と共感  
第4回 ライフサイクルと健康  
第5回 看護各領域とその実践  
第6回 看護とリハビリテーションの連携  
第7回 いのちの誕生と生命倫理  
第8回 ターミナルケアと看取り  
第9回 日本が抱える介護問題の背景（日本の近代化と少子・高齢化問題）  
第10回 介護に関する保健・福祉政策の動向と我が国の介護制度の流れ  
第11回 介護の原理性（介護の本質及び全人的視点にたったケアのあり方）  
第12回 介護実践を巡るジレンマについて  
第13回 重度障害者から提起された「介助者手足論」を通して利用者本位の概念を捉え返す  
第14回 医療・保健・福祉領域におけるチームアプローチと協働の視点  
第15回 感情労働としてのケアワーク

## ■ 評 価 方 法

筆記試験 50% レポート 30% 出席 20%、として総合的に評価する。

## ■ 教 科 書

特になし

## ■ 参 考 図 書

特になし

## ■ 留 意 事 項

授業は、パワーポイント、配布資料、視覚教材等を使って行う。

授業科目	疫学・公衆衛生学	担当者	白井 文恵		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

地域で生活する人々の健康の維持・増進・向上のために必要な公衆衛生学について学ぶ。

## ■ 目 標

- ①健康を守る社会の仕組みを理解する。
- ②健康に関する研究手法である疫学について理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 公衆衛生の意義
- 第2回 疫学
- 第3回 統計（人口統計）
- 第4回 生活習慣病
- 第5回 母子保健
- 第6回 高齢者保健
- 第7回 高齢者福祉
- 第8回 精神保健、障害児・者対策
- 第9回 感染症対策①（関係法規）
- 第10回 感染症対策②（関係法規）
- 第11回 感染症対策③（食品衛生）
- 第12回 感染症対策④（性感染症、肝炎）
- 第13回 感染症対策⑤（結核、インフルエンザ）
- 第14回 社会保障制度
- 第15回 関係法規

## ■ 評 価 方 法

筆記試験100%

## ■ 教 科 書

書 名：国民衛生の動向・厚生指標 増刊 2012/2013  
 出版社：厚生労働統計協会

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項



授業科目	救急医学・救急措置法	担当者	藤岡 他		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

本講義では、救急医学の概要と救急措置法について学ぶ。蘇生法、止血法、体位保持法、固定法、運搬法を学習する。リハビリテーション医療の対象者は、脳血管障害、循環器疾患等の基礎疾患を有しており、対象者の評価やリスク回避についても広く学習する。

## ■ 目 標

救急病態を理解し、緊急場面で必要となる蘇生法、止血法、包帯法、体位保持法、固定法、運搬法を修得する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 救急医学総論 (浦上)
- 第2回 呼吸器、循環器の救急病態と処置法 (浦上)
- 第3回 循環器、代謝系疾患の救急病態と処置法 (浦上)
- 第4回 心肺停止の病態 ショックの病態 (神納)
- 第5回 心肺停止の処置 ショックの処置 (堀江)
- 第6回 外傷の病態 環境障害の病態 (神納)
- 第7回 外傷の処置 環境障害の処置 (堀江)
- 第8回 意識障害の病態 吐下血と腹痛の病態 (神納)
- 第9回 意識障害の処置 吐下血と腹痛の処置 (甲田)
- 第10回 止血法 ① (森田)
- 第11回 止血法 ② (森田)
- 第12回 緊急出産 (森田)
- 第13回 消化器、内分泌疾患の救急病態と処置法 (藤岡)
- 第14回 感染症、アナフィラキシーの救急病態と処置法 (藤岡)
- 第15回 急性中毒、異物の救急病態と処置法 (藤岡)

## ■ 評 価 方 法

定期試験 100%

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	地域医療実践学	担当者	渡辺 克哉		
学科名	理学療法学専攻	学 年	4年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

チーム医療

## ■ 目 標

地域で医療や福祉実践をする上での必要な知識と技術を学ぶ

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 総論（地域医療実践学とは？）
- 第2回 地域医療（在宅療養支援診療所としての総論）
- 第3回 地域医療（個別症例）
- 第4回 在宅療養支援診療所（VE 評価の実際）
- 第5回 在宅療養支援診療所（歯科衛生士 / 嚥下診療について）
- 第6回 介護事業所の話（居宅 / 施設）
- 第7回 訪問看護の話
- 第8回 精神科 訪問看護
- 第9回 ケアマネージャーの話
- 第10回 ヘルパーの実際の仕事
- 第11回 病院と地域連携
- 第12回 在宅療養支援診療所の理学療法士からみた訪問リハビリテーションの実際
- 第13回 在宅療養支援診療所の作業療法士からみた訪問リハビリテーションの実際
- 第14回 在宅支援診療所を経営的視点から考える
- 第15回 在宅療養支援診療所としての看護師の動き

## ■ 評 価 方 法

出席70% 試験30%

## ■ 教 科 書

指定なし

## ■ 参 考 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	障害者福祉論	担当者	橋本 卓也		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

障害者福祉に関する理念・価値・法制度及び障害構造等を体系的に理解する。また、障害をもつ人たちの生活・教育・雇用等の実態を通して彼（彼女）らを排除する社会構造への関心と支援のあり方模索する。各自が障害者福祉の現状を把握し「医学モデル」という狭義の捉え方でなく「生活／社会モデル」の視点からこの問題を自らの課題として把握できることを目標とする。

## ■ 目 標

- ①障害者福祉における理念・価値等を理解することができる。
- ②障害をもつ人たちの生活実態を把握することができる。
- ③障害をもつ人たちの生活ニーズ等を解決するための制度・施策を把握し支援のあり方について考察することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 障害者福祉の理念及び価値
- 第2回 障害の概念及び構造について（ICIDH から ICF へ、障害を捉える各モデル）
- 第3回 障害者の法的定義と日本の障害者の実態
- 第4回 障害者福祉の史的展開及び動向（欧米と日本の差異）
- 第5回 日本の障害者福祉施策体系
- 第6回 障害者自立支援法Ⅰ
- 第7回 障害者自立支援法Ⅱ（障害者自立支援法から障害者総合福祉法へ）
- 第8回 障害者の雇用・就労の現状と課題
- 第9回 障害者の所得保障と経済的負担軽減
- 第10回 障害児教育の変遷と課題
- 第11回 障害者施設論（世界の情勢と課題及び地域移行について）
- 第12回 障害者の権利擁護（権利侵害の実態と要因）
- 第13回 障害者のセルフヘルプグループ（理念と機能・役割）
- 第14回 ゲストスピーカー（障害当事者）による講義及び交流
- 第15回 障害者ケアマネジメントと障害者の意思決定支援について

## ■ 評価方法

総合的（筆記試験 80%、出席 20%）に評価する。

## ■ 教科書

特に指定しない

## ■ 参考図書

書名：よくわかる障害者福祉  
 著者名：小澤 温編  
 出版社：ミネルヴァ書房

## ■ 留意事項

授業中の態度や私語等で騒がしい学生は減点の対象とする。

授業科目	健康科学・開発	担当者	佐藤 秀紀		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

本授業では、健康と人間の生活にかかわる心身の諸問題を課題として、生涯にわたり積極的な健康を保持増進させていくという Positive Health の観点から多様化した現代社会に対応できる健康処方について説明する。

## ■ 目 標

現代社会における人（ヒト）の適応とライフスタイルについて理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 健康科学とは何か がんを科学する
- 第2回 健康に影響する因子 喫煙の科学
- 第3回 健康に影響する因子 アルコール依存症の科学
- 第4回 生活習慣病と健康 メタボリックシンドロームの科学
- 第5回 生活習慣病と健康 血圧の科学
- 第6回 精神の健康 うつ病の科学
- 第7回 精神の健康 不安障害の科学
- 第8回 栄養と健康 ダイエットの科学
- 第9回 運動の身体的効果 ①筋力トレーニングの科学と中高年のための運動法
- 第10回 運動の身体的効果 ②骨粗しょう症の科学
- 第11回 各種疾患に対する運動処方 ①首の痛み・肩の痛み
- 第12回 各種疾患に対する運動処方 ②股関節の痛み
- 第13回 各種疾患に対する運動処方 ③膝の痛み
- 第14回 各種疾患に対する運動処方 ④手のトラブル・踵の痛み
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

小テスト50%、学期末試験50%

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

書 名：『生き方としての健康科学』  
 著者名：山崎喜比古 朝倉隆司編  
 出版社：有信堂

## ■ 留 意 事 項

授業科目	感染症学	担当者	藤岡 重和		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

感染症と人・微生物との関わり、感染防御機構、感染症の検査と診断、治療、そして感染予防策について学習する。理学療法、作業療法の領域においても、感染症については特に注意が必要であり、各種感染症について基本的理解ができるように解説する。

## ■ 目 標

1. 微生物と感染症、感染防御機構について基本的理解ができる
2. 代表的な感染症について、病原微生物とその感染経路、臨床像、診断と治療法を理解する
3. 院内感染および感染予防策について説明できる

## ■ 授 業 計 画

- |      |       |     |                          |
|------|-------|-----|--------------------------|
| 第1回  | 感染症総論 | (1) | 微生物と感染症、感染防御機構           |
| 第2回  | 感染症総論 | (2) | 感染症の検査と診断、感染症の治療         |
| 第3回  | 感染症各論 | (1) | 呼吸器感染症、結核                |
| 第4回  | 感染症各論 | (2) | 消化器感染症、食中毒               |
| 第5回  | 感染症各論 | (3) | 肝炎                       |
| 第6回  | 感染症各論 | (4) | 尿路感染症、性感染症               |
| 第7回  | 感染症各論 | (5) | 皮膚、粘膜の感染症                |
| 第8回  | 感染症各論 | (6) | 人獣共通感染症、寄生虫感染症           |
| 第9回  | 感染症各論 | (7) | 小児の感染症、母子感染              |
| 第10回 | 感染症各論 | (8) | 高齢者の感染症、日和見感染症           |
| 第11回 | 感染症各論 | (9) | 新興感染症、感染症トピックス           |
| 第12回 | 感染制御学 | (1) | 院内感染、標準予防策、感染経路別予防策      |
| 第13回 | 感染制御学 | (2) | 術後感染症、カテーテル関連感染症、針刺しと感染症 |
| 第14回 | 感染制御学 | (3) | 薬剤耐性菌による感染症、その他          |
| 第15回 | 総復習   |     |                          |

## ■ 評 価 方 法

定期試験 70%    小テスト 10%    出席、態度 20%

## ■ 教 科 書

書名：臨床微生物、医動物 (NURSING GRAPHICUS 5)  
 著者名：矢野久子、安田陽子  
 出版社：MC メディカ出版

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	医療安全学	担当者	藤岡 重和		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

頻発する医療事故を概観し、医療職を取りまく社会的環境と医療現場の現状を理解する。次に、事故発生のメカニズムと事故分析、事故対策について学習する。また、事故事例の分析を通して医療機関における安全対策のありかたについて考える。

## ■ 目 標

1. 医療事故の実際を知り、安全対策の必要性について理解する
2. 事故の発生要因について説明できる
3. 医療機関における安全対策を説明できる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 医療事故の疫学、医療事故事例の紹介
- 第2回 医療事故の定義、分類、医療事故の報告制度
- 第3回 事故発生のメカニズム
- 第4回 事故分析、事故対策
- 第5回 医療機関における安全対策 (1)
- 第6回 医療機関における安全対策 (2)
- 第7回 医療事故後の対応、医療事故に関する法的責任
- 第8回 リハビリテーション業務における安全対策
- 第9回 事例検討 (1) (講義)
- 第10回 事例検討 (2) (講義)
- 第11回 事例検討 (3) (発表)
- 第12回 事例検討 (4) (発表)
- 第13回 事例検討 (5) (発表)
- 第14回 事例検討 (6) (発表)
- 第15回 総復習

## ■ 評 価 方 法

定期試験 60%、提出課題 20%、出席、態度 20%

## ■ 教 科 書

書名：医療安全 (NURSING GRAPHICUS EX 1)  
 著者名：松下由美子、杉山良子、小林美雪  
 出版社：MC メディカ出版

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	基礎解剖学	担当者	柴田 雅朗		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に学ぶ。

## ■ 目 標

人体の構造を理解するための基礎的知識を身につける。

## ■ 授業計画

### 第1回 解剖学総論

1. 細胞・組織・器官・系 2. 肉眼解剖と組織学 3. 系統解剖と局所解剖学 4. 発生学  
5. 体表解剖学 6. 人体の正常・異常・個体差 7. 解剖学的姿勢 8. 基本的な解剖学用語

### 第2回 骨学総論 1. 骨の肉眼的構造 2. 髄腔と骨髓 3. 体腔

### 第3回 関節靭帯学総論

1. 線維性連結 2. 軟骨性連結 3. 滑膜性連結 4. 関節の一般構造（関節包、滑膜、滑液）  
5. 関節の特殊構造（関節円板、関節半月、関節靭帯、関節唇）

### 第4回 筋学総論

1. 筋の分類（平滑筋と横紋筋） 2. 随意筋と不随意筋 3. 骨格筋の基本形態  
4. 腱と腱膜 5. 筋の付着（起始と停止） 6. 筋の作用（屈曲・伸展、内転・外転、内旋・外旋）  
7. 主動筋、拮抗筋、協力筋 8. 骨格筋の補助装置（筋膜、支帯、筋間中隔、筋滑車、滑液包、腱鞘）

### 第5回 神経学総論 1

1. 中枢神経系と末梢神経系 2. 求心性神経と遠心性神経 3. 白質と灰白質  
4. 神経細胞（神経細胞体、樹状突起、軸索、髄鞘） 5. 神経線維と神経

### 第6回 神経学総論 2

1. 脊髄の白質と灰白質（前柱、後柱、前索、側索、後索） 2. 脊髄の区分（頸髄～尾髄）  
3. 脊髄髄節と脊髄神経（髄節、前根と後根、前枝と後枝）

練習問題配布（第1～6回分）

### 第7回 中間試験

組織および胚葉

1. 組織（上皮組織、支持組織） 2. 胚葉（外胚葉、中胚葉、内胚葉）  
3. 三層性胚盤と器官・組織形成

### 第8回 循環器系総論

1. 血管系の役割 2. 血管（動脈・毛細血管・静脈の構造） 3. 動脈・静脈と動脈血・静脈血  
4. 吻合 5. 終動脈

### 第9回 心臓

1. 心筋細胞 2. 心臓の位置 3. 心臓を包む膜 4. 心臓の内腔（心房と心室）  
5. 肺循環と体循環

### 第10回 心臓

1. 房室弁（腱索と乳頭筋、左房室弁・右房室弁） 2. 動脈弁（肺動脈弁・大動脈弁）  
3. 心臓の血管（冠状動脈、冠状静脈洞）

### 第11回 動脈系

1. 大動脈 2. 大動脈弓（腕頭動脈、左総頸動脈、左鎖骨下動脈） 2. 頭頸部に分布する動脈  
3. 上肢帯と上肢に分布する動脈 4. 胸部内臓・腹部内臓に分布する動脈

### 第12回 静脈系

1. 右心房に注ぐ静脈 2. 頭頸部からの静脈 3. 上肢帯と上肢からの静脈  
3. 奇静脈 4. 門脈

### 第13回 胎児循環

1. 胎盤 2. 臍静脈と臍動脈 3. 静脈管（アランチウス管） 4. 卵円孔  
5. 動脈管（ボタロー管）

リンパ系 1. リンパ管とリンパ節 2. 胸管 3. 右リンパ本幹 4. 脾臓

練習問題配布（第7～13回分）

### 第14回 総復習 1 復習のための練習問題とその解説

### 第15回 総復習 2 復習のための練習問題とその解説



## ■ 評価方法

中間試験 40% 本試験 60%

## ■ 教科書

書名：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 第4版

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項



授業科目	解剖学基礎実習	担当者	柴田 雅朗		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

上肢の骨・関節・筋・体幹の骨・関節・筋について、骨実習や組織実習、体表解剖学などを通して学ぶ。

## ■ 目 標

運動器系の解剖学を理解する上での基礎的知識を身につける。

## ■ 授 業 計 画

### 第1回 全身骨格とその分類

1. 骨の標本を使って全身骨格を作る。 2. 全身骨格を軸骨格と付属性骨格に分ける。
3. 付属性骨格をさらに分類する。 4. 海綿骨と緻密骨を区別する。

### 第2回 脊柱と体表解剖学

1. 椎骨の基本構造。 2. 頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨について観察する。
3. 自分自身の体で椎骨を触知する。

### 第3回 上肢帯骨と体表解剖学

1. 肩甲骨の各部を観察する。 2. 鎖骨の各部を観察する。 3. 肩甲骨と鎖骨を触知する。
4. 肩甲骨と鎖骨の動きを理解する。

### 第4回 胸郭と体表解剖学

1. 胸骨の各部 2. 胸骨角 3. 肋硬骨と肋軟骨 4. 真肋と仮肋 5. 肋骨の各部
6. 第一肋骨（前斜角筋結節と鎖骨下動脈溝） 7. 頸肋と腰肋 8. 胸骨と肋骨の触知

### 第5回 自由上肢と体表解剖学

1. 上腕骨の各部 2. 橈骨の各部 3. 尺骨の各部 4. 手の骨 5. 手根溝
6. 自由上肢骨の触知

### 第6回 脊柱と胸郭の連結

1. 椎骨間の連結 2. 椎間板 3. 環軸関節（正中環軸関節と外側環軸関節、環椎十字靭帯）
4. 胸郭の連結 5. 肩鎖関節 6. 胸鎖関節

### 第7回 上肢の関節と靭帯

1. 肩関節 2. 腕尺関節 3. 腕橈関節 4. 上橈尺関節 5. 下橈尺関節 6. 手関節
7. 手根中手関節 8. 中手指節関節 9. 指節間関節

復習のための練習問題配布

### 第8回 中間試験

下肢帯骨と骨盤

1. 寛骨 2. 腸骨 3. 坐骨 4. 恥骨 5. 骨盤

### 第9回 自由下肢骨

1. 大腿骨 2. 脛骨 3. 腓骨 4. 膝蓋骨 5. 足の骨

### 第10回 股関節と仙腸関節

1. 股関節の構造と動き 2. 仙腸関節の構造と動き

### 第11回 膝関節、脛腓関節と足関節

1. 膝関節の構造と動き 2. 脛腓関節の構造と動き 3. 足関節の構造と動き

### 第12回 頭蓋骨その1

1. 頭蓋を構成する骨 2. 頭蓋骨の連結 3. 泉門

### 第13回 頭蓋骨その2

1. 眼窩 2. 鼻腔 3. 副鼻腔 4. 側頭下窩 5. 翼口蓋窩 6. 顎関節

練習問題配布

### 第14回 総復習1 復習のための練習問題とその解説

### 第15回 総復習2 復習のための練習問題とその解説

## ■ 評価方法

中間試験 40% 本試験 60%

## ■ 教科書

書名：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 第4版

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	運動器系の解剖学	担当者	柴田 雅朗		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

運動器系のうち骨・関節靭帯については、解剖学基礎実習で既に学んだ。本科目では運動器系を構成しているもののうち、筋について詳細に学ぶ。

## ■ 目 標

身体の各部を構成している筋の名称、支配神経、主な作用を説明することが出来る。

## ■ 授 業 計 画

### 第1回 骨格筋の構造

1. 骨格筋線維の構造と分類
2. 筋の作用

### 第2回 頭部の筋

1. 表情筋
2. 咀嚼筋
3. 舌筋
4. 舌の異常

### 第3回 頸部の筋

1. 広頸筋
2. 胸鎖乳突筋
3. 舌骨筋群

### 第4回 頸部の筋（続き）

1. 椎前筋群
2. 斜角筋群

### 体幹の筋

1. 固有背筋

### 第5回 体幹の筋（続き）

1. 胸部の筋

### 第6回 体幹の筋（続き）

1. 腹部の筋
2. 骨盤の筋

### 第7回 上肢の筋（軸骨格から上肢帯への筋）

1. 僧帽筋
2. 肩甲挙筋
3. 菱形筋
4. 前鋸筋
5. 鎖骨下筋
6. 広背筋
7. 大胸筋
8. 小胸筋

### 第8回 上肢の筋（上肢帯から上腕骨への筋）

1. 肩甲下筋
2. 棘上筋
3. 棘下筋
4. 小円筋
5. 大円筋
6. 烏口腕筋
7. 三角筋

### 第9回 上肢の筋（上肢帯から上腕骨への筋）（続き）

1. 上腕前面の筋
2. 上腕後面の筋
3. 前腕前面の筋

### 第10回 上肢の筋（上肢帯から上腕骨への筋）（続き）

1. 前腕後面の筋

### 手の筋

1. 母指球筋
2. 小指球筋

### 第11回 下肢の筋

1. 寛骨筋
2. 大腿前面の筋
3. 大腿内側の筋
4. 大腿後面の筋

### 第12回 下肢の筋（続き）

1. 下腿前面の筋
2. 下腿外側の筋
3. 下腿後面の筋

### 練習問題配布

### 第13回 下肢の筋（続き）

1. 足底の筋

### 総復習1 復習のための練習問題とその解説

### 第14回 総復習2 復習のための練習問題とその解説

### 第15回 総復習3 復習のための練習問題とその解説

## ■ 評価方法

中間試験 40% 本試験 60%

## ■ 教科書

書名：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 第4版

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	神経系の解剖学	担当者	柴田 雅朗		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

中枢神経系および末梢神経系の各部について学習し、上行性および下行性伝導路についてを学ぶ。

## ■ 目 標

中枢神経系および末梢神経系を構成している各部の名称や機能を説明でき、上行性および下行性伝導路の種類と各伝導路の主要な部位が言える。

## ■ 授 業 計 画

### 第1回 神経系総論のまとめ

1. 基礎解剖学で学んだ神経学総論の復習
2. 髄膜、脳室、脳脊髄液

### 第2回 神経系の発生

1. 大脳、中脳、橋、延髄、小脳の発生
- 脊髄の構造

1. 基礎解剖学で学んだ脊髄の復習

### 第3回 脳の総論

1. 大脳
  2. 間脳
  3. 中脳
  4. 橋
  5. 延髄
  6. 小脳
- 大脳

1. 溝、回、葉
2. 大脳皮質

### 第4回 大脳 (続き)

1. ブロードマン野
2. 運動野、感覚野、連合野
3. 優位半球
4. 神経線維の種類

### 第5回 大脳 (続き)

1. 大脳基底核 (機能、構造、障害)
2. 内包 (構造、血管分布、脳卒中)

### 第6回 大脳 (続き)

1. 扁桃体

間脳 1. 視床 2. 視床下部

中脳 1. 中脳蓋 2. 中脳被蓋 3. 大脳脚

### 第7回 橋

延髄 1. オリーブ 2. 錐体交叉 3. 網様体

小脳 1. 構成 [区分] 2. 皮質と髄質 3. 小脳脚

### 第8回 末梢神経系

1. 脊髄神経とは
2. 脊髄神経前枝
3. 脊髄神経後枝

### 第9回 末梢神経系 (続き)

1. 腕神経叢の構成
2. 腕神経叢の障害

### 第10回 末梢神経系 (続き)

1. 脳神経の総論
2. 嗅神経、視神経
3. 動眼神経
4. 滑車神経
5. 三叉神経
6. 外転神経

### 第11回 末梢神経系 (脳神経続き)

1. 顔面神経
2. 内耳神経
3. 舌咽神経
4. 迷走神経
5. 副神経
6. 舌下神経

自律神経系

1. 自律神経とは
2. 交感神経
3. 副交感神経

### 第12回 下行性伝導路

1. 錐体路 (皮質脊髄路、皮質格路)
2. 錐体外路
3. 反射路

### 第13回 上行性伝導路

1. 温痛覚 (外側脊髄視床路)
2. 粗大触圧角 (前脊髄視床路)
3. 精細触圧角 (後索 - 内側毛帯路)
4. 深部感覚 (意識的な深部感覚: 後索 - 内側毛帯路、無意識的な深部感覚: 脊髄小脳路・楔状束小脳路)
5. 関連痛

練習問題配布

第14回 総復習 1 復習のための練習問題とその解説

第15回 総復習 2 復習のための練習問題とその解説

## ■ 評価方法

本試験 100%

## ■ 教科書

書名：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 第4版

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	内臓系の解剖学	担当者	赤松 香奈子		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

医学の基礎である解剖学のうち内臓系について、単なる形態構造のみの学習にとどまらず、関連する器官と合わせてその構造と機能を学ぶ。

## ■ 目 標

医療専門職として必要な内臓系の構造と機能を、関連器官と合わせて理解する。  
さらには適切な専門用語を用いて説明することができることを目標とする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
- 呼吸器系 (1)
- 第2回 呼吸器系 (2)
- 第3回 呼吸器系 (3)
- 第4回 消化器系 (1)
- 第5回 消化器系 (2)
- 第6回 消化器系 (3)
- 第7回 泌尿器系 (1)
- 第8回 泌尿器系 (2)
- 第9回 生殖器系 (1)
- 第10回 生殖器系 (2)
- 第11回 内分泌系 (1)
- 第12回 内分泌系 (2)
- 第13回 感覚器 (1)
- 第14回 感覚器 (2)
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

筆記試験100%とする

## ■ 教 科 書

書 名：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学  
著者名：渡辺 正仁  
出版社：廣川書店

## ■ 参 考 図 書

書 名：ネッター 解剖学アトラス  
著者名：Frank H.Netter  
出版社：南江堂

## ■ 留 意 事 項

--

授業科目	生理学	担当者	岡崎 祐香		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	必修

### ■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1個体としての機能を発揮しているかを学習する。

### ■ 目 標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力も養うことを目標とする。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 細胞と内部環境
- 第2回 細胞と内部環境
- 第3回 血液
- 第4回 循環
- 第5回 循環
- 第6回 循環
- 第7回 呼吸
- 第8回 呼吸
- 第9回 消化
- 第10回 消化
- 第11回 消化
- 第12回 排泄
- 第13回 排泄
- 第14回 酸塩基平衡
- 第15回 前期総括
- 第16回 内分泌
- 第17回 内分泌
- 第18回 筋
- 第19回 筋
- 第20回 神経総論
- 第21回 末梢神経系
- 第22回 末梢神経系
- 第23回 中枢神経系
- 第24回 中枢神経系
- 第25回 中枢神経系
- 第26回 感覚
- 第27回 感覚
- 第28回 感覚
- 第29回 代謝と体温
- 第30回 後期総括



## ■ 評価方法

試験（95%）と出席・授業態度（5%）により評価する。

## ■ 教科書

書名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」

著者名：石澤光郎 他

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書名：標準生理学

著者名：本郷利憲 他

出版社：医学書院

書名：やさしい生理学

著者名：岩瀬善彦 他

出版社：南江堂

## ■ 留意事項

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、生理学について幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んでください。また、授業時間のみでは理解は深まりませんので、自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。

授業科目	生理学実習	担当者	岡崎 祐香		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化や運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。

## ■ 目 標

実際の人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察することにより、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実習内容・データ分析についての講義
- 第3回 第1クール実習（1）
- 第4回 第1クール実習（2）
- 第5回 第1クール実習（3）
- 第6回 第2クール実習（1）
- 第7回 第2クール実習（2）
- 第8回 第2クール実習（3）
- 第9回 第3クール実習（1）
- 第10回 第3クール実習（2）
- 第11回 第3クール実習（3）
- 第12回 レポート評価（講義）
- 第13回 レポート評価（講義）
- 第14回 レポート評価（講義）
- 第15回 実習総括

## ■ 評価方法

実習態度（10%）・レポート（50%）・試験（40%）により評価する。

## ■ 教科書

特に指定しない

## ■ 参考図書

適宜紹介する

## ■ 留意事項

出席や実習中の態度も成績評価に含みます。レポート提出は期限厳守のこと。期限を過ぎての提出は認めません。レポート未提出者は再履修とします。被検者の安全や守秘義務が守られなければならない授業ですので、事前学習をしっかりと行い、真剣に取り組むこと。また、国家試験に直結する内容も含まれますので、予習・復習を各自で取り組むこと。

授業科目	運動生理学	担当者	鈴木 茉莉緒		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

身体運動において、生体内の各種機構がどのように働いているかを講義する。

### ■ 目 標

運動生理学の基礎的な知識および考え方を身につけることを目標とする。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション（運動生理学）
- 第2回 環境への適応－ストレス－
- 第3回 身体運動とエネルギー
- 第4回 身体運動と筋・骨系
- 第5回 身体運動と神経系（1）
- 第6回 身体運動と神経系（2）
- 第7回 身体運動と神経系（3）
- 第8回 身体運動と呼吸・循環器系（1）
- 第9回 身体運動と呼吸・循環器系（2）
- 第10回 身体運動と体温調節
- 第11回 身体運動と健康
- 第12回 トレーニングの科学
- 第13回 運動障害
- 第14回 身体運動とライフステージ
- 第15回 まとめ

### ■ 評 価 方 法

定期試験70%、出席30%

### ■ 教 科 書

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

授業科目	運動学総論	担当者	境 隆弘		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法と作業療法にとっての運動学（Kinesiology）は、「人間の運動の科学」であり、人間のからだの構造を学ぶ解剖学、人間のからだの機能を学ぶ生理学、そして、身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることについて学ぶ。

## ■ 目 標

運動学用語を理解し、使用できるようになる。

運動力学を理解する。

上肢・下肢の関節運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 コース・ガイダンス  
講義の進め方、評定方法の他、理学療法士、作業療法士にとっての運動学の重要性を学ぶ
- 第2回 運動学（Kinesiology）総説  
解剖学・生理学ならびに運動療法学との関連、Kinematics と Kinetics について学ぶ
- 第3回 身体運動①基本 運動学を学ぶにあたって必要な身体におけるの運動面と軸について学ぶ
- 第4回 身体運動②名称 運動学を学ぶにあたって必要な身体各部の運動方向の名称について学ぶ
- 第5回 身体運動③演習 ①②で学んだ身体運動について、演習を行い理解を深める
- 第6回 運動を構成する要素と器官① ヒトの運動を生む器官のうち、骨と関節について学ぶ
- 第7回 運動を構成する要素と器官② ヒトの運動を生む器官のうち、筋について学ぶ
- 第8回 運動を構成する要素と器官③ ①②で学んだ運動を構成する要素と器官について、演習を行い理解を深める
- 第9回 力学の基礎① 運動学を学ぶにあたって必要なニュートン力学について学ぶ
- 第10回 力学の基礎② 運動学を学ぶにあたって必要な身体とてこについて学ぶ
- 第11回 力学の基礎③ 運動学を学ぶにあたって必要なモーメント（トルク）について学ぶ
- 第12回 力学の基礎④ 運動学を学ぶにあたって必要な生体における力とモーメントについて学ぶ
- 第13回 構えと姿勢① ヒトの運動にかかわる構えと姿勢の名称について学ぶ
- 第14回 構えと姿勢② ①で学んだ構えと姿勢について、演習を行い理解を深める
- 第15回 上肢の関節運動学① 肩甲帯に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第16回 上肢の関節運動学演習① 肩甲帯の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第17回 上肢の関節運動学② 肩関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第18回 上肢の関節運動学演習② 肩関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第19回 上肢の関節運動学③ 肘関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第20回 上肢の関節運動学演習③ 肘関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第21回 上肢の関節運動学④ 前腕に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第22回 上肢の関節運動学演習④ 前腕の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第23回 上肢の関節運動学⑤ 手関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第24回 上肢の関節運動学演習⑤ 手関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第25回 上肢の関節運動学⑥ 手指に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第26回 上肢の関節運動学演習⑥ 手指の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第27回 実技試験（口頭試問含む）  
学んだ関節運動学について実技試験を実施する
- 第28回 実技試験（口頭試問含む）のフィードバック  
実技試験の解説、講評を行う
- 第29回 総括① 本講義で学んだことについて、復習、再確認を行う
- 第30回 総括② 本講義で学んだことについて、復習、再確認を行う

## ■ 評価方法

定期試験 80%

小テスト・実技テストで20%（学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点）

## ■ 教科書

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：筋骨格系のキネシオロジー

著者名：嶋田智明ほか監訳

出版社：医歯薬出版

書名：触診解剖アトラス（体幹・上肢・下肢）

著者名：奈良 勲監訳

出版社：医学書院

書名：図解 四肢と脊柱の診かた

著者名：野島元雄監訳

出版社：医歯薬出版

書名：カパンディ関節の生理学（体幹・上肢・下肢）

著者名：萩島秀男監訳

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

理学療法と作業療法の基礎学問として重要な科目であり、2年生に進んで、運動学各論、運動学実習、臨床運動学と引き続き勉強なのでしっかり学んでほしい。

授業科目	運動学各論	担当者	境 隆弘		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

下肢、体幹・頭頸部の機能解剖に立脚した運動の分析を関節運動学と運動力学の視点から部位別に学ぶ。姿勢や歩行に関する運動学的、運動力学的分析と筋出力、運動学習について学ぶ。

## ■ 目 標

下肢、体幹・頭頸部の関節運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。姿勢や歩行に関する運動学的、運動力学を理解し、観察や分析が出来るようになる。

## ■ 授 業 計 画

第1回	コース・ガイダンス	講義の進め方、評定の他、前期に学んだ運動学総論、後期に学ぶ運動学実習との関連性を学ぶ
第2回	下肢の関節運動学①	股関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
第3回	下肢の関節運動学演習①	股関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
第4回	下肢の関節運動学②	膝関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
第5回	下肢の関節運動学演習②	膝関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
第6回	下肢の関節運動学③	足関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
第7回	下肢の関節運動学演習③	足関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
第8回	体幹の関節運動学	体幹に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
第9回	体幹の関節運動学演習	体幹の関節運動学について、演習を行い理解を深める
第10回	頭頸部・顔面の関節運動学	頭頸部・顔面に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
第11回	頭頸部・顔面の関節運動学演習	頭頸部・顔面の関節運動学について、演習を行い理解を深める
第12回	四肢と脊柱の運動連鎖	開放性運動連鎖(OKC)と閉鎖性運動連鎖(CKC)について学ぶ
第13回	四肢と脊柱の運動連鎖演習	OKCとCKCに関する演習を行い、理解を深める
第14回	筋トルク	様々な収縮形態により発揮される筋トルクについて学ぶ
第15回	筋トルク演習	実際に筋トルクを計測し、理解を深める
第16回	姿勢制御の神経機構	ヒトの姿勢反応について学ぶ
第17回	姿勢制御の神経機構演習	ヒトの姿勢反応について、演習を行い理解を深める
第18回	運動戦略	ヒトの運動戦略(ストラテジー)について学ぶ
第19回	運動戦略演習	ヒトの運動戦略(ストラテジー)について、演習を行い理解を深める
第20回	歩行の運動学①	歩行の運動学について、概論を学ぶ
第21回	歩行の運動学②	歩行の運動学的分析について学ぶ
第22回	歩行の運動学③	歩行の運動力学的分析について学ぶ
第23回	運動学習	ヒトの運動学習機能について学ぶ
第24回	運動学習演習	ヒトの運動学習について、演習を行い理解を深める
第25回	実技試験(口頭試問含む)①	学んだ関節運動学、動作について実技試験を実施する
第26回	実技試験(口頭試問含む)②	学んだ関節運動学、動作について実技試験を実施する
第27回	実技試験(口頭試問含む)のフィードバック①	実技試験の解説、講評を行う
第28回	実技試験(口頭試問含む)のフィードバック②	実技試験の解説、講評を行う
第29回	総括①	本講義で学んだ事について、復習、再確認を行う
第30回	総括②	本講義で学んだ事について、復習、再確認を行う

## ■ 評価方法

定期試験 80%

小テスト・実技テストで20%（学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点）

## ■ 教科書

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：筋骨格系のキネシオロジー

著者名：嶋田智明ほか監訳

出版社：医歯薬出版

書名：触診解剖アトラス（体幹・上肢・下肢）

著者名：奈良 勲監訳

出版社：医学書院

書名：図解 四肢と脊柱の診かた

著者名：野島元雄監訳

出版社：医歯薬出版

書名：カパンディ関節の生理学（体幹・上肢・下肢）

著者名：萩島秀男監訳

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

理学療法と作業療法の基礎学問として運動学総論から続く重要な科目であり、さらに運動学実習、臨床運動学と引き続き勉強なのでしっかり学んでほしい。



授業科目	運動学実習	担当者	島 雅人		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

運動学総論、運動学各論により修得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を観察し分析するといった実習を行うことで、理学療法・作業療法の基礎となる人体の運動について学ぶ。

## ■ 目 標

基本動作・歩行を観察する視点を身につけること  
 観察した動作を運動学的用語で説明することができるようになること  
 観察した動作を運動学・運動力学的に分析することができるようになること

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 コース・ガイダンス：講義の進め方、評定方法、その他、これまでに学んできた運動学総論、運動学各論との関連性を学ぶ。また、動作観察、分析と理学療法、作業療法の関連について学ぶ
- 第2回 寝返りの動作観察・分析① (観察・データ収集・分析作業)
- 第3回 寝返りの動作観察・分析② (観察データの整理・分析作業)
- 第4回 寝返りの動作観察・分析③ (発表・まとめ)
- 第5回 起き上がりの動作観察・分析① (観察・データ収集・分析作業)
- 第6回 起き上がりの動作観察・分析② (観察データの整理・分析作業)
- 第7回 起き上がりの動作観察・分析③ (発表・まとめ)
- 第8回 立ちあがりの動作観察・分析① (観察・データ収集・分析作業)
- 第9回 立ちあがりの動作観察・分析② (観察データの整理・分析作業)
- 第10回 立ちあがりの動作観察・分析③ (観察データの整理・分析作業)
- 第11回 立ちあがりの動作観察・分析④ (発表・まとめ)
- 第12回 歩行の動作観察・分析① (観察・データ収集・分析作業)
- 第13回 歩行の動作観察・分析② (観察データの整理・分析作業)
- 第14回 歩行の動作観察・分析③ (観察データの整理・分析作業)
- 第15回 歩行の動作観察・分析④ (発表・まとめ・総括)



## ■ 評価方法

定期試験70% 発表・レポート30%

## ■ 教科書

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：筋骨格系のキネシオロジー

著者名：Donald A. Neumann 著 / 嶋田智明ほか 監訳

出版社：医歯薬出版

書名：日常生活活動の運動学

著者名：D.P. Greene, S.L. Roberts 著 / 嶋田智明 監訳

出版社：医歯薬出版

書名：臨床歩行分析入門

著者名：臨床歩行分析研究会 監修

出版社：医歯薬出版

書名：ペリー歩行分析 正常歩行と異常歩行

著者名：Jacquelin Perry 著 / 武田 功ほか監修

出版社：医歯薬出版

書名：PT・OT 学生のための運動学実習

著者名：鎌倉矩子 ほか編

出版社：三輪書店

## ■ 留意事項

運動学総論・各論の知識をもとに、動作を観察・分析することは、将来的に臨床で対象者の動作を観察・分析することにつながります。観察した動作を自分自身で分析する（調べる・考える・まとめる）ことがとても重要になります。

授業科目	人間発達学	担当者	横田 浩子		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

理学療法士に必要な人間の全生涯にわたる発達について学習する。

### ■ 目 標

理学療法のあらゆる年代の治療対象者について身体面・精神面・社会面等を考慮出来る。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 人間発達学 総論① 人間とは
- 第2回 人間発達学 総論② 人間発達学について
- 第3回 人間発達学 総論③ 発達の定義・研究法・発達の課題
- 第4回 人間発達学 各論① 出生前発達と出生
- 第5回 人間発達学 各論② 新生児の生理・反射
- 第6回 人間発達学 各論③ 乳児期の身体的発達・運動発達・反射
- 第7回 人間発達学 各論④ 乳児期の感覚・認知の発達、情緒的・社会的発達
- 第8回 人間発達学 各論⑤ 幼児期の発達Ⅰ
- 第9回 人間発達学 各論⑥ 幼児期の発達Ⅱ
- 第10回 人間発達学 各論⑦ 学童期の発達・障害児の発達と発達支援
- 第11回 人間発達学 各論⑧ 青年期の発達Ⅰ
- 第12回 人間発達学 各論⑨ 青年期の発達Ⅱ
- 第13回 人間発達学 各論⑩ 成人期の発達Ⅰ
- 第14回 人間発達学 各論⑪ 成人期の発達Ⅱ
- 第15回 まとめ

### ■ 評 価 方 法

試験90% 課題10%

### ■ 教 科 書

書名：人間発達学  
 著者名：上田令子著  
 出版社：医歯薬出版

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

グループワークに積極的に参加して下さい。

授業科目	臨床心理学	担当者	春海 淳子		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

臨床心理学は「こころの病」や「こころのメカニズム」について学ぶものです。私たちのこころは流動的で環境からの影響を受けながら形成され、揺らぎもします。そうした、こころのありようについて、身近な素材や具体的な話を用いて臨床心理学に関する理論や概念の基礎的素養を身につける機会にします。

## ■ 目 標

学んだことを今後の専門職としての活動の中や普段の生活に行かせるよう習得することを目指します。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 臨床心理学とは
- 第2回 臨床心理査定（1）：意義と方法（観察、面接、検査）
- 第3回 臨床心理査定（2）：発達検査・知能検査（体験、事例）
- 第4回 臨床心理査定（3）：人格検査（概要）
- 第5回 臨床心理査定（4）：人格検査（体験、事例）
- 第6回 精神病理（1）：統合失調症、気分障害
- 第7回 精神病理（2）：不安障害、身体表現性障害、人格障害
- 第8回 こころの構造（1）：人格構造論の観点から
- 第9回 こころの構造（2）：発達論的観点から
- 第10回 臨床心理面接（1）：目的、基本的技法（体験）
- 第11回 臨床心理面接（2）：来談者中心療法、精神分析
- 第12回 臨床心理面接（3）：学習理論と行動療法
- 第13回 社会病理：グループ病理の理解
- 第14回 各専門領域の連携について
- 第15回 総合的ふりかえり

## ■ 評 価 方 法

講義への参加・貢献（レポート等）：30%      筆記試験：70%

## ■ 教 科 書

特に指定しません

## ■ 参 考 図 書

適宜紹介します

## ■ 留 意 事 項

--

授業科目	病理学概論	担当者	魏 民		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

ヒトが疾病に罹患する原因とその機序を総論的に学ぶ

## ■ 目 標

病態別（細胞の損傷と適応、循環障害、免疫、炎症・感染症、腫瘍、先天異常）に整理された知識を得る

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 病理学の目的と概要  
 病因論：内因、外因の概念、疾病の分類
- 第2回 傷害に対する細胞の反応：退行性病変、進行性病変
- 第3回 循環障害：循環系の構造と機能、局所循環障害、全身循環障害
- 第4回 免疫：免疫系の仕組みと働き、アレルギー、膠原病、免疫不全症候群
- 第5回 炎症・感染症：炎症の定義と原因、炎症の経過、感染の成立と感染経路
- 第6回 腫瘍Ⅰ：腫瘍の定義と分類、腫瘍の進展形式
- 第7回 腫瘍Ⅱ：腫瘍発生の原因、腫瘍の診断と治療
- 第8回 先天異常・奇形：先天異常の概念と分類、代表的な先天異常

## ■ 評 価 方 法

筆記試験 100%

## ■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 病理学  
 著者名：梶原博毅・横井豊治  
 出版社：医学書院

## ■ 参 考 図 書

書 名：ルービン病理学 第4版  
 著者名：鈴木利光 他監訳  
 出版社：西村書店

## ■ 留 意 事 項

授業科目	一般臨床医学	担当者	弓場 他		
学科名	理学療法学科	学年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学科	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

一般外科、消化器外科、眼科、泌尿器科、婦人科、産科学、耳鼻咽喉科、皮膚科の代表的疾患について、その病因、病態、特徴的に現れる症状、一般的に行われる検査、治療法について基礎的な学習をする。

## ■ 目 標

1. 一般外科、消化器外科、眼科、泌尿器科、婦人科、産科学、耳鼻咽喉科、皮膚科の代表的な疾患について、その病因、病態、臨床像、治療法を理解する。
2. 各疾患におけるリハビリテーションの留意事項を説明できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 外科学総論、一般外科 (弓場)
- 第2回 上部消化管外科 (食道、胃、十二指腸) (弓場)
- 第3回 下部消化管外科 (結腸、直腸、肛門、小腸) (弓場)
- 第4回 肝胆膵の外科 (肝臓、胆嚢、膵臓) (弓場)
- 第5回 泌尿器疾患① (藤本)
- 第6回 泌尿器疾患② (藤本)
- 第7回 皮膚科疾患① (池上)
- 第8回 皮膚科疾患② (池上)
- 第9回 産科学 (福山)
- 第10回 婦人科疾患 (福山)
- 第11回 耳鼻咽喉科領域の疾患① (矢吹)
- 第12回 耳鼻咽喉科領域の疾患② (矢吹)
- 第13回 眼科疾患① (草場)
- 第14回 眼科疾患② (草場)
- 第15回 総復習

## ■ 評 価 方 法

定期試験 100%

## ■ 教 科 書

書名：PT・OTのための一般臨床医学  
 著者名：明石 謙  
 出版社：医歯薬出版

## ■ 参 考 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	内科学	担当者	藤岡 重和		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	必修

## ■ 内 容

循環器疾患、呼吸器疾患など生体内部の障害について、その病因、病態、特徴的に現れる症状、一般的に行われる検査と診断、治療法、予後などについて基礎的な学習をする。

## ■ 目 標

1. 代表的な内科疾患について、その病因、病態、臨床像、診断と治療法を理解する
2. 内科疾患患者におけるリハビリテーションの留意事項を説明できる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 内科学総論
- 第2回 循環器総論 (概要、病因、病態生理、症状、検査と診断)
- 第3回 循環器疾患 (1) 高血圧、虚血性心疾患
- 第4回 循環器疾患 (2) 弁膜症、先天性心疾患、心筋疾患
- 第5回 循環器疾患 (3) 心不全、不整脈、その他
- 第6回 循環器疾患 (4) 大動脈疾患、末梢動脈および静脈疾患
- 第7回 呼吸器総論 (概要、病因、病態生理、症状、検査と診断)
- 第8回 呼吸器疾患 (1) 感染性肺疾患、アレルギー性肺疾患
- 第9回 呼吸器疾患 (2) 慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患
- 第10回 呼吸器疾患 (3) 肺腫瘍、肺循環障害
- 第11回 呼吸器疾患 (4) 呼吸不全、呼吸調節の異常、胸膜疾患、その他
- 第12回 消化器総論 (概要、病因、病態生理、症状、検査と診断)
- 第13回 消化器疾患 (1) 食道疾患、胃の疾患
- 第14回 消化器疾患 (2) 小腸、大腸の疾患
- 第15回 消化器疾患 (3) 肝疾患
- 第16回 消化器疾患 (4) 胆道疾患、膵疾患、その他
- 第17回 代謝、内分泌総論 (概要、病因、病態生理、症状、検査と診断)
- 第18回 代謝、内分泌疾患 (1) 糖尿病、脂質代謝異常、その他
- 第19回 代謝、内分泌疾患 (2) 下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
- 第20回 腎総論 (概要、病因、病態生理、症状、検査と診断)
- 第21回 腎疾患 (1) 糸球体疾患、全身性疾患と腎障害
- 第22回 腎疾患 (2) 腎不全、電解質異常、その他
- 第23回 免疫、アレルギー総論 (概要、病因、病態生理、症状、検査と診断)
- 第24回 免疫、アレルギー疾患 (1) アレルギー疾患
- 第25回 免疫、アレルギー疾患 (2) 膠原病、免疫不全症
- 第26回 血液、造血器疾患 (1) 赤血球系疾患
- 第27回 血液、造血器疾患 (2) 白血球系疾患、出血性疾患
- 第28回 中毒および環境要因による疾患
- 第29回 リハビリテーションと内科臨床について
- 第30回 総復習

## ■ 評価方法

定期試験 80% 小テスト 10% 出席、態度 10%

## ■ 教科書

書名：ナースの内科学 第8版  
著者名：奈良信雄  
出版社：中外医学社

## ■ 参考図書

書名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第2版  
著者名：大成浄志  
出版社：医学書院

---

書名：臨床病態学 1巻、2巻  
著者名：北村聖  
出版社：NOUVELLE HIROKAWA

---

書名：内科学  
著者名：金澤一郎、北原光夫、山口徹、小俣政男  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

内科学を学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学をよく理解しておく必要があります。授業の前に、復習をしておいてください。内科各論の感染症については、三学年前期の感染症学において詳しく学習します。

授業科目	整形外科学	担当者	中村 憲正		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	必修

## ■ 内 容

人体の運動器にかかわる疾患の診断と治療について学習する。

## ■ 目 標

運動器疾患の基礎となる骨・関節，筋・神経の構造や病態について十分な知識を得る。特に、外傷学については、重点的に学習し、臨床の場で必要とされる知識体系を構築する。また、整形外科的な診断法や治療法について臨床に必要な知識を得る。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 整形外科総論1 歴史、筋骨格系組織（骨、軟骨、靭帯、筋肉など）の生理学につき学ぶ
- 第2回 整形外科総論2 歴史、筋骨格系組織（骨、軟骨、靭帯、筋肉など）の生理学につき学ぶ
- 第3回 骨折と脱臼1 骨折と脱臼につき総括的に述べ、その治療のメカニズムや治療に対する取り組み方を学ぶ
- 第4回 骨折と脱臼2 骨折と脱臼につき総括的に述べ、その治療のメカニズムや治療に対する取り組み方を学ぶ
- 第5回 骨と関節の感染症 骨と関節の感染症につき学ぶ。
- 第6回 関節リウマチ 関節リウマチとその類縁疾患につき学ぶ。
- 第7回 慢性関節疾患 —— 退行変性による慢性関節疾患につき学ぶ。
- 第8回 壊死性骨疾患 —— 骨壊死の特徴につき学ぶ。
- 第9回 骨系統疾患 —— 骨系統疾患につき学ぶ。
- 第10回 代謝性骨疾患 —— 代謝性骨疾患につき学ぶ。
- 第11回 腫瘍 1 —— 筋骨格系腫瘍につき学び、現代の治療に触れる。
- 第12回 腫瘍 2 —— 筋骨格系腫瘍につき学び、現代の治療に触れる。
- 第13回 予備日
- 第14回 予備日
- 第15回 脊椎と脊髄 1 —— 脊椎と脊髄疾患、外傷につき学ぶ。
- 第16回 脊椎と脊髄 2 —— 脊椎と脊髄疾患、外傷につき学ぶ。
- 第17回 股関節 —— 股関節疾患、外傷につき学ぶ。
- 第18回 膝関節 —— 膝関節疾患につき述べ、固有の治療法につき学ぶ。
- 第19回 膝のスポーツ傷害 1 —— 膝のスポーツ傷害につき述べ、最新治療法につき学ぶ。
- 第20回 膝のスポーツ傷害 2 —— 膝のスポーツ傷害につき述べ、最新治療法につき学ぶ。
- 第21回 足と足関節 1 —— 足と足関節の傷害につき学ぶ。
- 第22回 足と足関節 2 —— 足と足関節の傷害につき学ぶ。
- 第23回 下腿 —— 下腿の傷害につき学ぶ。
- 第24回 肩 —— 肩関節スポーツ傷害を中心に学び、最新治療に触れる。
- 第25回 肘 —— 肘関節疾患、傷害につき学ぶ。
- 第26回 手 1 —— 手の外科につき学ぶ。
- 第27回 手 2 —— 手の外科につき学ぶ。
- 第28回 予備日
- 第29回 予備日
- 第30回 予備日



■ 評価方法

筆記試験100%

■ 教科書

書名：標準整形外科  
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

授業科目	臨床神経学	担当者	阿部 和夫		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	必修

## ■ 内 容

臨床神経学は、前半では、神経疾患について、後半では主に高次脳機能障害についての講義を行います。臨床神経学を理解することは、理学療法士・作業療法士を目指す学生にとって不可欠であるにも関わらず、大脳から筋肉あるいは感覚器に至る広汎な解剖学的領域に関与する多彩な疾患を学習することに対して負担を感じる学生が多いかもしれません。本講義では、神経・筋疾患で見られる主要な疾患とそれにとまなう障害の特性について、その疾患概念、病態、発症機構、神経科学的検査についての基礎知識および治療について学習します。

## ■ 目 標

リハビリテーション医学およびリハビリテーション医療に携わる職種として必要不可欠な神経学の知識を取得することを目標にします。一方通行の授業ではなく、学生が積極的にかつ真摯に学習に取り組むことを期待します。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 神経内科学総論
- 第2回 機能的疾患（頭痛など）
- 第3回 脳血管障害
- 第4回 脳腫瘍
- 第5回 運動ニューロン病
- 第6回 脊髄小脳変性症
- 第7回 パーキンソン病
- 第8回 パーキンソン病以外の錐体外路疾患
- 第9回 脱随疾患
- 第10回 感染症
- 第11回 脊髄疾患
- 第12回 末梢神経障害（ニューロパチーなど）
- 第13回 筋疾患
- 第14回 神経筋接合部での疾患
- 第15回 てんかん（失神との鑑別）
- 第16回 高次脳機能障害総論
- 第17回 脳血管の解剖と画像（1）
- 第18回 脳血管の解剖と画像（2）
- 第19回 高次脳機能障害に関係した電気生理学
- 第20回 高次脳機能障害の診察法
- 第21回 失語症とその関連疾患
- 第22回 視覚の高次脳機能障害
- 第23回 聴覚の高次脳機能障害
- 第24回 感覚の高次脳機能障害
- 第25回 運動の高次脳機能障害
- 第26回 失音楽
- 第27回 記憶障害
- 第28回 失行
- 第29回 身体認識の障害
- 第30回 認知症

### ■ 評価方法

試験100%

### ■ 教科書

なし

### ■ 参考図書

書名：神経の病気

著者名：図説カラダ大辞典編集委員会 編

出版社：金沢医科大学出版局

書名：神経心理学入門

著者名：山鳥重

出版社：医学書院

### ■ 留意事項

私語など、他の受講者および講義をしている私の迷惑になる行為は、言うまでもなく厳禁です。医療業界で働くための最低限の常識を身につけて講義に望んでください。

授業科目	臨床運動学	担当者	境 隆弘		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	PT = 必修 OT = 選択

## ■ 内 容

運動学総論、運動学各論、運動学実習で修得した基礎運動学の知識を踏まえ、疾患あるいは機能障害を有した際の人体の構造の変化や身体運動の破綻について学ぶ

## ■ 目 標

疾患あるいは機能障害を有した際の人体の構造の変化や身体運動の破綻について理解し、運動療法や生活指導に結びつけることができる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 コース・ガイダンス  
講義の進め方、評定の他、これまでに学んだ基礎運動学との関連性を学ぶ
- 第2回 病態運動学総説  
疾患あるいは機能障害を有した際の人体の構造の変化について学ぶ
- 第3回 体幹の病態運動学  
体幹に疾患あるいは機能障害を有した際の構造の変化および身体運動の破綻について学ぶ
- 第4回 股関節の病態運動学  
股関節に疾患あるいは機能障害を有した際の構造の変化および身体運動の破綻について学ぶ
- 第5回 膝関節の病態運動学  
膝関節に疾患あるいは機能障害を有した際の構造の変化および身体運動の破綻について学ぶ
- 第6回 足関節の病態運動学  
足関節に疾患あるいは機能障害を有した際の構造の変化および身体運動の破綻について学ぶ
- 第7回 肩関節の病態運動学  
肩関節に疾患あるいは機能障害を有した際の構造の変化および身体運動の破綻について学ぶ
- 第8回 肘関節・前腕の病態運動学  
肘・前腕に疾患あるいは機能障害を有した際の構造の変化および身体運動の破綻について学ぶ
- 第9回 手関節・手指の病態運動学  
手・手指に疾患あるいは機能障害を有した際の構造の変化および身体運動の破綻について学ぶ
- 第10回 異常歩行①  
運動器に疾患あるいは機能障害を有した際の正常歩行の破綻について学ぶ
- 第11回 異常歩行②  
神経系の疾患あるいは機能障害を有した際の正常歩行の破綻について学ぶ
- 第12回 異常歩行②  
異常歩行について、演習を行い理解を深める
- 第13回 実技試験（口頭試問含む）  
学んだ関節運動学、動作について実技試験を実施する
- 第14回 総括①  
実技試験のフィードバックを含めて、本講義で学んだことについて復習、再確認を行う
- 第15回 総括②  
本講義で学んだことについて復習、再確認を行う

## ■ 評価方法

定期試験 80%

小テスト・実技テストで20%（学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点）

## ■ 教科書

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：筋骨格系のキネシオロジー

著者名：嶋田智明ほか監訳

出版社：医歯薬出版

書名：キネシオロジー 日常生活活動の運動学

著者名：嶋田智明ほか監訳

出版社：医歯薬出版

書名：ここがポイント 整形外科疾患の理学療法

著者名：富士武史監修

出版社：金原出版

## ■ 留意事項

基礎運動学にとどまらず、病態運動学の知識が理学療法と作業療法には必要である。しっかり学んでほしい。

授業科目	精神医学	担当者	小畔 美弥子		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

主な精神疾患について症状・診断・治療を学ぶ

## ■ 目 標

精神医学に興味を持ち，基本知識を身につける

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 精神医学とは
- 第2回 精神症状とその評価
- 第3回 認知症・器質性精神障害
- 第4回 アルコール・薬物関連障害
- 第5回 統合失調症
- 第6回 気分（感情）障害
- 第7回 不安障害
- 第8回 パーソナリティ障害
- 第9回 摂食障害・睡眠障害など
- 第10回 知的障害・発達障害
- 第11回 児童精神医学
- 第12回 治療・リハビリテーション①
- 第13回 治療・リハビリテーション②
- 第14回 司法・福祉・そのほか
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

筆記試験70%，出席・受講態度30%

## ■ 教 科 書

書 名：専門医がやさしく語るはじめての精神医学  
 著者名：渡辺雅幸  
 出版社：中山書店

## ■ 参 考 図 書

書 名：標準精神医学 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)  
 著者名：野村 総一郎（編集），樋口 輝彦（編集），尾崎 紀夫（編集）  
 出版社：医学書院

## ■ 留 意 事 項

授業科目	精神科リハビリテーション学	担当者	足立 一		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	PT = 選択 OT = 必修

## ■ 内 容

精神科リハビリテーションに関する教材を中心とした講義だけでなく、動画を使用したイメージ化や実際の演習も積極的に行っていく

## ■ 目 標

精神科リハビリテーションの基本概念，回復と評価・支援の実際，関連する地域社会資源についての知識を深める

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 専門用語用語説明
- 第2回 精神科リハビリテーションの変遷
- 第3回 精神科リハビリテーションの現状と関連法規
- 第4回 精神科リハビリテーションの捉え方
- 第5回 精神科リハビリテーションの実際① 医学的リハビリテーション
- 第6回 精神科リハビリテーションの実際② 心理的リハビリテーション
- 第7回 精神科リハビリテーションの実際③ 社会的リハビリテーション
- 第8回 疾患別リハビリテーション① 統合失調症
- 第9回 統合失調症の回復過程
- 第10回 職業リハビリテーションの理論と実際①
- 第11回 職業リハビリテーションの理論と実際②
- 第12回 疾患別リハビリテーション② 気分障害，神経症性障害
- 第13回 疾患別リハビリテーション③ 精神作用物質による精神および行動の障害
- 第14回 疾患別リハビリテーション④ 脳器質性障害
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

定期試験 100%

## ■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学  
 著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	小児科学	担当者	吉原 直子		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

小児科学に必要な基礎知識の確認と、小児の特徴、発達および小児特有の病気を学習する。

## ■ 目 標

セラピストとして必要な小児科学の知識の習得をすること。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 小児の発育と発達
- 第2回 小児の生活と小児保健
- 第3回 出生前小児科学と先天異常
- 第4回 新生児学
- 第5回 小児内科学
- 第6回 小児感染症
- 第7回 免疫・アレルギー・血液疾患
- 第8回 代謝・内分泌疾患
- 第9回 神経・筋疾患①
- 第10回 神経・筋疾患②
- 第11回 発達障害・心身症
- 第12回 小児診断学
- 第13回 まとめ①
- 第14回 まとめ②
- 第15回 まとめ③

## ■ 評 価 方 法

筆記試験（小テストを含む）80% 出席20%

## ■ 教 科 書

書 名：シンプル理学療法シリーズ 「小児理学療法テキスト」

出版社：南江堂

書 名：「フォトサイエンス生物図録」

出版社：数研出版

## ■ 参 考 図 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 「小児科学」

出版社：医学書院

## ■ 留 意 事 項

--



授業科目	老年医学	担当者	藤岡 重和		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

老年期にみられる障害の特性を理解するために老化のメカニズムや生理学的特性、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者を取りまく地域の問題など幅広く学習する。また、老化に伴い特徴的に現れる疾患・障害とその病態についても学習する。

## ■ 目 標

1. 老化に伴う生理機能変化、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化を理解する
2. 老化に伴い特徴的に現れる疾患・障害とその病態について説明できる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 老年医学総論 (1) 老化と老年病の考え方
- 第2回 老年医学総論 (2) 加齢に伴う生理機能変化
- 第3回 老年医学総論 (3) 高齢者に多い症候とそのアセスメントについて
- 第4回 老年医学総論 (4) 老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化と高齢者へのアプローチ
- 第5回 老年医学各論 (1) 心、血管機能の老化と循環器疾患
- 第6回 老年医学各論 (2) 呼吸機能の老化と呼吸器疾患
- 第7回 老年医学各論 (3) 消化機能の老化と消化器疾患
- 第8回 老年医学各論 (4) 神経機能の老化と疾患
- 第9回 老年医学各論 (5) 内分泌、代謝機能の老化と疾患、腎、排泄機能の老化と疾患
- 第10回 老年医学各論 (6) 骨、運動機能の老化と疾患、増血機能の老化と疾患
- 第11回 老年医学各論 (7) 感覚機能の老化、加齢による免疫機能の変化
- 第12回 高齢者を取りまく地域の諸問題について
- 第13回 高齢者の医療、介護、福祉、保健
- 第14回 高齢者のリハビリテーション
- 第15回 総復習

## ■ 評 価 方 法

定期試験 70%    小テスト 10%    出席、態度 20%

## ■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 老年学 第3版  
 著者名：大内尉義  
 出版社：医学書院

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	高次脳機能障害学	担当者	森岡 悦子		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

脳血管障害を中心とした中枢神経疾患に対するリハビリテーションを行うために、高次脳機能障害の症状や障害機序を理解し、鑑別に必要な簡単な評価技能と適切な関わり方を学ぶ。

## ■ 目 標

高次脳機能障害の症状を理解し、簡単な評価・鑑別方法を習得し、高次脳機能障害に関する基本的知識を身につける。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 高次脳機能障害の概要  
 脳がどのように情報を処理しているのかを学び、損傷によって生じる障害の概要を理解する。
- 第2回 脳と高次脳機能  
 高次脳機能に関わる脳の各領域の名称および脳の構造を理解する。
- 第3回 記憶障害（1）  
 記憶の種類、記憶のメカニズム、記憶障害の特徴を理解し、簡単な評価について学ぶ。
- 第4回 記憶障害（2）  
 記憶障害症状を理解した上で介入法を学ぶ。
- 第5回 失行と行為・行動障害（1）  
 観念運動失行、観念失行、肢節運動失行、着衣失行について症状を学び、簡単な検査を用いて症状が把握できるようになる。また脳画像で病変を特定できるようになる。
- 第6回 失行と行為・行動の障害（2）  
 運動維持困難、運動無視、把握反応など行為・行動の障害について症状を学び、簡単な検査を用いて症状が把握できるようになる。また脳画像で病変を特定できるようになる。
- 第7回 失認と関連症状（1）  
 視覚失認、相貌失認の症状およびメカニズムを理解し、簡単な評価を用いて障害レベルを考察する。また脳画像で病変を特定できるようになる。
- 第8回 失認と関連症状（2）  
 聴覚失認と触覚失認の他、地誌的見当識障害の症状およびメカニズムを理解し、簡単な評価を用いて障害レベルを考察する。また脳画像で病変を特定できるようになる。
- 第9回 半側空間無視・病態失認・視空間性障害（1）  
 半側空間無視の症状を学び、検査や生活でどのように出現するのかを理解する。
- 第10回 半側空間無視・病態失認・視空間性障害（2）  
 半側空間無視の簡単な検査を学び、検査結果からの評価の方法を学ぶ。また半側空間無視のリハビリテーションと関わり方について学ぶ。また脳画像上で病変を特定できるようになる。
- 第11回 半側空間無視・病態失認・視空間性障害（3）  
 病態失認・視空間性障害の症状について理解し、評価・訓練を学ぶ。
- 第12回 認知症（1） 認知症の種類とその症状について学ぶ。
- 第13回 認知症（2） 認知症に用いられる簡易検査の方法を理解し、評価結果からの解釈を学ぶ。
- 第14回 遂行機能障害（1） 症状と障害メカニズムを理解し、適切な評価方法を学ぶ。
- 第15回 遂行機能障害（2） 症状と障害メカニズムを理解し、適切な評価法と介入法を学ぶ。

### ■ 評価方法

定期試験60%、小テストと授業態度30%、出席点10%

### ■ 教科書

書名：「高次脳機能障害学」

著者名：石合純夫著

出版社：医歯薬出版株式会社

### ■ 参考図書

### ■ 留意事項

授業科目	理学療法概論 (PT)	担当者	石倉 隆		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法士になる事を目標に入学してきてはいるが、理学療法のわずかな部分の知識しかない学生に対して、今後4年間学ぶ理学療法の大枠を示す。

## ■ 目 標

理学療法の大枠を理解することにより、今後4年間で学ばなければならない内容の概略を把握する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 当大学の理学療法学専攻のカリキュラムの解説、理学療法の歴史及び概念
- 第2回 理学療法の対象と活動分野
- 第3回 理学療法の流れと方法
- 第4回 理学療法と障害モデル
- 第5回 理学療法の教育、根拠に基づいた理学療法
- 第6回 理学療法に関する法律と医療保険及び介護保険制度
- 第7回 中枢神経疾患理学療法概論
- 第8回 骨関節疾患理学療法概論 (スポーツリハビリテーションを含む)
- 第9回 呼吸循環疾患理学療法概論
- 第10回 小児理学療法概論
- 第11回 医療事故
- 第12回 臨床実習 I オリエンテーション
- 第13回 コミュニケーション演習
- 第14回 車椅子操作演習
- 第15回 阪和第二泉北病院の紹介 (維持期リハビリテーション、高齢者リハビリテーション)

## ■ 評 価 方 法

出席 20%、小テスト 30%、筆記試験 (定期試験) 50%

## ■ 教 科 書

書 名：理学療法学概論 第3版  
 著者名：監修 千住秀明  
 出版社：神陵文庫

## ■ 参 考 図 書

書 名：理学療法入門テキスト  
 著者名：監修 細田多穂、編集 中島喜代彦、森田正治、久保田章仁  
 出版社：南江堂

## ■ 留 意 事 項

--

授業科目	理学療法障害学	担当者	洲崎 俊男		
学科名	理学療法専攻	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法と障害の接点や障害モデルの知識と理解を深める。国際障害分類から国際生活機能分類への移行についての知識を深める。障害に関する各論として、理学療法において直面する主な障害について、早期にその概念や知識を修得する。臨床的理解と感性を更に深めるため症例課題を用いて1回の臨床思考のトレーニングも行う。

## ■ 目 標

理学療法と障害との接点が理解でき、障害に関する世界的変遷も理解できる。具体的な主な障害（痛み・疼痛、拘縮・強直、筋力低下、歩行障害、運動制御障害（中枢性障害）等）についての理解と知識を深め、理学療法に関わる主な障害を総合的に修得する。

## ■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーション医療の中での理学療法の位置づけ。  
理学療法と障害との接点、障害モデル。
- 第2回 国際障害分類から国際生活機能分類へ
- 第3回 国際生活機能分類 概要
- 第4回 国際生活機能分類 詳細
- 第5回 国際生活機能分類 疾患別分類例の紹介
- 第6回 【各論】理学療法が対象とする主な障害  
痛み・疼痛
- 第7回 関節可動域制限・拘縮・強直
- 第8回 筋力低下・筋萎縮・筋疲労
- 第9回 運動器系由来の歩行障害
- 第10回 臨床思考—運動器系障害例での演習 レポート提出—
- 第11回 末梢性神経障害
- 第12回 感覚系障害 —表在・深部感覚・複合感覚—
- 第13回 運動制御障害Ⅰ 中枢性神経麻痺（錐体路系障害）
- 第14回 運動制御障害Ⅱ 中枢性神経麻痺（錐体外路系障害・協調性障害・平衡機能障害）
- 第15回 中枢神経系由来の歩行障害

## ■ 評価方法

筆記試験（45%）、提出課題（10%）、小テスト（30%）、出席状況（15%、無断欠席や遅刻はマイナス評価）の結果を総合的に評価する。

## ■ 教科書

特に使用しないが、作成したプリントを使用する。

## ■ 参考図書

- 書名：理学療法概論  
著者名：奈良勲編  
出版社：医歯薬出版
- 書名：障害別・ケースで学ぶ 理学療法臨床思考 — PBL で考え進める—  
著者名：嶋田智明編  
出版社：文光堂

## ■ 留意事項

1回の提出課題あり。第2回目から前回の復習を兼ねた小テストを実施する。

授業科目	理学療法管理学	担当者	石倉 隆		
学科名	理学療法専攻	学年	4年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法士は、理学療法の知識、技術を修得していれば、理学療法士として活動できるものではない。理学療法士は組織人として組織を運営する立場にあり、また、その組織のリハビリテーション部門を管理運営する立場にある。このことを踏まえて、組織の一員としてチーム医療を展開するに不可欠な管理運営方法を、実例を通して教授する。また、多様化する理学療法の対象者に対するリスク管理についても実例を挙げて教授する。

## ■ 目 標

某病院の組織運営を例に、自身がチームの一員として活動するために必要な知識、行動を身につける。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 管理運営の意義
- 第3回 管理運営の実際：施設の職員として
- 第4回 管理運営の実際：リハビリテーション部門の管理運営－スタッフとして
- 第5回 管理運営の実際：リハビリテーション部門の管理運営－管理職として
- 第6回 診療報酬業務管理の実際
- 第7回 診療記録業務の実際
- 第8回 リスクマネジメントの実際：脳血管障害と循環器疾患
- 第9回 リスクマネジメントの実際：糖尿病と呼吸器疾患
- 第10回 リスクマネジメントの実際：整形外科疾患と加齢・転倒
- 第11回 リスクマネジメントの実際：神経変性疾患
- 第12回 他部門との連携
- 第13回 他施設との連携
- 第14回 地域連携パス
- 第15回 管理運営連携の問題点と打開策；リハシステムの事例を通して

## ■ 評価方法

管理運営のレポート 40%  
 これまでの理学療法専攻総まとめ筆記試験 60%

## ■ 教科書

理学療法概論時に配布した資料を使用する。

## ■ 参考図書

適宜紹介する。

## ■ 留意事項

講義では、個人情報に係る資料も提示する。その取り扱いには十分注意し、学外でみだりに他言しないように心がけること。

授業科目	理学療法研究法	担当者	清田 直恵		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法学における研究の意義、目的および研究を遂行する際の具体的な方法論について学ぶ。また、本専攻教員のこれまでの研究活動および現在の研究テーマやゼミでの活動に触れ、今までの学習内容などに基づく興味と合わせて、卒業研究において希望する研究テーマについて整理する。

## ■ 目 標

- ・理学療法学における研究の意義、目的および研究を遂行する際の具体的な方法論について理解することができる。
- ・今までの学習内容および教員の研究活動などに基づいて、自分の興味のある分野について考え、希望する研究テーマについて整理することができる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 理学療法学における研究の意義、目的
- 第2回 理学療法学研究法の具体的方法論1：研究デザインの種類、研究の遂行過程
- 第3回 理学療法学研究法の具体的方法論2：データ処理、文献検索
- 第4回 卒業研究ゼミ、教員研究活動紹介
- 第5回 卒業研究ゼミ、教員研究活動紹介
- 第6回 卒業研究ゼミ、教員研究活動紹介
- 第7回 卒業研究ゼミ、教員研究活動紹介
- 第8回 卒業研究ゼミ、教員研究活動紹介
- 第9回 卒業研究ゼミ、教員研究活動紹介
- 第10回 卒業研究ゼミ、教員研究活動紹介
- 第11回 卒業研究ゼミ、教員研究活動紹介
- 第12回 卒業研究ゼミ、教員研究活動紹介
- 第13回 卒業研究ゼミ、教員研究活動紹介
- 第14回 希望ゼミ整理レポート
- 第15回 希望ゼミ各教員訪問

## ■ 評価方法

レポート100%

## ■ 教 科 書

適宜、資料を配布します。

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項



授業科目	理学療法研究法実習	担当者	清田 直恵		
学科名	理学療法専攻	学年	4年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

研究における計画書や論文、プレゼンテーションの意義、方法について学ぶとともに、実際の自分の卒業研究テーマについて、計画書の作成から具体的な方法論の検討、研究概略のプレゼンテーションを経験する。

## ■ 目 標

- ・ 研究における計画書の意義、方法を理解し、卒業研究についての研究計画書を作成、発表することができる。
- ・ 研究計画書に基づいた研究の方法論を検討することができる。
- ・ 研究における論文作成やプレゼンテーションの意義、方法を理解し、卒業研究の概略を発表することができる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 研究計画書の意義、方法
- 第2回 研究計画書作成
- 第3回 研究計画書発表と研究計画書に基づく方法論の検討
- 第4回 研究計画書発表と研究計画書に基づく方法論の検討
- 第5回 研究計画書発表と研究計画書に基づく方法論の検討
- 第6回 研究計画書発表と研究計画書に基づく方法論の検討
- 第7回 研究計画書発表と研究計画書に基づく方法論の検討
- 第8回 研究計画書発表と研究計画書に基づく方法論の検討
- 第9回 研究計画書発表と研究計画書に基づく方法論の検討
- 第10回 研究計画書発表と研究計画書に基づく方法論の検討
- 第11回 論文作成の意義
- 第12回 論文作成の方法
- 第13回 プレゼンテーションの方法
- 第14回 卒業研究概略発表
- 第15回 卒業研究概略発表

## ■ 評 価 方 法

研究計画書20%、研究計画書発表20%、卒業研究概略の内容40%、卒業研究概略のプレゼンテーション20%

## ■ 教 科 書

適宜、資料を配布します。

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項



授業科目	理学療法評価学 I	担当者	今井 公一		
学科名	理学療法学専攻	学 年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の生活像の理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか、総論的な内容を学習した後、評価法の各論を学びます。各論の個々の内容は目標を参照。

## ■ 目 標

1. 生活機能について説明できる 2. 理学療法評価の過程について説明できる 3. 理学療法評価実施にあたってのリスクについて説明できる 4. 形態測定及び関節可動域測定の方法について説明できる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 生活機能と理学療法評価
- 第2回 理学療法評価の過程
- 第3回 理学療法評価に必要となる視点と臨床的能力
- 第4回 理学療法評価と安全性
- 第5回 筋骨格系の評価 (1)
- 第6回 筋骨格系の評価 (2)
- 第7回 筋骨格系の評価 (3)
- 第8回 筋骨格系の評価 (4)
- 第9回 筋骨格系の評価 (5)
- 第10回 筋骨格系の評価 (6)
- 第11回 筋骨格系の評価 (7)
- 第12回 筋骨格系の評価 (8)
- 第13回 筋骨格系の評価 (9)
- 第14回 筋骨格系の評価 (10)
- 第15回 理学療法評価学総論 まとめ

## ■ 評価方法

出席点 10% 筆記試験（小テスト・提出物含む） 90%

## ■ 教科書

書名：ICF の理解と活用

著者名：上田 敏

出版社：きょうされん

書名：理学療法評価法

著者名：中島 喜代彦

出版社：神陵文庫

書名：診察と手技がみえる vol.1

著者名：古谷伸之

出版社：メディックメディア

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢/下肢・体幹

著者名：林 典雄

出版社：メジカルビュー社

## ■ 参考図書

書名：PT・OT のための測定評価1 ROM測定

著者名：伊藤俊一他

出版社：三輪書店

書名：ROMナビ 動画で学ぶ関節可動域測定法

著者名：青木主税 他

出版社：(有) ラウンドフラット

書名：PT・OT のための測定評価2 形態測定・反射検査

著者名：伊藤俊一他

出版社：三輪書店

書名：理学療法検査・測定ガイド

著者名：奈良 勲 他

出版社：文光堂

## ■ 留意事項

まず授業中の私語は慎むこと。

1. 学習目標として基礎知識を提示するのでそれについてまずしっかり覚えること。
2. 次に個々の評価方法の手順を覚えること。
3. 加えて各評価方法の留意点を理解すること。

授業科目	理学療法評価学Ⅱ	担当者	今井 公一		
学科名	理学療法専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法評価の各論について学びます。個々の内容は下記の目標参照。

## ■ 目 標

1. 筋機能の評価について説明できる 2. 筋力測定の方法について説明できる 3. 神経機能(意識・知能・高次脳機能、運動麻痺、協調障害、感覚障害、反射・反応、筋緊張)の評価について説明できる 4. 神経系に対する個々の評価方法について説明できる

## ■ 授業計画

- 第1回 筋骨格系の評価 (11)
- 第2回 筋骨格系の評価 (12)
- 第3回 筋骨格系の評価 (13)
- 第4回 筋骨格系の評価 (14)
- 第5回 筋骨格系の評価 (15)
- 第6回 筋骨格系の評価 (16)
- 第7回 神経系の評価 (1)
- 第8回 神経系の評価 (2)
- 第9回 神経系の評価 (3)
- 第10回 神経系の評価 (4)
- 第11回 神経系の評価 (5)
- 第12回 神経系の評価 (6)
- 第13回 神経系の評価 (7)
- 第14回 神経系の評価 (8)
- 第15回 神経系の評価 (9)

## ■ 評価方法

出席点 10% 筆記試験（小テスト・提出物含む） 90%

## ■ 教科書

書名：理学療法評価法

著者名：中島 喜代彦

出版社：神陵文庫

書名：絵でみる脳と神経

著者名：馬場元毅

出版社：医学書院

書名：ベッドサイドの神経の診かた

著者名：田崎 義昭

出版社：南山堂

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一他訳

出版社：協同医書出版

書名：診察と手技がみえる vol.1

著者名：古谷伸之

出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

書名：理学療法評価学テキスト

著者名：星 文彦他

出版社：南江堂

書名：PT・OTのための測定評価2 バランス評価

著者名：星 文彦他

出版社：三輪書店

書名：理学療法検査・測定ガイド

著者名：奈良 勲 他

出版社：文光堂

## ■ 留意事項

まず授業中の私語は慎むこと。

1. 学習目標として基礎知識を提示するのでそれについてまずしっかり覚えること。
2. 次に個々の評価方法の手順を覚えること。
3. 加えて各評価方法の留意点を理解すること。

授業科目	理学療法評価学Ⅲ	担当者	今井 公一		
学科名	理学療法専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法評価学Ⅰ・Ⅱで学んだ個々の検査・測定方法に加えて、各論的に重要な評価方法を学び、後半は臨床適応のために今まで学んできた評価方法についての理解を深めます。

## ■ 目 標

1. 学んだ個々の評価方法（呼吸・循環・代謝、痛み、整形外科的検査、バランス評価、FIM、BI、SF36）について説明できる 2. 治療プログラムの立案を前提とした個々の評価結果の解釈ができる 3. 各評価結果を統合し生活機能の問題について考察できる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 理学療法評価各論 (1)
- 第2回 理学療法評価各論 (2)
- 第3回 理学療法評価各論 (3)
- 第4回 理学療法評価各論 (4)
- 第5回 理学療法評価各論 (5)
- 第6回 理学療法評価 臨床適応 (1)
- 第7回 理学療法評価 臨床適応 (2)
- 第8回 理学療法評価 臨床適応 (3)
- 第9回 理学療法評価 臨床適応 (4)
- 第10回 理学療法評価 臨床適応 (5)
- 第11回 理学療法評価 臨床適応 (6)
- 第12回 理学療法評価 臨床適応 (7)
- 第13回 理学療法評価 臨床適応 (8)
- 第14回 理学療法評価 臨床適応 (9)
- 第15回 理学療法評価 臨床適応 (10)

## ■ 評価方法

提出物 30% 筆記試験 70%

## ■ 教科書

書名：理学療法評価法

著者名：中島 喜代彦

出版社：神陵文庫

書名：診察と手技がみえる vol.1

著者名：古谷伸之

出版社：メディックメディア

書名：ベッドサイドの神経の診かた

著者名：田崎 義昭

出版社：南山堂

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一他訳

出版社：協同医書出版

## ■ 参考図書

書名：理学療法フィールドノート 1 脳血管障害・神経疾患、2 運動器疾患、3 呼吸・循環・代謝疾患

著者名：石川 朗 他

出版社：南江堂

書名：理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸、内部障害理学療法学 循環・代謝、運動器障害理学療法学 I・II、神経障害理学療法学 I・II

著者名：石川 朗 他

出版社：中山書店

## ■ 留意事項

学習課題について自分自身で考え学習すること。

授業科目	理学療法評価学実習	担当者	大槻 桂右		
学科名	理学療法専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

3年次で行う理学療法評価学実習は、臨床場面を強く意識して行う。特に、症例プレゼンテーションや模擬的なカンファレンスの実施を通して、思考能力をトレーニングする場としたい。また各疾患別の理学療法評価を学ぶ。

## ■ 目 標

各疾患別の障害像の理解と基本的な理学療法評価を学ぶ。  
カンファレンスを通して、クリニカル・リーズニングの在り方を学ぶ。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 理学療法評価学実習の目指すところ（症候障害学ならびにクリニカル・リーズニング）。
- 第2回 カンファレンス形式による症例プレゼンテーション
- 第3回 カンファレンス形式による症例プレゼンテーション
- 第4回 症例プレゼンテーションからICFの枠組みを理解する。
- 第5回 症例プレゼンテーションからICFの枠組みを理解する。
- 第6回 中枢神経疾患（片麻痺）の障害像の理解と理学療法評価：急性期
- 第7回 中枢神経疾患（片麻痺）の障害像の理解と理学療法評価：回復期
- 第8回 中枢神経疾患（片麻痺）の障害像の理解と理学療法評価：慢性期
- 第9回 神経筋疾患の障害像の理解と理学療法評価
- 第10回 運動器疾患（変形性関節症）の障害像の理解と理学療法評価
- 第11回 脊髄損傷の障害像の理解と理学療法評価
- 第12回 呼吸循環不全の障害像の理解と理学療法評価
- 第13回 脳性麻痺の障害像の理解と理学療法評価
- 第14回 基本的なクリニカルリーズニングの知識のまとめ。
- 第15回 アドバンスな客観的臨床能力評価を通して、基本的なクリニカルリーズニングを理解する。

## ■ 評 価 方 法

実技試験40%、筆記試験40%、発表点10%、出席点（態度を含む）10%で評価する。

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

実習に関係のない私語は厳禁とする。実習中に注意を何度か受け、かつ改善が認められな場合は実習を妨害したとみなし、対象学生に対して退室を指示することがあるので、真剣に実習に取り組む姿勢を求める。

授業科目	理学療法評価学演習	担当者	大槻 柱右		
学科名	理学療法専攻	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

「理学療法評価学」で学んだ基本的な検査測定手技のより臨床的意義と、各種神経学的検査を習得する。各種検査の臨床的意義や結果の判定方法を考察し、学生同士で正確に検査を行い、判定できることを目標にする。また臨床場面で用いる ICF の理解を促すため、ペーパーペイシエントを用いて演習を行う。演習は実技トレーニングと思考能力をトレーニングから構成する。

## ■ 目 標

各種検査法を学生同士間で正確に実施することができる。  
ペーパーペイシエントから患者の障害像から評価すべき項目を挙げることができる。  
行動学習を通して、国家試験頻出レベルの知識を自分のものとする。

## ■ 授業計画

- 第1回 理学療法評価学演習の目指すところ
- 第2回 カルテ情報の診方: 情報収集とコミュニケーション演習, バイタルサインの診方
- 第3回 関節可動域検査 (上肢・体幹)
- 第4回 関節可動域検査 (下肢・体幹)
- 第5回 徒手筋力検査 (上肢・体幹)
- 第6回 徒手筋力検査 (下肢・体幹)
- 第7回 神経学的検査
- 第8回 痛みの基本的評価
- 第9回 中枢性麻痺と末梢性麻痺を理解と筋緊張検査
- 第10回 ペーパーペイシエントを用いた中枢神経障害疾患 (片麻痺) の障害像の理解
- 第11回 ペーパーペイシエントを用いた中枢神経障害疾患 (パーキンソン病) の障害像の理解
- 第12回 ペーパーペイシエントを用いた運動器疾患 (変形性関節症) の障害像の理解
- 第13回 臨床実習Ⅲオリエンテーション
- 第14回 臨床実習Ⅲに向けた演習
- 第15回 ベーシックなバイタルサインの測定, 関節可動域測定, 徒手筋力検査, 各種基本的検査法の実技

## ■ 評価方法

実技試験40%, 筆記試験40%, 出席点20% で評価する。

## ■ 教科書

書 名: 標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学  
著者名: 内山 靖 (編集)  
出版社: 医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

演習に関係のない私語は厳禁とする。演習中に注意を何度か受け、かつ改善が認められな場合は演習を妨害したとみなし、対象学生に対して退室を指示することがあるので、真剣に演習に取り組む姿勢を求める。学習ニーズのないところに学びない。



授業科目	運動療法学 I	担当者	佐藤 睦美		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法における運動療法の位置づけと基本的概念を講義と演習から学ぶ

## ■ 目 標

各種運動療法技術の理論・目的・方法・適応について理解し、説明できること

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 コースガイダンス  
運動療法の概念（講義）： 運動療法の定義、目的、対象疾患
- 第2回 運動療法の概念（講義）： 運動療法の方法
- 第3回 関節可動域障害に対する運動療法： 関節の構造と運動（講義）
- 第4回 関節可動域障害に対する運動療法： 関節の構造と運動（演習）
- 第5回 関節可動域障害に対する運動療法： 関節拘縮（講義）
- 第6回 関節可動域障害に対する運動療法： 関節拘縮（演習）
- 第7回 関節可動域障害に対する運動療法： 関節可動域運動（講義）
- 第8回 関節可動域障害に対する運動療法： 関節可動域運動（演習）
- 第9回 関節可動域障害に対する運動療法： 軟部組織の力学的特性, ストレッチング（講義）
- 第10回 関節可動域障害に対する運動療法： 軟部組織の力学的特性, ストレッチング（演習）
- 第11回 筋力低下に対する運動療法： 筋の構造・収縮様式（講義）
- 第12回 筋力低下に対する運動療法： 筋の構造・収縮様式（演習）
- 第13回 筋力低下に対する運動療法： 筋張力の規定因子, 筋力増強の原則（講義）
- 第14回 筋力低下に対する運動療法： 筋張力の規定因子, 筋力増強の原則（演習）
- 第15回 筋力低下に対する運動療法： 筋力増強の効果, エネルギー機構（講義）
- 第16回 筋力低下に対する運動療法： 筋力増強の効果, エネルギー機構（演習）
- 第17回 持久力増強運動（講義）
- 第18回 持久力増強運動（演習）
- 第19回 協調性障害に対する運動療法： 運動の協調性（講義）
- 第20回 協調性障害に対する運動療法： 運動の協調性（演習）
- 第21回 協調性障害に対する運動療法： バランス障害（講義）
- 第22回 協調性障害に対する運動療法： バランス障害（演習）
- 第23回 一般的な運動療法についてのまとめ（講義・演習）
- 第24回 一般的な運動療法についてのまとめ（講義・演習）
- 第25回 固有受容性神経筋促通法（講義）
- 第26回 固有受容性神経筋促通法（演習）
- 第27回 組織の病態生理と修復（講義）
- 第28回 組織の病態生理と修復（演習）
- 第29回 講義全体のまとめ（講義・演習）
- 第30回 講義全体のまとめ（講義・演習）

## ■ 評価方法

小テスト (10%), 課題レポート (10%), 定期試験 (80%) に出席状況を併せて評価する

## ■ 教科書

書名: 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論  
出版社: 医学書院

## ■ 参考図書

書名: 理学療法学ゴールドマスターテキスト 2 運動療法学

著者名: 柳沢健 (編)

出版社: メジカルビュー社

書名: ID ストレッチング 書籍・DVD

著者名: 鈴木重明

出版社: 三輪書店

書名: DVD で学ぶ 理学療法特殊テクニック

著者名: 柳沢健 (編)

出版社: 南江堂

## ■ 留意事項

演習の際には実技が実施できる服装で集合すること。

授業科目	運動療法学Ⅱ	担当者	佐藤 睦美		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

運動療法学Ⅰで学んだことを基礎として、運動療法の実際を実技演習を通じて学ぶ

## ■ 目 標

一般的な運動療法の実技を学生同士で実施することができる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 コースガイダンス, 総論
- 第2回 総論
- 第3回 肩関節に対する運動療法: 関節可動域運動①
- 第4回 肩関節に対する運動療法: 関節可動域運動②
- 第5回 肩関節に対する運動療法: 筋力増強運動①
- 第6回 肩関節に対する運動療法: 筋力増強運動②
- 第7回 肘関節に対する運動療法: 関節可動域運動
- 第8回 肘関節に対する運動療法: 筋力増強運動
- 第9回 手関節に対する運動療法: 関節可動域運動
- 第10回 手関節に対する運動療法: 筋力増強運動
- 第11回 股関節に対する運動療法: 関節可動域運動①
- 第12回 股関節に対する運動療法: 関節可動域運動②・筋力増強運動①
- 第13回 股関節に対する運動療法: 筋力増強運動②
- 第14回 膝関節に対する運動療法: 関節可動域運動①
- 第15回 膝関節に対する運動療法: 関節可動域運動②
- 第16回 膝関節に対する運動療法: 筋力増強運動①
- 第17回 膝関節に対する運動療法: 筋力増強運動②
- 第18回 足関節に対する運動療法: 関節可動域運動①
- 第19回 足関節に対する運動療法: 関節可動域運動②・筋力増強運動①
- 第20回 足関節に対する運動療法: 筋力増強運動②
- 第21回 頸部・体幹に対する運動療法: 関節可動域運動①
- 第22回 頸部・体幹に対する運動療法: 関節可動域運動②・筋力増強運動①
- 第23回 頸部・体幹に対する運動療法: 筋力増強運動②
- 第24回 運動連鎖①
- 第25回 運動連鎖②
- 第26回 協調性障害に対する運動療法①
- 第27回 協調性障害に対する運動療法②
- 第28回 協調性障害に対する運動療法③
- 第29回 まとめ
- 第30回 まとめ

## ■ 評価方法

小テスト (10%), 課題レポート (10%), 定期試験 (80%) に出席状況を併せて評価する

## ■ 教科書

書名: 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 第3版

出版社: 医学書院

書名: 実践PTノート 第2版 運動器障害の理学療法

著者名: 小柳磨毅 (編)

出版社: 三輪書店

## ■ 参考図書

書名: 運動療法学テキスト

著者名: 細田多穂 (監修)

出版社: 南江堂

書名: ID ストレッチング 書籍・DVD

著者名: 鈴木重行 (編)

出版社: 三輪書店

## ■ 留意事項

実技のできる服装で出席すること

授業科目	小児期理学療法治療学	担当者	横田 浩子		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

正常運動発達や小児期の種々の疾患を学び、小児の理学療法、(評価・治療)の考え方を学ぶ。

## ■ 目 標

発達期の小児の障害の特異性を理解し発達を考慮した理学療法(評価・治療)を想起出来る。

## ■ 授業計画

- 第1回 成長と発達について
- 第2回 新生児の感覚運動発達(反射・反応・姿勢反射等)
- 第3回 正常感覚運動発達(背臥位・腹臥位での運動発達)
- 第4回 正常感覚運動発達(座位・立位での運動発達)
- 第5回 正常感覚運動発達(上肢機能・手指機能の発達)
- 第6回 正常感覚運動発達(知覚・感覚・認知の発達)
- 第7回 正常感覚運動発達(言語・社会性の発達)
- 第8回 小児の運動発達障害について
- 第9回 小児の脳障害Ⅰ
- 第10回 小児の脳障害Ⅱ
- 第11回 小児の脊髄障害
- 第12回 小児の神経・筋障害
- 第13回 小児の骨・関節障害
- 第14回 小児の運動障害の評価と理学療法
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

試験90% 課題10%

## ■ 教科書

書名:写真で見る乳幼児健診の神経学的チェック法  
 著者名:前川喜平  
 出版社:南山堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

発達途上の小児の特異性をしっかり理解して下さい。

授業科目	呼吸障害理学療法治療学	担当者	野村 卓生		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

「呼吸と運動」に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、呼吸器疾患の病態およびその基本治療を学ぶ。酸素化能障害や換気能力障害などの呼吸器の障害に対する評価と理学療法について、その禁忌やリスク管理をふまえて講義し、実技実習を行う。

## ■ 目 標

フィジカルアセスメント、呼吸機能検査や運動耐容能評価の実習もふまえ、疾患、病態、病期（急性期、慢性期）に応じた理学療法について理解を深める。

## ■ 授 業 計 画

### 第1回 「運動と呼吸」

内部障害の範囲と特徴を理解する。呼吸器系の役割と運動時の適応、呼吸器系の障害が運動を制限するメカニズムを学習する。

### 第2回 「酸素化能、換気能力」

酸素化能障害、換気能力障害の基本的概念をふまえ理解する。酸素化能、換気能力の基本的な評価法について学習する。

### 第3回 「呼吸理学療法における評価1」

基本となる胸部の観察、呼吸困難の評価方法、打診、聴診の実際を学習する。

### 第4回 「呼吸理学療法における評価2」

呼吸機能、運動耐容能の評価方法について、その実際を学習する。

### 第5回 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）の理学療法」

COPDにおける障害、呼吸器疾患患者のADLおよびQOL低下の特徴を理解し、特有の評価方法について学習する。他部門からの情報、理学療法評価結果に基づいた理学療法を学習する。

### 第6回 「拘束性肺疾患、外科手術後、その他呼吸器疾患の理学療法」

疾患、病態の特徴を理解し、特有の評価方法、理学療法について学習する。外科手術が生体に与える影響を理解し、術前後および急性増悪例への理学療法を学習する。

### 第7回 「排痰法」

呼吸リハビリテーションにおける排痰法の目的とその適応、徒手のおよび体位肺痰法の実際を学習する。

### 第8回 「理学療法士による吸引行為」

吸引プロトコル（日本理学療法士協会）に沿って吸引のための基礎知識、実際の概要を学習する。

## ■ 評価方法

期末試験 70%、提出課題（場合によっては小テスト） 30%

## ■ 教科書

書名：内部障害理学療法学テキスト  
著者名：細田多穂 監、山崎裕司・川俣幹雄・丸岡弘 編  
出版社：南江堂

## ■ 参考図書

書名：ゴールド・マスター・テキスト 内部障害系理学療法学  
著者名：柳澤健 編  
出版社：メジカルビュー社

書名：動画でわかる呼吸リハビリテーション 第2版  
著者名：高橋仁美・塩谷隆信・宮川哲夫  
出版社：中山書店

書名：呼吸・心臓リハビリテーション ビジュアル実践リハ  
著者名：高橋哲也・間瀬教史  
出版社：羊土社

書名：理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸  
著者名：石川朗・玉木彰  
出版社：中山書店

書名：DVD で学ぶ呼吸理学療法テクニック 呼吸と手技のタイミングがわかる動画91  
著者名：玉木彰  
出版社：南江堂

## ■ 留意事項

授業では、個人情報に関わる資料を提示する場合があります。取り扱いには十分に留意しなければならないことを認識して望むこと。授業には出席することが必須の前提であり、無断欠席、遅刻には十分に注意し、実習にも積極的に参加すること。実習を行う際には白衣（KC）を着用し、爪は短く切っておくこと。

授業科目	代謝障害理学療法治療学	担当者	洲崎 俊男		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

代謝障害と内部障害の概念，糖尿病，高脂血症，高尿酸血症・痛風，肝機能障害，腎機能障害，骨代謝障害等の病態，症状，治療法についての知識を修得する．特に運動がこれらの代謝障害や代謝系疾患に及ぼす影響について学習する．

## ■ 目 標

主な代謝障害の病態の理解と運動が代謝障害や代謝疾患に及ぼす影響が理解できる．具体的な運動療法が理解でき，治療へとつながるようになる．更に運動療法以外の食事療法や薬物療法等の知識も深める．

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 内部障害と代謝障害の概念  
【各論】糖尿病Ⅰ DVDあり
- 第2回 糖尿病Ⅱ
- 第3回 脂質異常症（高脂血症） DVDあり
- 第4回 高尿酸血症・通風 DVDあり
- 第5回 骨代謝障害 DVDあり
- 第6回 肝機能障害
- 第7回 腎機能障害
- 第8回 その他の代謝障害

## ■ 評 価 方 法

筆記試験（55%），小テスト（30%），出席状況（15%，無断欠席や遅刻はマイナス評価），の結果を総合的に評価する．

## ■ 教 科 書

特に使用しない．手作りのプリントおよびDVDを使う．

## ■ 参 考 図 書

書 名：シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法治療学テキスト  
著者名：細田多穂監修  
出版社：南江堂

## ■ 留 意 事 項

第2回目から前回の復習を兼ねた小テストを実施する．



授業科目	中枢神経障害理学療法治療学	担当者	石倉 隆		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

脳神経疾患の理学療法における脳神経科学の重要性を説き、evidence ある理学療法を展開する基礎的知識を涵養する。特に、脳機能と運動障害、運動障害の原因となる脳神経疾患の病理・病態学、evidence に基づいた理学療法の方法論について学修する。

## ■ 目 標

中枢神経障害理学療法について、検査・測定結果から科学的根拠に基づいた臨床推論ができることを目標とする。

## ■ 授業計画

- 第1回 脳神経疾患理学療法の脳神経科学の重要性と脳神経科学の理学療法への応用
- 第2回 脳神経解剖と脳神経機能系
- 第3回 脳血管障害の病態と症候
- 第4回 脳血管障害の理学療法
- 第5回 パーキンソン病の病態と症候
- 第6回 パーキンソン病の理学療法
- 第7回 脊髄小脳変性症の病態と症候
- 第8回 脊髄小脳変性症の理学療法

## ■ 評価方法

筆記試験 100%

## ■ 教科書

- 書名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅰ  
 著者名：石川 朗（責任編集）  
 出版社：中山書店
- 
- 書名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅱ  
 著者名：石川 朗（責任編集）  
 出版社：中山書店

## ■ 参考図書

- 書名：脳卒中ビジュアルテキスト 第2版  
 著者名：高木康行  
 出版社：医学書院
- 
- 書名：脳の機能解剖と画像診断  
 著者名：真柳佳昭  
 出版社：医学書院
- 
- 書名：脳神経疾患ビジュアルブック  
 著者名：落合慈之  
 出版社：学研

## ■ 留意事項

教科書以外に提示する資料は、個人情報に係るものも多い。その取り扱いには十分に注意し、学外でみだりに他言したり閲覧したりしないように心掛けること。また、講義の進度は非常に速いので、脳神経解剖学、脳神経生理学の復習をしておくことを希望する。

授業科目	老年期理学療法治療学	担当者	上田 陽之		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

慢性期病院（療養型病院）における生活機能へのアプローチの重要性と高齢者の維持期リハビリテーションにおける理学療法評価と治療を学習する

## ■ 目 標

①健常者の身体機能（筋骨格系を中心に）姿勢・動作の操作法を演習し、高齢者の変形や拘縮、姿勢・動作の特徴を理解できるようにする。②健常者の生活リズム、生活空間、人間関係などを確認しながら療養病棟における生活支援について議論できるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 生命維持支援のリハビリテーション（1） 異常筋緊張のメカニズム
- 第2回 演習（1） 異常筋緊張とリラクゼーション
- 第3回 生命維持支援のリハビリテーション（2） 姿勢のコントロール
- 第4回 演習（2） 姿勢のコントロール
- 第5回 廃用症候群（特に変形・拘縮）の予防と改善
- 第6回 演習（3） 変形・拘縮の介入法
- 第7回 環境調整（移動・コミュニケーション手段の確立）
- 第8回 生活リズムの獲得と維持（離床に向けた取り組み）

## ■ 評価方法

筆記試験100%

## ■ 教科書

## ■ 参考書

## ■ 留意事項

授業科目	循環器障害理学療法治療学	担当者	大槻 桂右		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

循環器疾患患者は増加の一途を辿っている。特に動脈硬化症を背景とする心筋梗塞，狭心症，末梢循環不全，心不全は国家試験出題数も多い。理学療法士はそれらに対する全般的な医学的知識とリハビリテーションの介入の方法論を学ばなければならない。最先端の臨床的知見を学ぶだけでなく，循環器領域での理学療法士の役割を講義する。

## ■ 目 標

心臓リハビリテーションの在り方を学ぶ。  
ペーパーペイシエントを通して心疾患の臨床推論の在り方を学ぶ。

## ■ 授業計画

- 第1回 心臓リハビリテーションの概説
- 第2回 急性心筋梗塞に対する理学療法評価ならびに運動療法を学ぶ。
- 第3回 回復期心筋梗塞に対する理学療法評価ならびに運動療法を学ぶ。
- 第4回 急性心不全に対する理学療法評価ならびに運動療法を学ぶ。
- 第5回 慢性心不全に対する理学療法評価ならびに運動療法を学ぶ。
- 第6回 不整脈を合併する症例に対する理学療法評価ならびに運動療法を学ぶ。
- 第7回 末梢循環不全に対する理学療法評価ならびに運動療法を学ぶ。
- 第8回 ペーパーペイシエントを用いて，心疾患に対する臨床推論を学ぶ。

## ■ 評価方法

筆記試験80% 出席点20% で評価する。

## ■ 教科書

書 名：内部障害理学療法学テキスト  
著者名：細田多穂，山崎裕司，川俣幹雄，丸岡弘  
出版社：南江堂

## ■ 参考図書

書 名：循環器理学療法の理論と技術  
著者名：増田 卓，松永 篤彦  
出版社：メジカルビュー社

## ■ 留意事項

講義中の私語は厳禁とする。講義中に注意を何度か受け，かつ改善が認められな場合は講義を妨害したとみなし，対象学生に対して退室を指示することがある。真剣に取り組む姿勢を求める。

授業科目	神経筋障害理学療法治療学	担当者	井上 悟		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

神経内科学で紹介された本疾患群の理学療法およびリハビリテーションについて、症例紹介を含めた臨床講義の要素をできるだけ取り入れて行う予定である。

## ■ 目 標

神経筋疾患に対する理学療法について、その基本を理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 総論：神経筋疾患に対する理学療法・リハビリテーション
- 第2回 パーキンソン病（パーキンソン症候群）に対する理学療法
- 第3回 運動失調症に対する理学療法：脊髄小脳変性症
- 第4回 多発性硬化症に対する理学療法
- 第5回 運動ニューロン疾患に対する理学療法Ⅰ：筋萎縮性側索硬化症
- 第6回 運動ニューロン疾患に対する理学療法Ⅱ：脊髄性筋萎縮症
- 第7回 末梢神経障害に対する理学療法：多発性ニューロパチー（ギラン・バレー症候群を中心に）
- 第8回 筋疾患に対する理学療法：筋ジストロフィー症、多発性筋炎・皮膚筋炎など

## ■ 評 価 方 法

筆記試験にて評価する

## ■ 教 科 書

「神経内科学」の講義ノートを必ず持参すること。復習で利用する。

## ■ 参 考 書

- 書名：<http://www.fmu.ac.jp/home/neurol/guideline.html> 神経免疫疾患治療ガイドライン
- 書名：clinical neuroscience（雑誌）
- 出版社：中外医学社
- 書名：「神経・筋疾患のマネジメント」
- 著者名：医学書院
- 出版社：加倉井周一／清水夏繪編
- 書名：「神経リハビリテーション」
- 著者名：岩崎祐三他訳
- 出版社：医学書院
- 書名：理学療法ハンドブック4版
- 著者名：細田多穂・柳沢 健
- 出版社：協同医書
- 書名：「神経筋疾患の評価とマネジメント」
- 著者名：大澤真木子監訳
- 出版社：診断と治療社
- 書名：「神経筋疾患の呼吸管理」
- 著者名：Bach, John R・石川悠加共著
- 出版社：日本小児医事出版社
- 書名：「臨床リハビリテーション 悪性腫瘍と神経変性疾患・小児リハビリテーション（Ⅱ）」
- 出版社：医歯薬出版

## ■ 留 意 事 項

できれば、神経内科学の資料で、各疾患の復習をしていただきたい。  
 なお、講義内容の順番については講師の都合により変動することがあります。ご了承ください。

授業科目	リウマチ・有痛性障害理学療法治療学	担当者	佐藤 睦美		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

関節リウマチの病態と慢性痛の機序を学び、それらに対する根拠のある理学療法を学ぶ

### ■ 目 標

慢性関節リウマチの病態と慢性痛の機序を理解し、理学療法評価と治療プログラムを立案できるようになる。

### ■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス・関節リウマチの病態と治療
- 第2回 関節リウマチに対する理学療法
- 第3回 関節リウマチに対する理学療法
- 第4回 関節リウマチに対する理学療法のまとめ
- 第5回 有痛性障害に対する理学療法： 慢性痛のメカニズム
- 第6回 有痛性障害に対する理学療法： CRPS
- 第7回 有痛性障害に対する理学療法： 評価と治療
- 第8回 有痛性障害に対する理学療法のまとめ

### ■ 評価方法

出席10%, 小テスト10%, 定期テスト80%

### ■ 教科書

書名：(標準理学療法学 専門分野 理学療法学 各論 第3版) ※運動療法学IIと共通  
出版社：医学書院

### ■ 参考図書

書名：理学療法 MOOK 3 疼痛の理学療法 慢性痛の理解とエビデンス 第2版  
出版社：三輪書店

### ■ 留意事項

授業科目	運動器・スポーツ障害理学療法治療学	担当者	佐藤 睦美		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

運動器障害、スポーツ傷害の病態を学び、理学療法評価・治療への展開を学ぶ

### ■ 目 標

運動器障害、スポーツ傷害の各疾患に応じた理学療法評価と治療を立案・実施する

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 コースガイダンス, 総論
- 第2回 肩関節と肩甲帯①
- 第3回 肩関節と肩甲帯②
- 第4回 肘関節と前腕
- 第5回 手関節・手指
- 第6回 股関節①
- 第7回 股関節②
- 第8回 膝関節①
- 第9回 膝関節②
- 第10回 膝関節③
- 第11回 足関節①
- 第12回 足関節②
- 第13回 脊柱・体幹①
- 第14回 脊柱・体幹②
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

出席10%, 課題レポート10%, 定期テスト80%

## ■ 教科書

書名：(標準理学療法学 専門分野 理学療法学 各論 第3版) ※運動療法学 II と共通  
出版社：医学書院

書名：(実践PT ノート 第2版 運動器障害の理学療法) ※運動療法学 II と共通  
著者名：小柳磨毅 (編)  
出版社：三輪書店

書名：スポーツ傷害の理学療法 第2版  
著者名：福井勉・小柳磨毅 (編)  
出版社：三輪書店

## ■ 参考図書

書名：理学療法学マスターテキスト 4 整形外科系理学療学  
著者名：柳沢健 (編)  
出版社：メジカルビュー社

書名：スポーツ膝の臨床  
著者名：史野根生  
出版社：金原出版

書名：ここがポイント！ 整形外科疾患の理学療法 改訂第2版  
著者名：富士武史 (監修)  
出版社：金原出版

## ■ 留意事項

実技のできる服装で出席すること

授業科目	健康増進理学療法学	担当者	佐藤 秀紀		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

高齢社会の現代においては、健全な社会構築のために疾病や障害予防のための健康増進が注目されている。この講義では、予防のための理学療法のあり方についてテーマとし、健康増進を目的とした理学療法における基本的な評価、運動療法の理論と実際について学ぶ。

## ■ 目 標

健康増進を目的とした理学療法における基本的な評価、運動療法の理論と実際について理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 健康概念の変遷と健康増進
- 第2回 脳血管疾患を有する人の健康増進 ①脳卒中の対策 リハビリテーションと再発予防
- 第3回 脳血管疾患を有する人の健康増進 ②パーキンソン病の対策 日常生活のケアとは？
- 第4回 運動器疾患を有する人の健康増進 ①首の痛み 首の痛みの対処法
- 第5回 運動器疾患を有する人の健康増進 ②肩の痛み 肩の痛みを長引かせない！
- 第6回 運動器疾患を有する人の健康増進 ③手のトラブル 早めに解消！手のトラブル
- 第7回 運動器疾患を有する人の健康増進 ④股関節の痛み 上手につきあう股関節の病気
- 第8回 運動器疾患を有する人の健康増進 ⑤腰の痛み ここまで進んだ腰痛対策
- 第9回 運動器疾患を有する人の健康増進 ⑥膝の痛みと踵の痛み
- 第10回 運動器疾患を有する人の健康増進 ⑦関節リウマチの対策 上手につきあい悪化を防ぐ暮らし方
- 第11回 脳性麻痺児のケア
- 第12回 筋ジストロフィーと二分脊椎児のケア
- 第13回 糖尿病・動脈硬化を有する人の健康増進 足が危ない！糖尿病のフットケア
- 第14回 呼吸器疾患を有する人の健康増進 肺年齢と COPD 生活を楽にする工夫
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

小テスト50%、学期末試験50%

## ■ 教 科 書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項



授業科目	物理療法学	担当者	洲崎 俊男		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法の中での物理療法の位置づけと役割を理解する。物理療法で用いられる物理的刺激をどのように利用すべきか、またどのようなリスクが発生するのか、それらの特性を紹介かつ理解しながら理学療法治療手段の選択肢を修得する。特に、適応と禁忌についての理解を深める。

## ■ 目 標

物理療法が生体に及ぼす影響が理解できる。主な物理療法機器の原理・作用・適応・禁忌事項等の知識を総合的に修得する。リスク管理の知識を深め、安全に機物理療法器が使用できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 歴史的背景、理学療法の中での物理療法の位置づけ、物理療法の分類。
- 第2回 物理療法で用いられる基礎物理学知識
- 第3回 物理療法が生体に及ぼす生理学的作用（基礎知識）
- 第4回 炎症・痛みに対する物理療法
- 第5回 【各論】  
温熱療法の概念（伝導、伝導・対流、放射、変換熱）、ホットパック、パラフィン
- 第6回 寒冷療法（アイスマッサージ・アイシング、極低温療法）
- 第7回 光線療法（赤外線、紫外線、低出力レーザー）
- 第8回 電磁波療法（極超短波、超短波）
- 第9回 超音波療法
- 第10回 電気刺激療法（低周波、経皮的末梢神経電気刺激）
- 第11回 電気刺激療法（機能的電気刺激法、治療的電気刺激法など）
- 第12回 その他の電気療法（電気生理学的検査、バイオフィードバックなど含む）
- 第13回 牽引療法（頸椎、腰椎）、マッサージ
- 第14回 水治療法（渦流浴、ハバードタンク、運動浴）
- 第15回 その他（持続的他動運動、間欠圧迫療法）、リスク管理

## ■ 評価方法

筆記試験（45%）、提出課題（10%）、小テスト（30%）、出席状況（15%、無断欠席や遅刻はマイナス評価）、の結果を総合的に評価する。

## ■ 教科書

書名：標準理学療法学 専門分野 物理療法学  
著者名：網本和編  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書名：理学療法学，ゴールド・マスター・テキスト 物理療法学  
著者名：柳沢健編  
出版社：メジカルビュー社

書名：シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト  
著者名：細田多穂監修  
出版社：南江堂

## ■ 留意事項

電気療法関係の提出課題あり。 第2回目から前回の復習を兼ねた小テストを実施する。

授業科目	物理療法学実習	担当者	洲崎 俊男		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

2つの大班（A,B）に分ける。1大班は9つの小班に分け、各小班はローテーションで9種類（ホットパック、パラフィン、アイスマッサージ、極超短波、超音波、電気・低周波、電気・干渉波、牽引、渦流浴）の機器等を使ってすべての項目の実習を少人数で行う。実習日の13回目から、小班を3つに合わせた中班で、各中班に提示された症例課題に対して物理療法手段の検討・施行、データ収集、文献検索の準備を行う。各自、報告書にまとめて提出する。

## ■ 目 標

物理療法学で学んだ知識をもとに主要な治療機器等を安全に操作することができ、リスク管理が十分に行えるようになる。更に、物理的エネルギーが生体に与えられたときの生理学的反応などを検証・討議できるようになる。実際に提示された症例に対して、物理療法学的手段をグループ内で討議し、治療の実践、データの収集、文献検索等も行い、報告書にまとめる。総合的に経験でき、かつ対象者の疾患や障害についても理解し、物理療法的治療に応用ができる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 実習オリエンテーション：9種類の物理療法機器の確認及び取扱い留意事項（機器について具体的な説明等）
- 第2回 実習 第1回目 実習前に指定された各小班がローテーションで9つの治療手段の実習を行う。翌週の実習開始前に各自レポートにまとめて提出する。2回目以後も同様とする。
- 第3回 実習 第2回目 同 上
- 第4回 実習 第3回目 同 上
- 第5回 実習 第4回目 同 上
- 第6回 実習 第5回目 同 上
- 第7回 実習 第6回目 同 上
- 第8回 実習 第7回目 同 上
- 第9回 実習 第8回目 同 上
- 第10回 実習 第9回目 同 上
- 第11回 物理療法全般のリスク管理と8つの実習機器の具体的なリスク管理
- 第12回 9回実施した小班での実習の総括（レポートの書き方、注意事項等）  
症例課題の提示（小班が3つ合同となる3中班への提示）。
- 第13回 症例課題実習Ⅰ 提示された症例を3つの各班内で議論して使用機器を決定する。  
中班内で決定した使用機器でデータ採取等の準備や文献収集等の準備も並行して行う。
- 第14回 症例課題実習Ⅱ データ採取を行う。文献収集等レポート報告の準備も行う。
- 第15回 症例報告書提出（実習時間終了までに全員が各自のレポートを提出する）

## ■ 評価方法

筆記試験 (20%), 実習中実技・知識等のチェック (15%), 提出課題 (50%), 出席状況 (15%, 無断欠席や遅刻はマイナス評価) の結果を総合的に評価する。

## ■ 教科書

特に使用せず, 作成した実習の手引きを使う。但し, 講義に用いた教科書は持参すること。

## ■ 参考図書

書名: 標準理学療法学 専門分野 物理療法学 第3版

著者名: 網本和編

出版社: 医学書院

書名: シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト

著者名: 細田多穂監修

出版社: 南江堂

書名: EBM 物理療法

著者名: 渡辺一郎監訳

出版社: 医歯薬出版

## ■ 留意事項

1. 学生全員が験者, 被験者を必ず体験すること。
2. リスク管理事項を絶対に遵守すること。
3. 実習第1日目から第9回目までの小班実習では, 9回の実習項目について全員がレポートを提出する。
4. 症例課題では, 中班での討議, データ収集, 文献収集等をした後, 全員がレポートを提出する。
5. 実習ガイド (手引書) をあらかじめ十分に熟読・予習してきて, 実習開始後速やかに行動ができるようにする。

授業科目	義肢装具学	担当者	高木 啓至・橋田 剛一		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

義肢装具に関する基本的事項を学習し、各種義肢装具の特性と構造を理解する。臨床で用いる義肢装具の基礎的知識の定着を図る。

## ■ 目 標

知識・理解の観点：臨床で使用される義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。

思考・判断の観点：対象者の障害レベルに応じた義肢装具の類別ができる。

技能・表現の観点：各種障害に対する義肢装具の選択と適合判定ができる。

## ■ 授業計画

第1回 オリエンテーション（授業計画概要の説明と成績判定方法の説明）

装具学1 装具学総論

第2回 装具学2 整形外科的治療用装具

第3回 装具学3 体幹装具

第4回 装具学4 長下肢装具

第5回 装具学5 短下肢装具

第6回 装具学6 靴型装具

第7回 装具学7 小児装具

第8回 装具学8 上肢装具

第9回 義肢学1 義肢学総論

第10回 義肢学2 下腿義足

第11回 義肢学3 大腿義足①

第12回 義肢学4 大腿義足（含む 膝義足）②

第13回 義肢学5 股義足・サイム義足・足部部分義足①

第14回 義肢学6 上肢切断と義手

第15回 義肢学7 最先端装具・義足の構造と機能

## ■ 評価方法

筆記試験（100%）

## ■ 教科書

書名：義肢装具学（第4版）

著者名：編集：川村次郎／陳隆明／古川宏／林義孝

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書名：義肢装具のチェックポイント（第7版）

著者名：監修：日本整形外科学会 / 日本リハビリテーション医学会

出版社：医学書院

## ■ 留意事項

短い授業時間で広範囲を学習しますので、日々の予習・復習を励行して下さい。

授業科目	義肢装具学実習	担当者	高木 啓至・橋田 剛一		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

装具療法を必要とする各種疾患・障害への介入方法および、各切断レベルに対応する義足の適合判定と異常歩行を学習する。加えて断端管理法、義肢装着練習など切断リハビリテーションに関する知識を修得する。

## ■ 目 標

知識・理解の観点：各疾患・障害に適応する義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。  
 思考・判断の観点：対象者の障害構造に応じた義肢装具が類別できる。  
 技能・表現の観点：義肢装具の適合判定および理学療法介入ができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業計画概要の説明と成績判定方法の説明）
- 装具学演習1 脳卒中片麻痺者の装具と理学療法①
- 第2回 装具学演習2 脳卒中片麻痺者の装具と理学療法②
- 第3回 装具学演習3 脊髄損傷者の装具と理学療法
- 第4回 装具学演習4 脊椎疾患の装具と理学療法
- 第5回 装具学演習5 小児疾患の装具と理学療法
- 第6回 装具学演習6 上肢装具と理学療法
- 第7回 装具学演習7 靴型装具と理学療法
- 第8回 義肢学演習1 下腿義足の適合判定と異常歩行
- 第9回 義肢学演習2 大腿義足の適合判定と異常歩行①
- 第10回 義肢学演習3 大腿義足の適合判定と異常歩行②
- 第11回 義肢学演習4 下肢切断の理学療法①
- 第12回 義肢学演習5 下肢切断の理学療法②
- 第13回 義肢学演習6 模擬義足による体験学習および弾性包帯法実技①
- 第14回 義肢学演習7 模擬義足による体験学習および弾性包帯法実技②
- 第15回 義肢装具学演習 義肢装具の支給体系と授業のまとめ

## ■ 評価方法

筆記試験（100%）

## ■ 教科書

書名：義肢装具学（第4版）  
 著者名：編集：川村次郎／陳隆明／古川宏／林義孝  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書名：義肢装具のチェックポイント（第7版）  
 著者名：監修：日本整形外科学会 / 日本リハビリテーション医学会  
 出版社：医学書院

## ■ 留意事項

短い授業時間で広範囲を学習しますので、日々の予習・復習を励行して下さい。  
 前期義肢装具学の授業資料を毎回持参して下さい。

授業科目	日常生活活動学	担当者	洲崎 俊男		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

日常生活に關与する諸活動の概念，各種評価法，生活關連活動の概念と範圍，国際障害分類と国際機能分類の理解を深める．自助具，福祉・生活支援機器，コミュニケーション機器の知識を持つ．主な疾患・病態（片麻痺，頸髓・脊髄損傷，筋萎縮性側索硬化症，筋ジストロフィー，運動失調，パーキンソン病，関節リウマチ，切断，脳性麻痺，認知症含む高齢者等）の日常生活活動の特徴並びに介助法や指導法について学習する．

## ■ 目 標

日常生活に關与する諸活動の概念，分析，評価及ぶ練習についての知識を深める．国際障害分類から国際機能分類へ移行した経緯や主な概念についての理解を深める．更に，従来からの主な評価法を修得する．理学療法士が必要とする自助具，福祉・生活支援機器，コミュニケーション機器の知識を習得する．代表的疾患の日常生活活動の特徴並びに介助法や指導法について修得する．

## ■ 授業計画

- 第1回 理学療法の中での日常生活活動の位置づけ  
日常生活活動の概念・定義・意義（評価の目的・範囲と項目，数量化）
- 第2回 国際障害分類と生活機能分類について
- 第3回 代表的評価法
- 第4回 日常生活活動と運動学
- 第5回 基本的 ADL と生活關連活動（拡大 ADL）
- 第6回 日常生活活動と自助具
- 第7回 日常生活活動を支援するリハビリテーション機器・福祉機器とコミュニケーション機器
- 第8回 【各論】障害別の日常生活活動指導の実際
  - ①片麻痺
- 第9回 ②脊髄損傷（四肢麻痺，対麻痺）
- 第10回 ③切断（下肢，上肢）
- 第11回 ④関節リウマチ
- 第12回 ⑤筋萎縮性疾患（筋ジストロフィー，筋萎縮性側索硬化症）
- 第13回 ⑥神経筋疾患
  - 脊髄小脳変性症（運動失調），パーキンソン病，多発性硬化症
- 第14回 ⑦脳性麻痺
- 第15回 ⑧高齢者（在宅，認知症など），廃用症候群

## ■ 評価方法

筆記試験（35%）、提出課題（20%）、小テスト（30%）、出席状況（15%、無断欠席や遅刻はマイナス評価）、の結果を総合的に評価する。

## ■ 教科書

書名：日常生活活動（動作）—評価と訓練の実際—  
著者名：土屋弘吉等  
出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学  
著者名：鶴見隆正編  
出版社：医学書院

---

書名：ADL とその周辺 —評価・指導・介護の実際—  
著者名：伊藤利之，鎌倉矩子編  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

2回の提出課題（利き手不使用体験、福祉・生活支援機器・バリアフリー住宅等の見学）あり。  
第2回目から前回の復習を兼ねた小テストを実施する。



授業科目	日常生活活動学実習	担当者	洲崎 俊男		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

姿勢と動作の基礎的知識，起居・移動・移乗及び段差・階段・歩行に関わる自力動作と介助法を修得する。片麻痺、脊髄損傷者の車いす操作法，及び車いすのキャスター上げを体得する。各論として，主な疾患（片麻痺，脊髄損傷，関節リウマチ，切断，筋萎縮性疾患，神経筋疾患，脳性麻痺）の特徴的動作を習得させる。クラスを2つの大班に分けて実習を行う。

## ■ 目 標

姿勢と動作の基礎的知識が理解できる。起居・移動・移乗動作に関わる自力動作と介助法が理解でき，かつ安全に実践できる。片麻痺，脊髄損傷者の車いす操作，及び車いすキャスター上げができ，指導もできる。各論として，主な疾患（片麻痺，脊髄損傷，関節リウマチ，切断，筋萎縮性疾患，神経筋疾患，脳性麻痺）の特徴的動作が理解でき，対象者（障害）別の指導方法も理解できるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 実習オリエンテーション  
姿勢と動作の基礎知識（概念，身体力学，基本の姿勢，体位変換）
- 第2回 基本の姿勢，体位変換
- 第3回 移乗・移動時の注意点とリスク管理
- 第4回 平地歩行，段差・階段昇降（自力，介助）
- 第5回 片麻痺と対麻痺における移動動作（自力，介助）
- 第6回 片麻痺者・対麻痺者の移乘法，及び介助法（自力，介助）
- 第7回 片麻痺者・対麻痺者の車いす操作法（自力）
- 第8回 車いす操作・キャスター上げ①
- 第9回 車いす操作・キャスター上げ②
- 第10回 各論①片麻痺者の特徴的動作
- 第11回 各論②脊髄損傷（四肢麻痺，対麻痺）者の特徴的動作
- 第12回 各論③関節リウマチ者の特徴的動作
- 第13回 各論④切断（下肢，上肢）者の特徴的動作，キャスター上げ実技
- 第14回 各論⑤筋萎縮性疾患（筋ジストロフィー，筋萎縮性側索硬化症）の特徴的動作  
神経筋疾患（脊髄小脳変性症，パーキンソン病，多発性硬化症）の特徴的動作  
脳性麻痺（児，者）の特徴的動作
- 第15回 トランスファー実技

## ■ 評価方法

筆記試験（30%）、実技試験（40%）、実習態度（15%）、出席状況（15%）、無断欠席や遅刻はマイナス評価）、の結果を総合的に評価する。

## ■ 教科書

下記の新版 姿勢と動作を用いるが、各論時に講義で使用した教科書も用いる。

書名：新版 姿勢と動作 — ADL その基礎から応用まで—

著者名：斉藤宏他著

出版社：メヂカルフレンド社

## ■ 参考図書

書名：日常生活活動（動作）—評価と訓練の実際—（前期の講義で使用したもの）

著者名：土屋弘吉等

出版社：医歯薬出版

書名：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学

著者名：鶴見隆正編

出版社：医学書院

書名：ADL とその周辺 —評価・指導・介護の実際—

著者名：伊藤利之，鎌倉矩子編

出版社：医学書院

## ■ 留意事項

使用する教科書（前半は実習用に購入したもの、後半は講義用に使用したもの）を必ず熟読してくる。  
なお、実技試験2回と筆記試験を実施し、実習中の取り組み方や態度の評価も行う。

授業科目	地域理学療法学	担当者	新田 勉		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

日本における社会保障制度の変遷をみながら、現在の日本の医療制度の問題点を探り、これからの地域における理学療法の在り方を考える。

## ■ 目 標

地域リハビリテーションの概念を学ぶ、その理念を理解する。  
 地域リハビリテーションシステム（制度と社会資源）を学ぶ。  
 リハビリテーション関係職種を理解し地域における理学療法士の役割を考える。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本の医療の変遷
- 第3回 日本の医療・福祉の抱える問題
- 第4回 日本の地域医療に求められること
- 第5回 地域リハビリテーションの実際
- 第6回 介護保険と理学療法
- 第7回 地域における連携
- 第8回 在宅療養者の実際
- 第9回 訪問理学療法・ケアマネジメント
- 第10回 地域理学療法の実際
- 第11回 地域理学療法の実際
- 第12回 生活環境整備
- 第13回 生活環境整備と地域医療サービスの利用
- 第14回 グループワーク発表
- 第15回 総括

## ■ 評価方法

レポート80%・出席状況20%（無断欠席や遅刻はマイナス評価）

## ■ 教科書

授業ごとに配布するプリント

## ■ 参考図書

- 書 名：標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学  
 著者名：牧田光代 他  
 出版社：医学書院
- 
- 書 名：地域リハビリテーション原論  
 著者名：大田仁史  
 出版社：医歯薬出版株式会社
- 
- 書 名：地域理学療法にこだわる  
 著者名：嶋田智明 他  
 出版社：文光堂

## ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

授業科目	生活環境論	担当者	田中 仁		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

リハビリテーションに関わる生活環境を、患者（利用者）を取り巻く生活地域に視点をおいて考える。

## ■ 目 標

現在日本における患者（利用者）の在宅環境（家屋、福祉用具等）を、医療保険、介護保険の現行制度を通して、リハビリテーションの視点で理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 生活環境の変遷
- 第2回 QOL
- 第3回 行政・制度的環境
- 第4回 居住環境（一般的知識）
- 第5回 居住環境（介助・移動を前提とした）
- 第6回 居住環境（ADL自立者を前提とする場合1）
- 第7回 居住環境（ADL自立者を前提とする場合2）
- 第8回 居住環境（ADL自立者を前提とする場合3）
- 第9回 福祉・リハビリテーション関連機器（一般知識）
- 第10回 福祉・リハビリテーション関連機器（ADL関連）
- 第11回 福祉・リハビリテーション関連機器（ADL関連）
- 第12回 社会生活用具・機器・設備
- 第13回 社会生活用具・機器・設備
- 第14回 地域環境
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

試験100%

## ■ 教 科 書

書 名：生活環境論 第6版 生活支援の視点と方法  
 著者名：木村 哲彦 監修  
 出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	卒業研究論文	担当者	複数教員		
学科名	理学療法学専攻	学年	4年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法に関する研究を通じて、研究手法や現象に対する考察の手順を学ぶ

## ■ 目 標

研究手法の基礎を理解し、自ら考察する力を養う。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索の方法： インターネットを利用した論文の検索方法について学ぶ
- 第3～8回 先行研究論文の抄読： 各グループで発表を行い、研究テーマや手法について考える
- 第8～11回 研究計画書の作成： 規定の書式に従い計画書を作成し、担当教員の指導を受ける
- 第12～22回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定）
- 第23～33回 収集した研究データを整理・解析する： 結果をまとめグループ内で発表する
- 第34～40回 得られた結果について考察する： 得られた結果に対する考察をまとめグループ内で発表する
- 第41～48回 論文を作成する： 規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける
- 第49～53回 研究報告会用のプレゼンテーション資料、配付資料を作成する
- 第53～58回 研究報告会： 全体で報告会を実施し、他者の発表に対して積極的に質問をする。
- 第59～60回 卒業研究論文を完成させる： 研究報告会での質疑応答や指摘をふまえて論文を修正する。

## ■ 評 価 方 法

出席状況（10%）、研究報告会での発表状況（30%）、卒業研究論文（60%）

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	臨床実習 I	担当者	藪中 良彦・他		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

専任教員と共に国内医療施設で1週間の見学実習を行う。

## ■ 目 標

現在の国内医療施設における理学療法の概観を理解する。例えば、問診、情報収集、評価、運動療法、物理療法などの理学療法の一連の流れを概観することでこれを理解する。また、障害について実際の対象者様の生活像を理解する。特に理学療法士の仕事を理解することと、対象者様や病院スタッフの方とスムーズにコミュニケーションを取れるようになることが具体的な目標である。

## ■ 授業計画

実習施設 協力医療機関

実習期間 1週間

実習形態 協力病院において、専任教員と臨床実習指導者の指導／監督の下、患者と直接に対応する。専任教員は学生の臨床現場を観察し、学生の臨床実習に臨む態度などを適切に把握し、臨床実習指導者と綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。

実習の進め方 理学療法概論で学んだ問診、情報収集、評価、運動療法、物理療法などを実際の臨床現場で体験し、理解を深める。実習の進め方は、臨床現場の見学と専任教員のフォローを織り交ぜて実施する。

## ■ 評価方法

出席、実習態度、臨床実習実施記録の内容、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

## ■ 教科書

書名：診察と手技がみえる〈1〉

著者名：古谷伸之

出版社：メディックメディア

書名：PT 臨床実習ルートマップ

著者名：柳澤健

出版社：メジカルビュー社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

臨床実習 I は、実際の臨床現場での実習となる。臨床実習実施要綱には、臨床実習の目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

授業科目	臨床実習Ⅱ	担当者	藪中 良彦・他		
学科名	理学療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

専任教員と共に国内医療施設以外の施設で1週間の見学実習を行う。

## ■ 目 標

現在の国内医療施設以外の理学療法の概観を理解する。例えば、問診、情報収集、評価、運動療法、物理療法などの理学療法の一連の流れを概観することでこれを理解する。また、障害について実際の対象者様の生活像を理解する。特に理学療法士の仕事を理解することと、対象者様や病院スタッフの方とスムーズにコミュニケーションを取れるようになることが具体的な目標である。

## ■ 授 業 計 画

実習施設 大阪府下を中心とした介護老人保健施設、介護老人福祉施設、肢体不自由児通園施設、重症心身障害児者施設

実習期間 1週間

実習形態 専任教員が学生複数名を引率する。臨床実習指導者の監督の下に、利用者と直接に対応する。専任教員は学生の臨床現場を観察し、学生の臨床実習に臨む態度などを適切に把握し、臨床実習指導者と協力して学生の指導を行う。

実習の進め方 解剖学、生理学、運動学総論で学んだ知識を使用して、理学療法場面で何が行われているのかを理解する。また、理学療法評価学Ⅰ、Ⅱで学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査などの基本的な測定、評価が実際にどのように行われているのかを見学し、理解を深める。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

## ■ 評 価 方 法

出席、実習態度、臨床実習実施記録の内容、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

## ■ 教 科 書

書 名：診察と手技がみえる〈1〉

著者名：古谷伸之

出版社：メディックメディア

書 名：PT 臨床実習ルートマップ

著者名：柳澤健

出版社：メジカルビュー社

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

臨床実習Ⅱは、実際の臨床現場での実習となる。臨床実習実施要綱には、臨床実習の目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。



授業科目	臨床実習Ⅲ	担当者	藪中 良彦・他		
学科名	理学療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

国内医療施設で1週間の臨床実習を行う。

## ■ 目 標

対象者の障害について、実際の生活像と共にそれを阻害している機能的な問題の実像を、医療面接、PT見学、観察、触知、検査・測定などを通じて理解する。また、これまでに学習した評価技術の適応にあたって、臨床適応の際の課題について整理する。

## ■ 授 業 計 画

実習施設 協力医療機関

実習期間 1週間

実習形態 協力病院において、専任教員と臨床実習指導者の指導／監督の下、これまでに修得した検査・測定技術を駆使し、対象者様の障害像に迫る。専任教員は学生の臨床実習現場を観察し、学生の学習課題などを適切に把握し、臨床実習指導者と綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。

実習の進め方 理学療法評価学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査などの基本的な測定、評価をなるべく多く体験する。また、解剖学、生理学、運動学、臨床医学等の知識を基に一人の対象者様に対して適切な機能障害の検査測定項目を選択し的確に実施する。実習の進め方は、臨床現場実習と専任教員のフォローを織り交ぜて実施する。

## ■ 評 価 方 法

出席、実習態度、臨床実習実施記録の内容、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

## ■ 教 科 書

書 名：診察と手技がみえる〈1〉

著者名：古谷伸之

出版社：メディックメディア

書 名：PT 臨床実習ルートマップ

著者名：柳澤健

出版社：メジカルビュー社

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

臨床実習Ⅲは、実際の臨床現場での実習となる。臨床実習実施要綱には、臨床実習の目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。



授業科目	臨床実習Ⅳ	担当者	藪中 良彦・他		
学科名	理学療法専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

国内医療施設で1週間の臨床実習を行う。

## ■ 目 標

臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価プロセス全体を経験する。具体的には、機能障害と能力障害の結びつきを理解し、問題点を抽出し、目標設定が行えるようになる。

## ■ 授業計画

実習施設 協力医療機関

実習期間 1週間

実習形態 協力病院において、専任教員と臨床実習指導者の指導／監督の下、これまでに修得した検査・測定技術を駆使し、対象者様の障害像に迫る。対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を行う。専任教員は学生の臨床実習現場を観察し、学生の学習課題などを適切に把握し、臨床実習指導者と綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。

実習の進め方 臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学の知識を基に評価項目を選択し、理学療法評価学で学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査などの基本的な測定・評価を実施して機能障害の評価を行なう。評価結果を解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に解釈を行い、機能障害と能力障害の結びつきを理解する。そして、問題点を抽出して目標設定を行う。実習の進め方は、実習現場実習と専任教員のフォローを必要に応じて織り交ぜて実施する。

## ■ 評価方法

出席、実習態度、臨床実習実施記録の内容、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

## ■ 教科書

書名：診察と手技がみえる〈1〉

著者名：古谷伸之

出版社：メディックメディア

書名：PT 臨床実習ルートマップ

著者名：柳澤健

出版社：メジカルビュー社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

臨床実習Ⅳは、実際の臨床現場での実習となる。臨床実習実施要綱には、臨床実習の目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

授業科目	総合臨床実習 I	担当者	藪中 良彦・他		
学科名	理学療法専攻	学年	3年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

国内医療施設で2週間の臨床実習を行う。

## ■ 目 標

臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラム立案までのプロセスを経験する。具体的には、ICFの枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラム立案が行えるようになる。

## ■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院

実習期間 2週間

実習形態 臨床実習指導者の監督の下に、対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を行い、治療プログラムを立案する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員訪問時には、学生自身の問題解決のためのディスカッション時間を設ける。

実習の進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、評価を行い、ICFの枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムを立案する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

## ■ 評価方法

出席、実習態度、臨床実習実施記録の内容、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

## ■ 教科書

書 名：診察と手技がみえる〈1〉

著者名：古谷伸之

出版社：メディックメディア

書 名：PT 臨床実習ルートマップ

著者名：柳澤健

出版社：メジカルビュー社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習 I の目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

授業科目	総合臨床実習Ⅱ	担当者	藪中 良彦・他		
学科名	理学療法専攻	学年	4年	総単位数	8単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

国内医療施設で8週間の臨床実習を行うと共に、途中で1週間の学内演習を行う。

## ■ 目 標

臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラム立案、プログラム実施のまでの一連の理学療法プロセスを経験する。具体的には、ICFの枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定、具体的治療プログラム立案、適切なプログラム実施が行えるようになる。

## ■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院

実習期間 8週間+1週間の学内演習

実習形態 臨床実習指導者の監督の下に、対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を設定し、治療プログラム立案し、治療プログラム実施する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員訪問時には、学生自身の問題解決のためのディスカッション時間を設ける。また、1週間の学内演習では、4週間の実習のまとめと残り4週間の実習のための準備を専任教員の指導の下実施する。

実習の進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、評価を行い、ICFの枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムを立案し実施する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

## ■ 評価方法

出席、実習態度、臨床実習症例レジメとICF枠組み図の内容、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

## ■ 教 科 書

書 名：診察と手技がみえる〈1〉

著者名：古谷伸之

出版社：メディックメディア

書 名：PT 臨床実習ルートマップ

著者名：柳澤健

出版社：メジカルビュー社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習Ⅱの目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

授業科目	総合臨床実習Ⅲ	担当者	藪中 良彦・他		
学科名	理学療法学専攻	学年	4年	総単位数	8単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

国内医療施設で8週間の臨床実習を行うと共に、途中で1週間の学内演習を行う。

## ■ 目 標

臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラム実施のまでの一連の理学療法プロセスを経験する。具体的には、ICFの枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定、具体的治療プログラム立案、適切なプログラム実施、治療効果判定に基づく治療プログラムの変更が行えるようになる。

## ■ 授 業 計 画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院

実習期間 8週間＋1週間の学内演習

実習形態 臨床実習指導者の監督の下に、対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を設定し、治療プログラム立案し、治療プログラム実施する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員訪問時には、学生自身の問題解決のためのディスカッション時間を設ける。また、1週間の学内演習では、4週間の実習のまとめと残り4週間の実習のための準備を専任教員の指導の下実施する。

実習の進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、評価を行い、ICFの枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムを立案し実施する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

## ■ 評 価 方 法

出席、実習態度、臨床実習症例レジメとICF枠組み図の内容、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

## ■ 教 科 書

書名：診察と手技がみえる〈1〉

著者名：古谷伸之

出版社：メディックメディア

書名：PT臨床実習ルートマップ

著者名：柳澤健

出版社：メジカルビュー社

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習Ⅲの目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

授業科目	作業療法概論	担当者	中山 広宣		
学科名	作業療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

1. 人における作業活動の意義.
2. 医学的・社会的・教育的・職業的リハビリテーションにおける作業療法の役割と機能.
3. 身体障害, 老年期障害, 精神障害, 発達障害の作業療法.
4. 作業療法士の資質.

## ■ 目 標

1. 作業活動の意義や作業療法の機能と役割を理解する.
2. 医学的・社会的・教育的・職業的リハビリテーションにおける作業療法を体系的に理解する.
3. 身体障害, 老年期障害, 精神障害, 発達障害の作業療法を理解する.
4. 作業療法士のあり方について学ぶ.

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーションおよびレポート指針  
キーワード：形式, 内容, (テーマ, 序論, 対象, 方法, 結果, 考察, 結論, 文献, 図表)
- 第2回 専門職としての資質を学ぶ.  
キーワード：医療人の資質, 対象者との関係
- 第3回 専門職としての資質を学ぶ.  
キーワード：リハビリテーション, 全人間的復権, 障害受容
- 第4回 リハビリテーションとチーム医療について理解する.  
キーワード：医学モデル, 生活モデル, チーム医療, Normalization, QOL, IL, 自己決定, IC
- 第5回 作業療法における EBM, EBOT を理解する.  
キーワード：エビデンス, 量的研究, 質的研究, 文献, 批判的吟味, 説明と同意,
- 第6回 障害とリハビリテーションの領域について理解する.  
キーワード：国際生活機能分類 (ICF), 国際障害分類 (ICIDH), 医学, 教育, 職業, 社会, 地域,
- 第7回 リハビリテーションと作業療法の歴史を学ぶ.  
キーワード：ピネル, シモン, ADA, 呉秀三, 高木憲次 (療育), 障害者基本法, 精神保健福祉法,
- 第8回 リハビリテーションおよび作業療法に関する定義を学ぶ.  
キーワード：全国リハビリテーション協議会, 理学療法士および作業療法士法, 日本作業療法士協会
- 第9回 作業療法の流れとリハビリテーションにおける作業療法の意義を理解する.  
キーワード：処方箋, 評価, カンファランス, リハビリテーションゴール, OT 治療計画, 治療実施
- 第10回 作業療法評価と治療計画, およびその実施の概要を知る.  
キーワード：初期・中間・最終評価, 情報収集, 観察, 面接, 検査測定, 身体機能, 精神機能, ゴール
- 第11回 対象者 (分野) 別作業療法の概要を学ぶ I.  
キーワード：身体障害, 精神障害
- 第12回 対象者 (分野) 別作業療法の概要を学ぶ II.  
キーワード：発達障害, 老年期障害, 高次脳機能障害
- 第13回 リハビリテーション用語 (英略語) の解説
- 第14回 医の倫理, 職業倫理を学ぶ.  
キーワード：ヒポクラテス, ジュネーブ宣言, アメリカ病院協会権利宣言, 日本作業療法士協会倫理
- 第15回 作業療法部門の管理運営を学ぶ.  
キーワード：記録報告, 施設基準, 診療報酬, リーダーシップ, フロアシップ,

## ■ 評価方法

ペーパー試験（小テスト含む）100%

欠席は1回につき5点，遅刻・早退および受講態度不良は1回につき3点減点

## ■ 教科書

書名：標準作業療法学作業療法学概論

著者名：岩崎テル子編集

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

4年間の学業の道標となる科目である。また，臨床見学実習に備えて非常に重要な科目である。そのため，探求心をもって，大学生として自主的かつ積極的に取り組むことを望む。



授業科目	基礎作業療法学 I	担当者	福井 信佳		
学科名	作業療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

この授業では EBM (Evidence Based Medicine) の考え方を理解し、「作業」の理論的背景について学ぶ

## ■ 目 標

作業療法を科学的にとらえる視点を身につけること

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション。作業とは何か
- 第2回 作業に関連する EBM (Evidence Based Medicine)、ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health) などの用語について理解する
- 第3回 作業に関連するクリティカルパス、インフォームドコンセント、ADL、IADL、QOL について理解する
- 第4回 第1回～第3回を通して、基礎作業療法学の概念、作業の利用などについてグループワークを行う
- 第5回 人体の構造と機能
- 第6回 作業療法の対象と問題点、目標
- 第7回 作業療法の対象となる障がい者、高齢者の現状や特徴
- 第8回 第6回、第7回を通じて理解したことについてグループを行う
- 第9回 作業分析とは何かを理解する。実際の作業を用いながら進める
- 第10回 作業分析1 (身体運動技能からの視点)
- 第11回 作業分析2 (認知技能からの視点)
- 第12回 作業分析3 (心理社会的技能からの視点)
- 第13回 作業分析4 (感覚統合からの視点)
- 第14回 作業分析5 (作業遂行分析からの視点)
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

100% 試験で評価する

## ■ 教科書

書名：標準作業療法学  
 著者名：小林夏子 福田恵美子編集  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

この授業は、後期の「基礎作業療法学Ⅱ」に必要な理論であるので理解を深めておくこと

授業科目	基礎作業療法学Ⅱ	担当者	福井 信佳		
学科名	作業療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

基礎作業療法学Ⅰの理論をもとに実際の作業を経験し、各作業の構造や治療的意味、段階付け等について講義を行う

## ■ 目 標

対象者に作業の意味や手順を説明できるとともに作業分析ができること

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション。作業種目の選定は学生の意見も含めて選定する
- 第2回 木工作業（設計）
- 第3回 木工作業（加工・組み立て）
- 第4回 木工作業（仕上げ）
- 第5回 木工についての一般分析
- 第6回 木工についての一般分析
- 第7回 ペーパークラフト
- 第8回 ペーパークラフト
- 第9回 ペーパークラフト
- 第10回 ペーパークラフトの一般分析
- 第11回 ペーパークラフトの一般分析
- 第12回 学生がグループごとに作業を選択し生産的作業を実施
- 第13回 学生がグループごとに作業を選択し生産的作業を実施
- 第14回 第11回、第12回の作業について作業分析
- 第15回 第11回、第12回の作業について作業分析 まとめ

## ■ 評 価 方 法

100%試験で評価する

## ■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学  
 著者名：小林夏子 福田恵美子編集  
 出版社：医学書院

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

臨床で使用する作業であるので体験しておくこと



授業科目	基礎作業療法学Ⅲ	担当者	吉田 文		
学科名	作業療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

作業活動の枠組みを活用した作業活動の提供方法について学ぶ。また、作業を提供する為に必要な準備、提供方法の理解を深める。実際の活動体験（手工芸、芸術活動等）を通して作業活動を対象者に教授する際のポイントを学ぶ。

## ■ 目 標

作業活動の枠組みを利用した作業活動の提供方法を述べる事が出来る。作業を提供する為に必要な準備ができる。作業の特徴を理解し、対象者に合わせて作業活動を選択し、指導することができる。

## ■ 授業計画

日常生活活動（ADL）、手段的日常生活活動（IADL、）または生活関連活動（APDL）を中心に工程分析、動作分析、運動分析ができ、それを基に対象者にあわせて作業活動を選択し、指導することができる。

- 第1回 オリエンテーション、ADL、IADLの説明、作業活動の選択
- 第2回 工程分析、動作分析、運動分析の復習①
- 第3回 工程分析、動作分析、運動分析の復習②
- 第4回 ICFと活動、AMPSの考え方
- 第5回 選択した作業活動の実施方法・環境を調べて決める
- 第6回 選択した作業活動の実施1回目、グループディスカッション
- 第7回 選択した作業の工程分析①
- 第8回 選択した作業の工程分析② 工程分析レポート提出
- 第9回 選択した作業活動の実施2回目（必要な場合）、グループディスカッション
- 第10回 選択した作業活動の動作分析①
- 第11回 選択した作業活動の動作分析②
- 第12回 選択した作業活動の動作分析③ 動作分析レポート提出
- 第13回 選択した作業活動の運動分析①
- 第14回 選択した作業活動の運動分析②
- 第15回 選択した作業活動の認知技能分析  
工程分析、動作分析、運動分析、認知技能分析を統合したレポート提出

## ■ 評価方法

授業への取り組み方20%、提出物30%、試験レポート50%で総合的に評価します。無届けの遅刻・早退-1点、無届けの欠席-3点、やむを得ない理由による遅刻・早退・欠席は考慮します。再試験においては、試験のみの点数で判断します。

## ■ 教科書

書名：標準基礎作業学  
著者名：小林夏子他  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	基礎作業療法学Ⅳ	担当者	吉田 文		
学科名	作業療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

作業活動の枠組みを活用した作業活動の提供方法について学ぶ。また、作業を提供する為に必要な準備、提供方法の理解を深める。実際の活動体験（手工芸、芸術活動等）を通して作業活動を対象者に教授する際のポイントを学ぶ。

## ■ 目 標

作業活動の枠組みを利用した作業活動の提供方法を述べる事が出来る。作業を提供する為に必要な準備ができる。作業の特徴を理解し、対象者に合わせて作業活動を選択し、指導することができる。

## ■ 授業計画

地域生活をしている知的障害をもつ方のサッカー大会を運営することで、対象者に合わせた作業分析、実際の作業の提供方法（段階付け、アダプテーション）を理解し、実施できるようになる。

- 第1回                    オリエンテーション、知的障がいの方の3施設にあわせグループ分け、サッカーの説明
- 第2回                    サッカーの練習
- 第3回～第4回        3施設へご挨拶、対象者との面談（スポーツの経験など）、体力測定、サッカー練習
- 第5回～第6回        練習計画に沿って参加チームとサッカーの練習①  
（3施設に分かれ施設訪問、教員引率）  
個人の観察に基づく作業分析①（個人練習計画）
- 第7回～第8回        練習計画に沿って参加チームとサッカーの練習②  
（3施設に分かれ施設訪問、教員引率）  
個人の観察に基づく作業分析②（個人練習計画）
- 第9回～第10回      練習計画に沿って参加チームとサッカーの練習③  
（3施設に分かれ施設訪問、教員引率）  
個人の観察に基づく作業分析③（個人練習計画）
- 第11回～第15回     サッカー大会の運営、参加チームサポート、  
作業分析レポート提出（個人）

## ■ 評価方法

実習形式の授業のため参加が原則です。参加や取り組みに対して配点しますので、欠席の場合はこの部分の点がありません。また無届けの遅刻・早退-1点、無届けの欠席-3点をさらに減点します。授業への参加・取り組み方40%、提出物15%、試験レポート45%で総合的に評価します。再試験においては、試験のみの点数で判断します。

## ■ 教科書

書 名：標準基礎作業学  
 著者名：小林夏子他  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

授業中に適宜紹介します。

## ■ 留意事項

授業科目	作業療法評価学 I	担当者	辻 郁		
学科名	作業療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

作業療法評価の意義と過程を学ぶとともに、観察から明らかになる情報をもとに、特に運動機能を知る方法について考え、既存の収集（検査測定）方法を学ぶ

## ■ 目 標

1. 作業療法評価について意義や過程がわかる
2. 主として運動能力についての情報収集法がわかる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 作業療法の流れ  
作業療法評価の意義と目的
- 第2回 身体能力を示す視点を探る
- 第3回 身体能力を客観的に示す方法を探る
- 第4回 客観的指標を知る
- 第5回 運動能力を知る方法-1
- 第6回 運動能力を知る方法-2
- 第7回 感覚機能を知る方法
- 第8回 身体の構造を知る方法
- 第9回 表情を知る方法
- 第10回 意識状態を知る方法・バイタルサインを知る方法
- 第11回 体力を知る方法
- 第12回 活動を知る方法
- 第13回 作業療法のための情報収集の種類と収集方法-1 国際生活機能分類から
- 第14回 作業療法のための情報収集の種類と収集方法-2
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

ポートフォリオ：30% 報告とディスカッション：30% 定期試験：40%  
欠席、遅刻・早退は減点の対象（一回につき、事前届出なし：-10点、事前届出あり：-2点）

## ■ 教 科 書

書名：標準作業療法学 作業療法評価学  
著者名：岩崎テル子 他編集  
出版社：医学書院

## ■ 参 考 図 書

書名：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法評価学  
著者名：生田宗博 編集 社団法人 日本作業療法士協会 監修  
出版社：協同医書出版社

## ■ 留 意 事 項

まずは自分たちで考えてみることから始める

授業科目	作業療法評価学Ⅱ	担当者	辻郁・山田隆人・足立一・井口知也・大友健治・丸田千津		
学科名	作業療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

作業療法評価場面で用いる各種検査・測定にはどのようなものがあるかを知り、その方法を理解する。

## ■ 目 標

- ①作業療法場面で用いる検査・測定を知る。
- ②作業療法場面で用いる検査・測定を正しい方法で行う。
- ③作業療法場面で用いる検査・測定を正確に実施する。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション (辻)
- 第2回 作業療法場面における検査・測定とは (辻)
- 第3回 バイタル測定 (大友)
- 第4回 バイタル測定 (大友)
- 第5回 手足の太さや各種測定 (山田)
- 第6回 手足の太さや各種測定 (山田)
- 第7回 全身の骨を触る (山田)
- 第8回 全身の骨を触る (山田)
- 第9回 関節の動きの測定 (井口)
- 第10回 関節の動きの測定 (井口)
- 第11回 筋力測定の方法 (大友)
- 第12回 筋力測定の方法 (大友)
- 第13回 筋力測定の方法 (大友)
- 第14回 筋力測定の方法 (大友)
- 第15回 筋力測定の方法 (大友)
- 第16回 筋力測定の方法 (大友)
- 第17回 感覚測定の方法 (井口)
- 第18回 感覚測定の方法 (井口)
- 第19回 筋の随意性の見方 (山田)
- 第20回 筋の随意性の見方 (山田)
- 第21回 筋の随意性の見方 (山田)
- 第22回 筋の随意性の見方 (山田)
- 第23回 知的検査 (足立)
- 第24回 知的検査 (足立)
- 第25回 高次脳機能障害の見方 (足立)
- 第26回 高次脳機能障害の見方 (足立)
- 第27回 発達障害領域における検査 (丸田)
- 第28回 発達障害領域における検査 (丸田)
- 第29回 発達障害領域における検査 (丸田)
- 第30回 発達障害領域における検査 (丸田)

## ■ 評価方法

実技試験・筆記試験にて評価する。配点は実技試験30%、筆記試験70%とするが、いずれの試験も60%以上ないと合格としない。実技試験・筆記試験ともに再試験は実施する。また、遅刻・欠席は減点扱いとする。無断遅刻・無断欠席は-10点、事前連絡のある遅刻・欠席は-5点とする。

## ■ 教科書

書名：標準作業療法学—専門分野 作業療法評価学

著者名：編集：岩崎テル子他

出版社：医学書院

書名：ベッドサイドの神経の診かた

著者名：田崎義昭

出版社：南山堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	作業療法評価学Ⅲ	担当者	辻郁・山田隆人・足立一・井口知也・大友健治・丸田千津		
学科名	作業療法学専攻	学年	2年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

国際生活機能分類（ICF）を理解するとともに、ICFを用いて情報を統合し、評価計画を立案する。

## ■ 目 標

- ① ICFを理解する。
- ② ICFに沿って情報を整理する。
- ③ ICFに沿って情報の統合を行う。

## ■ 授業計画

第1回	オリエンテーション（辻）	
第2回	ICFはどのようなものか（辻）	
第3回	演習Ⅰ：対象者の情報を分析する（辻）	
第4回	演習Ⅰ：対象者の情報を分析する（辻）	
第5回	演習Ⅰ：対象者の情報を整理・統合する（辻）	
第6回	演習Ⅰ：対象者の情報を整理・統合する（辻）	レポート提出
第7回	演習Ⅱ：対象者の情報を分析する（足立）	
第8回	演習Ⅱ：対象者の情報を分析する（足立）	
第9回	演習Ⅱ：対象者の情報を整理・統合する（足立）	
第10回	演習Ⅱ：対象者の情報を整理・統合する（足立）	レポート提出
第11回	演習Ⅲ：対象者の情報を分析する（大友）	
第12回	演習Ⅲ：対象者の情報を分析する（大友）	
第13回	演習Ⅲ：対象者の情報を整理・統合する（大友）	
第14回	演習Ⅲ：対象者の情報を整理・統合する（大友）	レポート提出
第15回	演習Ⅳ：対象者の情報を分析する（山田）	
第16回	演習Ⅳ：対象者の情報を分析する（山田）	
第17回	演習Ⅳ：対象者の情報を整理・統合する（山田）	
第18回	演習Ⅳ：対象者の情報を整理・統合する（山田）	レポート提出
第19回	演習Ⅳ：対象者の情報を分析する（井口）	
第20回	演習Ⅳ：対象者の情報を分析する（井口）	
第21回	演習Ⅳ：対象者の情報を整理・統合する（井口）	
第22回	演習Ⅳ：対象者の情報を整理・統合する（井口）	レポート提出
第23回	演習Ⅴ：対象者の情報を分析する（辻・山田・足立・大友・井口）	
第24回	演習Ⅴ：対象者の情報を分析する（辻・山田・足立・大友・井口）	
第25回	演習Ⅴ：対象者の情報を整理・統合する（辻・山田・足立・大友・井口）	
第26回	演習Ⅴ：対象者の情報を整理・統合する（辻・山田・足立・大友・井口）	
第27回	演習Ⅴ：治療計画を立案する（辻・山田・足立・大友・井口）	
第28回	演習Ⅴ：治療計画を立案する（辻・山田・足立・大友・井口）	最終報告書提出
第29回	特別演習：発達障害領域における分析の考え方（丸田）	
第30回	特別演習：発達障害領域における分析の考え方（丸田）	

## ■ 評価方法

提出されたレポートで判断する。各演習のレポートを15%×5回(75%)、最終報告書を25%とし成績判定を行う。遅刻・欠席は減点方式とする。授業開始前に連絡がある遅刻は-5点、授業開始前に連絡のある欠席は-5点とする。無断欠席・遅刻は-10点とする。不合格者には再試験を実施する(筆記試験)。

## ■ 教科書

書名：標準作業療法学—専門分野 作業療法評価学

著者名：編集：岩崎テル子他

出版社：医学書院

書名：ICF 国際生活機能分類

出版社：中央法規出版株式会社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

レポートの提出期限は厳正に取り扱う。提出期限を過ぎたレポートは受理しない(0点とする)。



授業科目	身体障害治療学 I	担当者	福井 信佳		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

生体力学的モデルを基本にした身体の構造と機能について講義する

## ■ 目 標

臨床において作業療法の対象となる身体障害の各疾患の症状をとらえ、評価・治療に必要な知識技術を習得する

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 身体機能障害作業療法学の基礎
- 第3回 身体機能障害の治療原理
- 第4回 身体運動の基礎知識
- 第5回 関節可動域の評価
- 第6回 関節可動域の治療
- 第7回 筋力の評価①
- 第8回 筋力の評価②
- 第9回 筋力強化訓練①
- 第10回 筋力強化訓練②
- 第11回 筋緊張の異常と治療
- 第12回 不随意運動と治療
- 第13回 協調運動障害とその治療
- 第14回 知覚再教育訓練
- 第15回 物理療法の基礎 まとめ

## ■ 評 価 方 法

100%試験で評価する

## ■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学身体機能作業療法学  
 著者名：岩崎テル子編集 山口 昇編集協力  
 出版社：医学書院

## ■ 参 考 図 書

書 名：作業療法学身体障害作業療法学  
 著者名：長崎重信  
 出版社：メジカルビュー社

## ■ 留 意 事 項

実習に必要な知識と技術であるので予習・復習すること。出席すること。



授業科目	身体障害治療学Ⅱ	担当者	福井 信佳		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

主に中枢神経疾患について講義する。疾患に応じた評価や治療を模擬的に実践する

## ■ 目 標

各疾患に応じた評価、治療計画、治療実施、目標設定などができるようにする

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 脊髄損傷の作業療法評価と治療（急性期）
- 第2回 脊髄損傷の作業療法評価と治療（回復期）
- 第3回 第1回、2回の講義をもとに脊髄損傷のグループワークを行う①
- 第4回 第1回、2回の講義をもとに脊髄損傷のグループワークを行う②
- 第5回 脳血管障害の基礎知識
- 第6回 脳血管障害に対する作業療法評価と治療（急性期）
- 第7回 脳血管障害に対する作業療法評価と治療（回復期）
- 第8回 脳血管障害に対する作業療法評価と治療（維持期）
- 第9回 第6回から8回の講義をもとに脳血管障害のグループワークを行う①
- 第10回 第6回から8回の講義をもとに脳血管障害のグループワークを行う②
- 第11回 呼吸器疾患の評価と治療
- 第12回 前回の講義をもとにグループワークを行う
- 第13回 ターミナルケアの作業療法
- 第14回 前回の講義をもとにグループワークを行う
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

100%試験で評価する

## ■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学身体機能作業療法学  
 著者名：岩崎テル子編集 山口 昇編集協力  
 出版社：医学書院

## ■ 参 考 図 書

書 名：作業療法学身体障害作業療法学  
 著者名：長崎重信  
 出版社：メジカルビュー社

## ■ 留 意 事 項

実習に必要な知識と技術であるので予習・復習すること。出席すること。

授業科目	身体障害治療学Ⅲ	担当者	福井 信佳		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

リウマチ性疾患、骨折、末梢神経損傷、切断などの整形外科疾患について講義する。疾患に応じた評価・治療計画・目標設定について講義を行い、模擬的に治療実施を学ぶ

## ■ 目 標

各疾患に応じた評価・治療計画・目標設定・治療実施ができること

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 末梢神経損傷の基礎
- 第2回 末梢神経損傷の評価と治療
- 第3回 関節リウマチの基礎
- 第4回 関節リウマチの評価と治療
- 第5回 切断の基礎
- 第6回 切断の評価と治療
- 第7回 神経・筋疾患の基礎
- 第8回 神経・筋疾患の評価と治療
- 第9回 神経変性疾患の基礎
- 第10回 神経変性疾患の作業療法評価と治療
- 第11回 骨・関節疾患の基礎
- 第12回 骨・関節疾患の評価と治療
- 第13回 熱傷の基礎
- 第14回 熱傷の評価と治療
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

100%試験で評価する

## ■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学身体機能作業療法学  
 著者名：岩崎テル子編集 山口 昇編集協力  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：作業療法学身体障害作業療法学  
 著者名：長崎重信  
 出版社：メジカルビュー社

## ■ 留意事項

実習で必要な知識と技術であるので出席すること。講義の順序が変更になる場合がある。

授業科目	精神障害治療学 I	担当者	中山 広宣		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

1. 精神保健福祉法と社会復帰資源
2. 各種精神療法（行動療法, SST, 心理教育, 家族療法, 心理劇, 箱庭療法, 絵画療法, 音楽療法, 森田療法, 精神分析療法, 交流分析, 精神療法, 集団精神療法）の理論と治療構造

## ■ 目 標

1. 精神科リハビリテーションの流れと社会資源を学び, チーム医療を理解する.
2. 精神障害における各種治療理論と技法を理解することで, 作業療法への応用を考える.
3. 精神障害者に対する基本的な精神療法（接し方）を学ぶ.

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 [精神保健福祉法および社会復帰支援システム] キーワード:人権, 入院の種類(任意, 医療保護, 措置), 生活訓練施設, 福祉ホーム, 授産施設, 福祉工場, 地域生活支援センター,
- 第2回 [行動療法] キーワード:学習理論, 問題行動消去, 適応行動学習, 脱感作法, 断行訓練法, フラティング法, トークンエコノミー法, 後方連鎖法, 嫌悪療法, 認知療法
- 第3回 [社会生活技能訓練] キーワード:ストレス脆弱性対処技能モデル, 薬物, 社会的支援, 生活技能, 受信, 処理, 送信, ロールプレイ, フィードバック, リハーサル, 宿題, プロンプティング, コーチング
- 第4回 [心理教育ミーティング] キーワード:認知, 情報提供(疾患, 治療法, 対処法), 再発防止, 説明と同意, 家族
- 第5回 [家族療法] キーワード:システム論, 循環的因果関係, IP, 全体性, ホメオスターシス, ジョイニング, 二重拘束, 感情表出,
- 第6回 [心理劇] キーワード:即興劇, 自発性, 役割, カタルシス, 洞察, 今ここで, 監督, 演者, 観客, 補助自我, 舞台, ウォーミングアップ, ドラマ, シェアリング, 役割交換, 二重自我法, 鏡映法, 役割代理法,
- 第7回 [箱庭療法] キーワード:自由にして保護された空間, 枠, 退行, 具象性, 集約性, 直接性, 簡潔性, 主体の水準, 客体的水準, フィードバック
- 第8回 [絵画療法] キーワード:芸術療法, 精神療法的, 指導的, レクリエーション的, 構造的, 非構造的, 投影, 同調, フィードバック, 絵画分析, 個人, 集団
- 第9回 [音楽療法] キーワード:芸術療法, 同質性, 場と曲, 受容的(鑑賞), 能動的(歌唱, 演奏), 集団(合唱, 合奏), 音楽の特性, 情動, 精神機能, 法則性, 協調性
- 第10回 [森田療法] キーワード:あるがまま, 目的本位, 不問, 生の欲望, 死の恐怖, 精神交互作用, 思考の矛盾, 絶対臥褥期, 作業期
- 第11回 [精神分析理論] キーワード:発達論, 無意識, 前意識, 意識, イド, 自我, 超自我, 防衛機制, 疾病利得, 治療構造, アンビバレント, 転移, 行動化, 直面化, 明確化, 解釈, 洞察, エリクソン発達理論,
- 第12回 [交流分析理論] キーワード:エゴグラム, 自我状態(親, 大人, 子供), 交流パターン, ストローク(相補, 交叉, 裏面), 基本的構え, 時間の構造化
- 第13回 [精神療法概論] キーワード:支持療法, 表現療法, 洞察療法, 訓練療法, 治療者の資質と態度, 治療構造, 来談者中心療法, 傾聴, 受容, 共感, 支持, 依存, 対人距離, 信頼,
- 第14回 [精神療法疾患別] キーワード:統合失調症, 境界例, うつ病, 認知療法
- 第15回 [集団精神療法] キーワード:ヤールム, ビオン, モゼイ, 集団力動, 治療構造(閉鎖, 開放, 人数, 時間, 課題, 疾患, 重症度), 沈黙, 今ここで,

## ■ 評価方法

ペーパー試験（小テストを含む）100%  
但し、欠席は1回につき5点、遅刻・早退および受講態度不良は1回につき3点減点。

## ■ 教科書

書名：精神疾患の理解と精神科作業療法  
著者名：朝田隆，中島直，堀田英樹  
出版社：中央法規出版

## ■ 参考図書

書名：作業療法学ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学  
著者名：長崎重信監修  
出版社：メジカルビュー社

## ■ 留意事項

各自、教科書および配布された各種理論のレジメを予習して、講義に備えること。そして、疑問点を3つ以上抽出して、調べ、発表すること。その中で文献検索の方法を学び、同時に興味や問題意識を深めること。  
グループ討論会もあるので、他人任せにすることなく、自主的に、責任をもって、参加すること。

授業科目	精神障害治療学Ⅱ	担当者	中山 広宣		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

1. 作業活動の治療的意義.
2. 精神科における作業療法の意義と必要性.
3. 精神科作業療法の理論, 評価, 治療計画.

## ■ 目 標

1. 精神科リハビリテーションにおける精神障害作業療法の重要性を理解する.
2. 面接および評価と治療計画のシュミレーションにて実習に備える.
3. 疾患別, 回復段階に応じた作業療法を習得し, 実習に備える.

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 [治療共同体理論] キーワード: ホスピタリズム, ヒエラルキー, 民主主義, 自治主義, 許容性, 現実直面, ミーティング, 自由, 責任, 活動, 集団療法
- 第2回 [デイケア・ナイトケア] キーワード: 地域生活, 短期入院, 集団療法, プログラム, 仲間, 社会生活技能, 役割, 責任, 自己決定, 自由の保障,
- 第3回 [精神障害作業療法総論] キーワード: 人と作業活動, 作業活動の治療的要素, 非言語的交流, 治療形態, 個人療法, 集団療法, 治療目的, 評価, 対人関係, 作業能力
- 第4回 [精神障害作業療法の治療構造] キーワード: 4重構造 (治療契約, OT室, 作業活動, 治療関係), 外的構造, 内的構造, 特殊性, 日常性, 普遍性, 現実性, 構成的, 非構成的, 構造化
- 第5回 [作業活動の効用] キーワード: 現実, 自由と責任, 生きた活動, 完成, 自己の存在, 協同体験, 自我強化, モデル, 訓練, 適応行動, QOL, 適応と禁忌,
- 第6回 [精神障害作業療法の流れ] キーワード: 処方箋, 情報収集, 他部門, カルテ, 面接, 観察, テスト, 評価計画, 評価, 再評価, 健康面, 比較, 障害の把握と考察, ゴール, 治療計画, 治療実施, 記録,
- 第7回 [評価の種類] キーワード: 情報収集 (カルテ, 他部門), 面接, 観察 (対人関係, 作業活動, 精神症状), テスト (投影法, 活動, 認知),
- 第8回 [評価の実際] キーワード: 対人関係, 作業活動, 精神症状, 興味チェックリスト, BPRS, PANNS, LASMI  
うつ評価
- 第9回 [導入時面接の実際] キーワード: 自己紹介, 守秘義務, 場所, 生活状況, 良いこと, 困ること, 現病歴, 作業療法の説明, 暫定的評価と治療計画,
- 第10回 [治療計画] キーワード: ICF, 健康状態, 機能障害, 活動制限, 参加制約, 環境因子, 個人因子, 短期目標, 長期目標, 作業活動の用い方, 治療者の自己の治療的活用, 集団の活用,
- 第11回 治療構造のまとめ
- 第12回 [精神疾患と認知機能障害] キーワード: 統合失調症, うつ病, 陽性症状, 陰性症状, 注意機能, 記憶機能, 知覚機能, 実行機能, 生活障害, 情報処理障害,
- 第13回 [疾患別作業療法Ⅰ] キーワード: 統合失調症, 回復段階, 急性期, 寛解期, 維持期, 社会復帰期, 行動特性, 治療方法, 支援方法,
- 第14回 [疾患別作業療法Ⅱ] キーワード: 気分障害, 神経症, 境界性パーソナリティ障害, 依存症, 行動特性, 治療方法,
- 第15回 [症例検討Ⅰ] 評価シュミレーションの発表と討論. 与えられた症例の情報に対して, グループごとに, 評価計画, 評価方法, 問題点や障害像を考える.

## ■ 評価方法

ペーパー試験（小テストを含む）100%

但し、欠席は1回につき5点、遅刻・早退および受講態度不良は1回につき3点減点。

## ■ 教科書

書名：精神疾患の理解と精神科作業療法

著者名：朝田隆，中島直，堀田英樹

出版社：中央法規出版

## ■ 参考図書

書名：作業療法学ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学

著者名：長崎重信監修

出版社：メジカルビュー社

## ■ 留意事項

各自、教科書および配布された各種理論のレジメを予習して、講義に備えること。そして、疑問点を3つ以上抽出して、調べ、発表すること。その中で文献検索の方法を学び、同時に興味や問題意識を深めること。

グループ討論会もあるので、他人任せにすることなく、自主的に、責任をもって、参加すること。



授業科目	発達障害治療学 I	担当者	辻 薫		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

発達障害に対する作業療法についての基礎知識と治療理論を説明する。  
 作業療法の役割を、施設、地域、家庭など環境に対応させつつ紹介する。  
 作業療法の評価と目的について、子どもの生活における遊びや作業課題全般への関わりをもつ視点で学習する。感覚、知覚、認知、行動の発達と障害との相互関係を考慮した治療計画の立て方を演習する。

## ■ 目 標

発達障害における生活の困難さを理解し、子どもの潜在能力を引き出す作業療法の役割を理解し、他者に説明できる。子どもに必要な遊びや作業が可能になるために必要な評価を説明し、その一部を実施することができる。モデル事例で評価から得られた情報を統合解釈し、治療計画し、他者に説明できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 発達障害治療学 総論
- 第2回 子どもの生活と ICF
- 第3回 発達障害の作業療法に適用する治療理論
- 第4回 作業療法士の役割と実施形態
- 第5回 評価と治療・援助の実践課程① 評価の目的と方法
- 第6回 評価と治療・援助の実践課程② 評価の選択と実施上の留意点
- 第7回 評価と治療・援助の実践課程③ 評価結果の統合と解釈
- 第8回 評価と治療・援助の実践課程④ 説明責任と同意のプロセス
- 第9回 評価と治療・援助の実践課程⑤ 治療・援助方法 発達促進・機能獲得
- 第10回 評価と治療・援助の実践課程⑥ 治療・援助方法 代償・適応
- 第11回 評価と治療・援助の実践課程⑦ 治療・援助方法 環境調整
- 第12回 評価と治療・援助の実践課程⑧ 記録と効果判定
- 第13回 発達過程の基礎知識と治療への応用 ①心身機能の発達
- 第14回 発達過程の基礎知識と治療への応用 ②活動と参加の発達
- 第15回 地域で求められる発達支援と制度の理解

## ■ 評 価 方 法

試験50% 提出課題30% 演習と授業中の態度20%

## ■ 教 科 書

作業療法学全書 改訂第3版 6 作業治療学 発達障害  
 田村良子編集 社団法人日本作業療法士協会 監修 協同医書出版社

## ■ 参 考 図 書

脳性麻痺児の家庭療育 第3版 梶浦一郎監訳、医歯薬出版、  
 こどものリハビリテーション医学第2版 陣内一保編集、医学書院 他

## ■ 留 意 事 項

授業の中で演習を実施する場合があります。動きやすい服装で参加してください。

授業科目	発達障害治療学Ⅱ	担当者	辻 薫		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

前期で学んだ作業療法の役割、評価と治療計画の作成方法をふまえて、疾患障害年齢別に作業療法における援助技法を学習する。環境設定、活動の選択と段階付け、実際の治療における援助技法、チームアプローチの基本について演習する。

## ■ 目 標

障害がある子どもの疾患別、年齢別、作業療法の実際について、モデル事例を通して理解する。遊びや作業を可能にする援助技法の基本を習得する。また、簡単な自助具や、家庭や学校生活で実践できるマネジメントプログラムの作成ができ、チームでのアプローチを理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 疾患・障害別作業療法の実際  
子どもとして理解すること
- 第2回 脳性麻痺 両麻痺
- 第3回 脳性麻痺 片麻痺
- 第4回 脳性麻痺 アテトーゼ
- 第5回 脳性麻痺 失調
- 第6回 感染性疾患、頭部外傷など
- 第7回 重症心身障害 四肢麻痺
- 第8回 筋ジストロフィー症
- 第9回 骨系統疾患
- 第10回 学習障害
- 第11回 注意欠陥多動性障害
- 第12回 広汎性発達障害（自閉性障害）
- 第13回 知的障害
- 第14回 視覚障害・聴覚障害
- 第15回 演習とまとめ

## ■ 評 価 方 法

試験50% 提出課題30% 演習と授業中の態度20%

## ■ 教 科 書

作業療法学全書 改訂第3版 6 作業治療学 発達障害  
田村良子編集 社団法人日本作業療法士協会 監修 協同医書出版社

## ■ 参 考 図 書

脳性麻痺児の家庭療育 第3版 梶浦一郎監訳、医歯薬出版、  
こどものリハビリテーション医学第2版 陣内一保編集、医学書院 他

## ■ 留 意 事 項

授業の中で演習を実施する場合があります。動きやすい服装で参加してください。



授業科目	老年期障害治療学 I	担当者	井口 知也		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

高齢者の加齢による身体的，心理的，社会的な変化や老年期障害に対する評価，治療に関する基礎知識を学ぶ。老年期特有の障害に対する作業療法アプローチの概要やマネジメントを教授する。

## ■ 目 標

- 1) 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について理解を深める。
- 2) 高齢者の心身機能，その特性について理解を深める。
- 3) 老年期障害の生活・障害構造，社会資源を理解し，それらに対する具体的援助を考える。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 高齢社会に伴う諸問題
- 第2回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について1
- 第3回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について2
- 第4回 高齢期の特徴1
- 第5回 高齢期の特徴2
- 第6回 介護保険制度
- 第7回 老年期作業療法の実践（基本的枠組み）
- 第8回 老年期作業療法の実践（特定高齢者，一般高齢者について）
- 第9回 老年期障害のマネジメント1
- 第10回 老年期障害のマネジメント2
- 第11回 老年期障害のマネジメント3
- 第12回 老年期疾患別作業療法（認知症）
- 第13回 老年期疾患別作業療法（整形疾患）
- 第14回 老年期疾患別作業療法（中枢神経疾患）
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

レポートおよび発表 40%，定期試験 60%

なお、欠席、遅刻早退は減点対象（一回につき、事前届出あり：-2点、事前届出なし：-10点）

## ■ 教科書

書名：作業療法学全書第7巻 老年期

著者名：村田 和香 編集

出版社：協同医書出版社

## ■ 参考図書

書名：老年期障害領域の作業療法

著者名：山田 孝 編集

出版社：中央法規

書名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学

著者名：太田 睦美 編集

出版社：協同医書出版社

書名：認知症の作業療法

著者名：小川 敬之，竹田 徳則 編集

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち、作業の意味をしっかりと捉えること。その上で、高齢者にとっての作業とは何かを考え、生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

授業科目	老年期障害治療学Ⅱ	担当者	井口 知也		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

高齢者の特性に合わせた評価の方法，高齢者に対して使用頻度の高い生活評価，身体機能評価、認知機能評価，心理機能評価の実施方法などについて演習を実施する．評価から得られた情報をもとに全体像を把握する方法を学び，個々の文脈に沿った意味ある作業を提供し実践できる手だてを教授する．

## ■ 目 標

老年期での作業療法実践に必要な技術の習得を目指す．

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 老年期
- 第2回 老年期作業療法の実際（プロセス）
- 第3回 老年期作業療法の実際（検査測定）
- 第4回 老年期作業療法の実際（計画立案と実施，再考）
- 第5回 集団活動演習1
- 第6回 集団活動演習2
- 第7回 施設系サービスにおける作業療法
- 第8回 通所，訪問系における作業療法
- 第9回 認知症高齢者に対する事例検討1
- 第10回 認知症高齢者に対する事例検討2
- 第11回 認知症高齢者に対する事例検討3
- 第12回 中枢神経疾患に対する事例検討1
- 第13回 中枢神経疾患に対する事例検討2
- 第14回 中枢神経疾患に対する事例検討3
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

レポートおよび発表 40%，定期試験 60%

なお、欠席、遅刻早退は減点対象（一回につき、事前届出あり：-2点、事前届出なし：-10点）

## ■ 教科書

書名：作業療法学全書第7巻 老年期

著者名：村田 和香 編集

出版社：協同医書出版社

## ■ 参考図書

書名：老年期障害領域の作業療法

著者名：山田 孝 編集

出版社：中央法規

書名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学

著者名：太田 睦美 編集

出版社：協同医書出版社

書名：認知症の作業療法

著者名：小川 敬之，竹田 徳則 編集

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち、作業の意味をしっかりと捉えること。その上で、高齢者にとっての作業とは何かを考え、生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

授業科目	作業療法治療学実習 I	担当者	大友 健治		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

教育課程で習得した種々の評価技法を実際の対象者に実施し、身体的・心理的・社会的状況を系統立てて分析・評価する。

## ■ 目 標

- ①対象者に対処できるコミュニケーション能力を身につける
- ②対象者の症状、状態の把握が適切にできる知識を身につける
- ③必要な面接・観察・検査が的確に行える技術を身につける
- ④情報を分析整理する統合力を身につける
- ⑤他者に評価内容を伝えるレポート作成能力を身につける

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（実習内容説明、グループ分け）
- 第2回 対象者情報公開・評価計画
- 第3回 評価計画提出
- 第4回 評価計画に対するフィードバック、ケースノート作成指針説明
- 第5回 実習1：1回目対象者様評価実施（観察）
- 第6回 実施後ケースノートに対するフィードバック、次回計画書作成・提出
- 第7回 実施後ケースノートに対するフィードバック、次回計画書作成・提出
- 第8回 実習2：2回目対象者様評価実施（観察）
- 第9回 実施後ケースノートに対するフィードバック
- 第10回 実施後ケースノートに対するフィードバック
- 第11回 実習3：3回目対象者様評価実施（観察）
- 第12回 実施後の情報共有・ケースノート作成
- 第13回 実施後の情報共有・ケースノート作成
- 第14回 実施後の情報共有・ケースノート作成
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

提出されたケースノートで判断する。実習1のケースノート20%、実習2のケースノート20%、実習3のケースノート20%、実習時の態度40%で判断する。遅刻・欠席は減点方式とする。授業開始前に連絡がある遅刻は-5点、授業開始前に連絡のある欠席は-5点とする。無断欠席・遅刻は-10点とする。不合格者には再試験を実施する（筆記試験）。

## ■ 教科書

書名：ICF 国際生活機能分類  
出版社：中央法規出版株式会社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

レポートの提出期限は厳正に取り扱う。提出期限を過ぎたレポートは受理しない（0点とする）。

授業科目	作業療法治療学実習Ⅱ	担当者	足立 一		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

教育課程で習得した種々の評価技法を実際の対象者に実施し、身体的・心理的・社会的状況を系統立てて分析・評価し、報告する

## ■ 目 標

作業療法治療学実習Ⅰで習得した知識をもとに臨床場面で対象者のニーズに合わせて治療や作業活動提供に応用するための知識、技術を深め、報告できること

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション（実習内容説明，グループ分け，対象者情報公開）  
1回目対象者様評価計画作成・提出
- 第2回 1回目対象者様評価準備・演習
- 第3回 1回目対象者様評価実施 ケースノート作成・提出
- 第4回 ケースノートに対するフィードバック 次回計画書作成・提出
- 第5回 2回目対象者様評価準備・演習
- 第6回 2回目対象者様評価実施 ケースノート作成・提出
- 第7回 ケースノートに対するフィードバック 治療計画作成・提出
- 第8回 治療計画についてのフィードバック 次回計画書作成・提出
- 第9回 治療計画についてのフィードバック 次回計画書作成・提出
- 第10回 3回目対象者様評価準備・演習
- 第11回 3回目対象者様評価実施 ケースノート作成・提出
- 第12回 ケースノートに対するフィードバック 事例報告会抄録作成
- 第13回 事例報告会
- 第14回 事例報告会
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

提出されたケースノートと報告会の態度で半旦那する。1回目のケースノート20%，2回目のケースノート20%，3回目のケースノート20%，報告会の内容40%で判断する。授業開始前の連絡がある遅刻・欠席は-5点，無断欠席・遅刻は-10点とする。不合格者には再試験を実施する（筆記試験）。

## ■ 教 科 書

書名：ICF 国際生活機能分類  
出版社：中央法規出版株式会社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	作業療法技術論 I	担当者	山田 隆人		
学科名	作業療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

作業療法は対象者の社会生活を広げる支援を行う。その支援において、対象者自身やその所属する社会や環境に対して働きかけを行う。本講義では、働きかけを行う前の段階で行われる情報収集に着目し、情報収集の視点や収集した情報の記録を体験を通して習熟する。

## ■ 目 標

人や作業の場면을観察する  
自身が観察した情報を適切に記録する

## ■ 授業計画

- 第1回 作業療法を学び実践していく中で、必要なプレゼンテーション方法を学び、体験を通して振り返る。
- 第2回 ICF と人
- 第3回 人の観察
- 第4回 環境の観察
- 第5回 観察と記録
- 第6回 作業の観察
- 第7回 作業の階層と記録
- 第8回 作業の流れと手順
- 第9回 作業の観察
- 第10回 会話の観察
- 第11回 会話の記録
- 第12回 作業場면을観察し、記録する
- 第13回 作業場면을観察し、記録する
- 第14回 作業療法場면을観察し記録する
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

出席2割および提出された観察記録8割で成績判定を行います。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

- 書名：標準作業療法学 作業療法評価学  
著者名：岩崎テル子 他編集  
出版社：医学書院
- 
- 書名：作業療法学全書 基礎作業学  
著者名：澤田雄二 編集  
出版社：協同医書出版社

## ■ 留意事項

講義後は、復習しておくこと。  
受講時は学生証を必ず携帯すること。他の学生の迷惑になる行為は慎むようにして下さい。

授業科目	作業療法技術論Ⅱ	担当者	山田 隆人		
学科名	作業療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

本講義では、作業療法の支援を行う前段階で行われる評価の一つである観察による情報収集に着目し、人の日常生活における行動や作業を観察し、解剖学や運動学等の専門用語を用いて適切に記録する。

## ■ 目 標

- ①人や作業の場면을観察する
- ②自身が観察した情報を解剖学・運動学等の専門用語を用いて適切に記録する

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 関節の動き
- 第2回 下肢の動き
- 第3回 上肢の動き
- 第4回 起居動作
- 第5回 立ち座り動作
- 第6回 移動・歩行
- 第7回 歩行とその流れ
- 第8回 日常生活活動の観察・食事
- 第9回 日常生活活動の観察・整容
- 第10回 日常生活活動の観察・更衣
- 第11回 日常生活活動の観察・排泄
- 第12回 日常生活活動の観察・入浴
- 第13回 家事活動・掃除
- 第14回 家事活動・調理
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

講義時間に観察記録を作成する。成績は、観察記録の提出及び内容で10割判定する。欠席等は、減点の対象とする。

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

- 書 名：標準作業療法学 作業療法評価学  
 著者名：岩崎テル子 他編集  
 出版社：医学書院
- 
- 書 名：作業療法学全書 基礎作業学  
 著者名：澤田雄二 編集  
 出版社：協同医書出版社

## ■ 留 意 事 項



授業科目	作業療法技術論Ⅲ	担当者	山田 隆人		
学科名	作業療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

作業療法評価場面で用いる各種検査・測定の方法の技術的な知識や検査・測定から得られる情報に関する知識を深める。

## ■ 目 標

- ①作業療法場面で用いる検査・測定を理解する。
- ②作業療法場面で用いる検査・測定の正しい方法を理解する。
- ③作業療法場面で用いる検査・測定から得られる情報を理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 作業療法評価の概要
- 第2回 生理的検査
- 第3回 形態計測、四肢周径
- 第4回 骨学・関節学
- 第5回 関節の可動域
- 第6回 筋力の測定
- 第7回 筋力の測定方法
- 第8回 筋の随意性
- 第9回 神経学的検査
- 第10回 知的検査
- 第11回 認知に関する検査
- 第12回 高次脳機能に関する検査
- 第13回 発達領域の検査
- 第14回 発達障害領域における検査・測定
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

定期テスト10割で判定する。欠席の場合は、減点する。  
定期テストは、国家試験に準じた出題基準、内容で行う。

## ■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学  
著者名：編集 岩崎テル子  
出版社：医学書院

---

書 名：ベッドサイドの神経の診方  
著者名：田崎義昭  
出版社：南山堂

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	臨床ゼミナール I	担当者	吉田 文		
学科名	作業療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

これまでに学んだ作業療法評価学、臨床見学実習等の内容について、臨床例に結びつけながら理解を深める。臨床見学実習の振り返りを通して医療人としてのあり方や作業療法の役割・知識や技術について理解を深め、実際の体験に関連した論文を十分読み込み、グループ学習、ディスカッション、ロールプレイ等の演習を通じた学習を行う。そこから取り組むべき個人の学習課題を見つける。また、学習したことをまとめて報告することでプレゼンテーション技術を身につける。

## ■ 目 標

医療人としてのあり方について理解し実践できる。作業療法の役割・知識や技術について説明できる。また、臨床見学実習で得たことを応用し、面接・観察について理解し、模擬的な場面において面接・観察を実施し記録できる。臨床見学実習および授業から学生個人の学習課題を認識し、その課題に取り組むことができる。

## ■ 授 業 計 画

対象者と適切なコミュニケーションを行いながら、面接で作業療法に必要な情報収集、または簡単な検査測定が実施できる

- 第1回 オリエンテーション、臨床見学実習・評価学 I の復習、面接とは？面接で困ったこと
- 第2回 適切なコミュニケーションとは何か（言語的、非言語的）
- 第3回 実技練習① 振り返り①
- 第4回 面接の実技練習② 振り返り②
- 第5回 面接の実技練習③ 振り返り③
- 第6回 バイタルチェック（血圧、脈拍、呼吸数、体温測定）の意味・実施方法の復習
- 第7回 バイタルチェック（血圧、脈拍、呼吸数、体温測定）の実技練習（説明、測定、記録）①
- 第8回 適切なコミュニケーションを取りながらバイタルチェックの実施② 振り返り④
- 第9回 コミュニケーション及びバイタルチェック②の反省と次への課題
- 第10回 バイタルチェックの実施③ 振り返り⑤
- 第11回 適切なコミュニケーションを取りながらコミュニケーション及びバイタルチェック③の反省と次への課題
- 第12回 バイタルチェックの実施④ 振り返り⑥
- 第13回 適切なコミュニケーションを取りながらコミュニケーション及びバイタルチェック④の反省と次への課題
- 第14回 バイタルチェックの実施⑤ 振り返り⑦
- 第15回 適切なコミュニケーションを取りながらコミュニケーション及びバイタルチェック⑤の反省と次への課題

## ■ 評価方法

実習形式の授業のため参加が原則です。参加や取り組みに対して配点しますので、欠席の場合はこの部分の点がありません。また無届けの遅刻・早退-1点、無届けの欠席-3点をさらに減点します。授業への参加・取り組み方20%、提出物30%、試験レポート50%で総合的に評価します。再試験においては、試験のみの点数で判断します。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	臨床ゼミナールⅡ	担当者	吉田 文		
学科名	作業療法学専攻	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

作業活動の枠組みを活用した作業活動の提供方法について学ぶ。また、作業を提供する為に必要な準備、提供方法の理解を深める。実際の活動体験（手工芸、芸術活動等）を通して作業活動を対象者に教授する際のポイントを学ぶ。

## ■ 目 標

作業活動の枠組みを利用した作業活動の提供方法を述べる事が出来る。作業を提供する為に必要な準備ができる。作業の特徴を理解し、対象者に合わせて作業活動を選択し、指導することができる。

## ■ 授 業 計 画

基礎作業療法学Ⅳと連動し、地域で生活する知的障がいの方のサッカー大会の運営を通して、地域生活の中で個人の作業の意味と活動制限・参加制約を知り、その作業療法支援について考える。

- 第1回 オリエンテーション、サッカーに参加する知的障がいの方の施設紹介、知的障がいの施設の内容と役割についてまとめる
- 第2回 対象者との面談の準備、サッカーの練習について作業分析（グループ）、知的障がいの方の特徴と生活障害についてまとめ提出（個人）
- 第3回 サッカーの活動分析（グループ）、サッカーのリスクについて別にまとめて提出（個人）
- 第4回 参加者のサッカーへの興味・関心・理解を高めるための工夫、練習計画書提出・リスク管理計画（グループ）、個人担当決定
- 第5回 グループで参加チームとの練習の振り返り、参加チームの個人の評価についてディスカッション（個人のサッカーへの興味・関心の特徴、身体活動、サッカーの理解）
- 第6回 練習計画書・リスク管理計画の修正（グループ）、サッカーに関する個人の評価のまとめ①提出（個人）
- 第7回 グループで参加チームとの練習の振り返り、参加チームの個人の評価についてディスカッション（対人関係、コミュニケーション、集団内での協力）
- 第8回 練習計画書・リスク管理計画の修正（グループ）、サッカーに関する個人の評価のまとめ②提出（個人）
- 第9回 グループで参加チームとの練習の振り返り、参加チームの個人の評価についてディスカッション（大会で注意すること）、対象者とのコミュニケーションの分析①、大会運営の役割分担
- 第10回 個人評価のまとめ③提出（個人）、対象者とのコミュニケーションの分析②、担当する方に合わせた作業分析の整理①
- 第11回 作業分析の整理②、対象者とのコミュニケーションの分析③大会運営準備（大会注意事項作成）
- 第12回 作業分析の整理③、対象者とのコミュニケーションの分析④、大会運営準備（必要物品リストの作成）
- 第13回 大会運営シミュレーション
- 第14回 大会運営の感想、大会での個人の評価についてディスカッション
- 第15回 個人評価のまとめ④（総まとめ、個人）、対象者とのコミュニケーションのまとめ⑤、大会運営の感想（個人）提出

## ■ 評価方法

授業への取り組み方20%、提出物60%、試験レポート20%で総合的に評価します。無届けの遅刻・早退-1点、無届けの欠席-3点、やむを得ない理由による遅刻・早退・欠席は考慮します。再試験においては、試験のみの点数で判断します。

## ■ 教科書

書名：標準基礎作業学  
著者名：小林夏子他  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

授業の中で適宜紹介する

## ■ 留意事項

授業科目	臨床ゼミナールⅢ	担当者	辻 郁		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

専門基礎科目及び作業療法評価学，作業療法治療学等専門科目で学んだことを基盤とする。人の生活機能（障害）を構造的に捉えることを習得するため，事例報告，ライブケースからの情報収集を行い，ICFに沿って事例分析及び統合を行い，その結果を報告する。

## ■ 目 標

1. 事例，エッセイを読み込んでICFに沿って分析と統合を行い，報告する
2. 作業療法治療学実習Ⅰのライブケースから得た情報をICFに沿って統合し，報告する

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション  
ICF 確認テスト，事例紹介，エッセイ紹介，分析事例の決定
- 第2回 ICF について  
事例①の分析
- 第3回 事例①の分析  
レポート提出
- 第4回 事例①の報告とディスカッション
- 第5回 事例①の報告とディスカッション  
ポートフォリオ提出
- 第6回 事例②の分析
- 第7回 事例②の分析  
レポート提出
- 第8回 事例②の報告とディスカッション
- 第9回 事例②の報告とディスカッション
- 第10回 読み込んだ事例とICFについてのまとめ  
ポートフォリオ提出
- 第11回 事例③の分析
- 第12回 事例③の分析  
レポート提出
- 第13回 事例③の報告とディスカッション
- 第14回 事例③の報告とディスカッション
- 第15回 まとめ ポートフォリオ提出

## ■ 評価方法

ポートフォリオ：30%    レポート：40%    報告とディスカッション：30%  
欠席，遅刻・早退は減点の対象（一回につき，事前届出なし：-10点，事前届出あり：-2点）

## ■ 教科書

書名：国際生活機能分類 ―国際障害分類改訂版―  
著者名：世界保健機関（WHO）  
出版社：中央法規

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

これまでの学習内容が実践への橋渡しとなるよう，自ら積極的に取り組むこと  
自ら取り組むことで，学習の楽しさや作業療法の面白さ，大切さが実感できることを期待する

授業科目	臨床ゼミナールⅣ	担当者	辻 郁		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

臨床現場での実習直前の準備のための科目とする  
 作業療法治療学実習Ⅱのライブケースから得た情報を統合解釈し、作業療法計画立案までを報告書としてまとめる

## ■ 目 標

1. ライブケースの情報を統合し解釈でき（全体像が示せる）、報告書を作成できる
2. ライブケースの作業療法ニーズを抽出することができ、ニーズ充足のための作業療法評価計画が立案できる
3. 上記を考察を加えた報告書としてまとめることができる

## ■ 授業計画

- 第1回 全体像の把握 エッセイから
- 第2回 作業療法評価の過程（復習） 講義
- 第3回 生活機能・障害の階層 講義
- 第4回 生活機能・障害の階層による事例分析
- 第5回 ライブケースの全体像の把握-1 情報のまとめの演習とディスカッション
- 第6回 ライブケースの全体像の把握-2 情報のまとめと演習とディスカッション
- 第7回 事例報告書の書き方 講義
- 第8回 全体像の把握 図式化と説明 報告とディスカッション
- 第9回 全体像の把握 図式化と説明 報告とディスカッション
- 第10回 作業療法ニーズの抽出、目標と作業療法計画の立案 講義
- 第11回 ライブケースの作業療法ニーズ-1 報告とディスカッション
- 第12回 ライブケースの作業療法ニーズ-2 報告とディスカッション
- 第13回 目標と作業療法計画立案-1 報告とディスカッション
- 第14回 目標と作業療法計画立案-2 報告とディスカッション
- 第15回 事例報告書作成 まとめ

## ■ 評価方法

報告書 60%，報告とディスカッション 40%

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

書名：国際生活機能分類 —国際障害分類改訂版—  
 著者名：世界保健機関（WHO）  
 出版社：中央法規

## ■ 留意事項

これまでの講義等での学修が実践への橋渡しとなるよう、自ら積極的に取り組むこと  
 自ら取り組むことで、学習の楽しさや作業療法のおもしろさ、大切さを実感できることを期待する



授業科目	在宅ケア論	担当者	山田 隆人		
学科名	作業療法学専攻	学年	4年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

作業療法支援は、対象となる方々が居住する地域やその住民へ働きかける場合がある。本講義では、介助犬に着目し、介助犬の目的、使用方法を使い手となる方々へ、プレゼンテーションを行い、理解を深めてもらう働きかけを行う。

## ■ 目 標

- ①介助犬に関する理解を深める
- ②介助犬の理解を深める為のプレゼンテーションを検討する。
- ③介助犬の利用するであろう方々に向けて、介助犬のプレゼンテーションを行う。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 介助犬に関する知識を深める
- 第2回 介助犬のトレーナーによる講義を聞く
- 第3回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーション方法を検討する
- 第4回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを企画する1
- 第5回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを企画する2
- 第6回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを企画する3
- 第7回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを企画する4
- 第8回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを企画する5
- 第9回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを企画する6
- 第10回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを企画する7
- 第11回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを実施・運営を行う1
- 第12回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを実施・運営を行う2
- 第13回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを実施・運営を行う3
- 第14回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを実施・運営を行う4
- 第15回 介助犬を理解してもらうためのプレゼンテーションを実施・運営を行う5

## ■ 評 価 方 法

課題への取り組み10割で判定する。欠席は減点とする。

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

介助犬のユーザーになる方々へ、介助犬に関するプレゼンテーションを学外で行う予定にしている。  
介助犬のユーザーやトレーナーに来て頂き講義等を行う予定にしている。

授業科目	地域作業療法学 I	担当者	辻 郁		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

地域や生活を具体的に理解した上で、地域で障害児・者、高齢者を支えるために必要な作業療法の機能・役割についての理解を深め、ライフステージの視点や法制度と関連付けながら地域作業療法とは何かを考え学ぶ

## ■ 目 標

1. 地域作業療法とは何かがわかる
2. 人の生活が分かる
3. ライフステージに応じた関連法制度と地域作業療法の展開例を知る
4. ライフステージに応じた健康課題と法制度、地域作業療法の展開に関する資料を作り上げる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション  
地域で生活すること 地域作業療法の枠組み
- 第2回 生活を知る視点を探る 時間・作業・作業の意味・空間
- 第3回 ライフステージ別の生活の特性と健康課題-1
- 第4回 ライフステージ別の生活の特性と健康課題-2  
ポートフォリオ提出
- 第5回 地域で生活することに不具合や戸惑いを生じている人たち・地域支援と作業療法  
発達期
- 第6回 発達期 就学前・就学後 教育領域における作業療法
- 第7回 成人期
- 第8回 成人期 就労支援と作業療法
- 第9回 老年期  
ポートフォリオ提出
- 第10回 地域作業療法の理念と理論
- 第11回 地域作業療法の基本 評価の視点
- 第12回 病期からみた作業療法
- 第13回 健康増進・ヘルスプロモーション
- 第14回 地域における作業療法実践紹介
- 第15回 まとめ 絵本で学ぶ地域作業療法  
ポートフォリオ提出

## ■ 評価方法

ポートフォリオ 40%, 定期試験 60%

欠席, 遅刻, 早退は減点の対象 (一回につき, 事前届出あり: -2点, 事前届出なし: -10点)

## ■ 教科書

書名: 作業療法学全書 改訂第3版 第13巻 地域作業療法学

著者名: 太田睦美 編集

出版社: 協同医書出版社

## ■ 参考図書

書名: 標準作業療法学 社会生活行為学

著者名: 田川義勝 濱口豊太 編集

出版社: 医学書院

書名: 標準作業療法学 地域作業療法学

著者名: 小川恵子 編集

出版社: 医学書院

書名: 障害者白書 最新版

著者名: 内閣府

出版社: 内閣府

## ■ 留意事項

作業療法の視点を広げ, 障害別ではなくライフステージに応じた作業療法について学修すること

授業科目	地域作業療法学Ⅱ	担当者	辻 郁		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

①人びとの生活の環境因子として地域概況を捉え、作業療法の側面から、その地域の健康課題を推測してその解決方法を提案する ②キーワードから地域作業療法学の全体像を捉える

## ■ 目 標

- ①既存のデータが読み取れる
- ②データや現地視察等から地域の人々の健康課題を作業療法の視点で推測できる
- ③作業療法の視点での課題解決策が提案できる
- ④地域作業療法の全体像が分かる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション  
地域概況を知る視点を整理する（講義）
- 第2回 地域概況情報収集-1 収集事項の報告
- 第3回 地域概況情報収集-1 収集事項の報告
- 第4回 情報の整理と統合、レポート作成
- 第5回 収集事項の全体報告（報告会）
- 第6回 地域概況情報収集-2 収集事項の報告
- 第7回 情報の整理と統合、課題の抽出
- 第8回 地域の課題と解決策 事例紹介（講義）
- 第9回 課題解決策の立案
- 第10回 地域概況と健康課題および解決策について報告（報告会）
- 第11回 地域概況と健康課題および解決策について報告（報告会）
- 第12回 キーワードで確認する地域作業療法
- 第13回 キーワードで確認する地域作業療法
- 第14回 キーワードで確認する地域作業療法
- 第15回 地域作業療法学のまとめ

## ■ 評価方法

ポートフォリオ・報告 50%, 定期試験 50%

欠席, 遅刻, 早退は減点の対象 (一回につき, 事前届出あり: -2点, 事前届出なし: -10点)

## ■ 教科書

書名: 作業療法学全書 改訂第3版 第13巻 地域作業療法学

著者名: 太田睦美 編集

出版社: 協同医書出版社

## ■ 参考図書

書名: 国際生活機能分類 —国際障害分類改訂版—

著者名: 世界保健機関 (WHO)

出版社: 中央法規

書名: 障害者白書 最新版

著者名: 内閣府

出版社: 内閣府

書名: 作業療法が関わる医療保険・介護保険・自立支援制度の手引き 最新版

著者名: (社) 日本作業療法士協会

出版社: (社) 日本作業療法士協会

## ■ 留意事項

作業療法の視点を広げること, 発想豊かに自ら新たな発見ができるよう取り組む j

授業科目	地域作業療法学実習	担当者	辻 郁		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

地域社会で暮らす障害者との交流を通して、彼らの生活を理解することに努め、地域社会での作業療法士の役割を探ることを目的に、①地域の福祉施設に出向き、施設の協力の下、施設プログラムに参加し、利用者との交流を経験する。②大学内でその経験を統合し、報告する。

## ■ 目 標

①施設のプログラムに参加し、複数の利用者との交流できる ②利用者について得られた情報を整理して記録できる ③情報を統合して全体像を掴める ④施設のニーズに応じた作業療法プログラムを企画運営できる ⑤一連の実習経験を統合し、報告できる

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
施設情報の収集
- 第2回 実習① プログラムへの参加、利用者との交流、情報収集
- 第3回 実習① プログラムへの参加、利用者との交流、情報収集
- 第4回 記録 フィードバック
- 第5回 実習② プログラムへの参加、利用者との交流、情報収集-2
- 第6回 実習② プログラムへの参加、利用者との交流、情報収集-2
- 第7回 記録 フィードバック、作業療法プログラムの立案、企画書作成
- 第8回 実習③ プログラムへの参加、利用者との交流、プログラム案提示
- 第9回 実習③ プログラムへの参加、利用者との交流、プログラム案提示
- 第10回 企画修正、プログラム運営の準備
- 第11回 実習④ プログラムへの運営、利用者との交流
- 第12回 実習④ プログラムへの運営、利用者との交流
- 第13回 記録、まとめ
- 第14回 フィードバック、報告準備
- 第15回 実習報告

## ■ 評価方法

①実習施設での取り組み態度 (30%), ②記録内容 (40%), ③報告内容 (30%)  
提出物の提出遅れ, 欠席, 遅刻早退は減点事項である

## ■ 教科書

特になし

## ■ 参考図書

書名: レクリエーション 社会参加を促す治療的レクリエーション

著者名: 寺山久美子 監修

出版社: 三輪書店

書名: アクティビティと作業療法

著者名: アクティビティ研究会 編

出版社: 三輪書店

書名: ひとと集団・場 一人の集まりと場を利用するー

著者名: 山根寛・香山明美・加藤寿宏・長倉寿子

出版社: 三輪書店

## ■ 留意事項

施設のプログラム運営の妨げにならないように注意すること, 積極的な態度で取り組むこと, 作業療法プログラムは意図を持った自由な発想で企画すること

授業科目	卒業研究論文	担当者	共同担当		
学科名	作業療法学専攻	学年	4年	総単位数	3単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

### ■ 内 容

作業療法領域における具体的なテーマを設定し、研究計画に沿って必要な情報や資料を収集し、整理し、結果に基づいた研究の基本的手法を教授する。そしてその集大成を卒業論文として完成させる。

### ■ 目 標

教育課程で習得した知識及び演習、臨床実習経験をふまえて、作業療法における問題を科学的根拠に基づいて解決する姿勢と能力を高めること

### ■ 授 業 計 画

基本的にはゼミごとに進行

- ・オリエンテーション
- ・研究テーマの決定、先行研究論文の抄読
- ・研究計画書作成
- ・研究データの収集
- ・収集した研究データの整理・解析
- ・得られた結果についての考察
- ・卒業研究論文の作成
- ・研究報告会用の資料作成
- ・研究報告会
- ・卒業研究論文の完成

### ■ 評 価 方 法

卒業研究論文50%（研究方法の妥当性、考察の深さ、文章表現の適切さ、文章量）  
 研究報告会での発表状況20%  
 ゼミ内での討論・研究進行態度30%

### ■ 教 科 書

--

### ■ 参 考 図 書

--

### ■ 留 意 事 項

--



授業科目	臨床見学実習	担当者	作業療法専攻教員		
学科名	作業療法学専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

1. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など
2. 実習期間：1施設で5日間の見学実習
3. 実習形態：学生は1～3名で臨床実習指導者の指導体制のもと見学実習を行う
4. 実習前学習と実習後のまとめと報告会を行う

### ■ 目 標

1. 作業療法の実施状況を観察し，記録できる
2. リハビリテーションの流れとその中の作業療法（士）の役割を理解する
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みができる

### ■ 授 業 計 画

- ・全体オリエンテーション
- ・事前学習課題
- ・事前学習課題へのフィードバック
- ・実習前技能演習1 臨床見学実習に必要な技能の練習を行う
- ・実習前技能演習2 臨床見学実習に必要な技能の練習を行う
- ・臨床見学実習 実習施設において，5日間の臨床見学実習を行う
- ・臨床見学実習のまとめ 実習施設において学んできたことを整理し，理解を深める
- ・臨床見学実習報告会 臨床見学実習で学んだことやフィードバックの内容をまとめて報告する

### ■ 評 価 方 法

実習への取り組み態度：30%，学内の事前・事後学習への取り組み態度：40%，提出物と報告内容：30%

### ■ 教 科 書

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

本科目は11月より開始し，見学実習は2月に予定している  
 実習は対象者と実習施設のご好意により行われるため，感謝を礼儀を忘れないこと  
 実習施設における実習期間のうち，5分の4以上の出席が必要であるため，健康に留意すること  
 本科目全体を通して，身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として本実習は中止とする

授業科目	評価学実習	担当者	作業療法専攻教員		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	3単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

1. 実習施設：一般病院、リハビリテーション病院、介護老人保健施設など。
2. 実習期間：3週間の評価実習。
3. 実習形態：臨床実習指導者と学生は1対1～2名の指導体制で評価実習を行う。
4. 専任教員は3週間の実習期間中に1回以上巡回訪問し、指導する。

## ■ 目 標

- 病院や介護老人保健施設などにおいて作業療法士の指導の下で、作業療法評価を実践する。
- ・作業療法評価計画を立案し、面接、観察、必要な検査測定などから情報を得る。
  - ・得られた情報を統合し、障害構造を明らかにする。
  - ・作業療法目標を設定し、プログラムを立案する。

## ■ 授 業 計 画

- ・全体オリエンテーション。
- ・事前課題学習（実習施設の情報収集とその領域の予習）。
- ・事前課題学習へのフィードバック。
- ・実習前技能演習1：評価の概要（流れ）を理解する。
- ・実習前技能演習2：実習に必要な評価技術の練習を行う。
- ・実習前技能演習3：実習に必要な統合と解釈について演習を行う。
- ・実習施設において、3週間の評価実習を行う。
- ・評価学実習へのフィードバック：評価学実習で学んだ内容を整理し、理解を深める。
- ・評価学実習報告会：評価学実習で学んだことやそのフィードバックの内容をまとめ、報告を行う。

## ■ 評 価 方 法

実習施設の評価（50%）、学内における演習状況・提出物の内容・報告会の内容（50%）を総合的に判断し、成績判定を行う。

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

実習は対象者と実習施設のご好意により行なわれるため、感謝と礼儀を忘れないこと。  
 単位認定には実習施設における実習期間のうち、5分の4以上の出席が必要であるため、健康に留意すること。学内演習、実習施設における実習において、身だしなみ、態度、取り組み姿勢などが不適切であると判断した場合、また、無断欠席や正当な理由がない場合は原則として実習を中止する。

授業科目	総合臨床実習 I	担当者	共同担当		
学科名	作業療法学専攻	学年	4年	総単位数	9単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

近畿圏を中心とした一般病院，リハビリテーション施設へ9週間の実習を行う。本学における各実習担当教員により，実習3週間ごとに本学にて1週間計3回の学内指導と実習前半と後半の計2回の巡回訪問指導を行う。

### ■ 目 標

教育課程で習得した知識と技術を，臨床実習指導者の指導の下で，作業療法臨床場面において活用し，対象者（児）のニーズにあわせた治療，訓練，練習，援助ができること

### ■ 授 業 計 画

- ・オリエンテーション，事前学習（学内）
- ・実習開始 施設見学，担当事例紹介
- ・担当事例初期評価
- ・担当事例初期評価レポート作成（学内）
- ・担当事例治療計画検討・開始
- ・担当事例中間評価
- ・担当事例治療経過のまとめ（学内）
- ・担当事例最終評価
- ・ケース会議での担当事例治療報告
- ・担当事例報告書作成（学内）
- ・実習報告，ディスカッション（学内）

### ■ 評 価 方 法

学外評価と学内評価の合計得点で判定する

### ■ 教 科 書

--

### ■ 参 考 図 書

--

### ■ 留 意 事 項

--

授業科目	総合臨床実習Ⅱ	担当者	共同担当		
学科名	作業療法学専攻	学年	4年	総単位数	9単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

近畿圏を中心とした一般病院，リハビリテーション施設へ9週間の実習を行う。本学における各実習担当教員により，実習3週間ごとに本学にて1週間計3回の学内指導と実習前半と後半の計2回の巡回訪問指導を行う。

### ■ 目 標

教育課程で習得した知識と技術を，臨床実習指導者の指導の下で，作業療法臨床場面において活用し，対象者（児）のニーズにあわせた治療，訓練，練習，援助ができること

### ■ 授 業 計 画

- ・オリエンテーション，事前学習（学内）
- ・実習開始 施設見学，担当事例紹介
- ・担当事例初期評価
- ・担当事例初期評価レポート作成（学内）
- ・担当事例治療計画検討・開始
- ・担当事例中間評価
- ・担当事例治療経過のまとめ（学内）
- ・担当事例最終評価
- ・ケース会議での担当事例治療報告
- ・担当事例報告書作成（学内）
- ・実習報告，ディスカッション（学内）

### ■ 評 価 方 法

学外評価と学内評価の合計得点で判定する

### ■ 教 科 書

--

### ■ 参 考 図 書

--

### ■ 留 意 事 項

--

授業科目	理学療法学概論	担当者	島 雅人		
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

理学療法や理学療法士について理解を深めるために、専門知識や技術にふれながら学んでいきます。また、将来言語聴覚士として業務を行う際に、どのような事を理学療法士に相談できるのか、どのように関わりお互いの専門性を活かしたアプローチができるのかを検討します。

## ■ 目 標

理学療法の専門性にふれ、理学療法のイメージ理学療法や理学療法士の役割について理解を深めること。また、将来言語聴覚士として、理学療法士とどのように情報を共有し対象者中心のアプローチができるかを、自ら考えることができるようになること。

## ■ 授業計画

第1回	理学療法、理学療法士について（職業の概要、専門分野、医療・福祉・介護における動向等）
第2回	理学療法士の専門知識や用語にふれる 1 運動器の解剖学、運動学、運動生理学 他
第3回	理学療法士の専門知識や用語にふれる 2 運動療法、物理療法、ADL、義肢装具 他
第4回	理学療法士の専門性にふれる 1 姿勢調節のしくみ、シーティング
第5回	理学療法士の専門性にふれる 2 呼吸、胸郭の運動、呼吸器理学療法 摂食嚥下との関連
第6回	脳血管障害者に対する理学療法 1 脳血管障害の症状と障害像
第7回	脳血管障害者に対する理学療法 2 急性期から在宅までのアプローチ
第8回	脳血管障害者に対する理学療法 3 理学療法士と言語聴覚士の関係を探る

## ■ 評価方法

筆記試験100%

## ■ 教科書

適宜 講義資料を配布します。

## ■ 参考図書

書 名：理学療法入門テキスト

著者名：細田多穂 ほか

出版社：南江堂

書 名：理学療法テキスト神経障害理学療法学〈1〉

著者名：石川 朗 編

出版社：中山書店

書 名：車いすのためのエルゴノミック・シーティング

著者名：Bengt Engstrom 著

出版社：LAC ヘルスケア

## ■ 留意事項

理学療法の知識や技術について体験を含めながら学びます。理解を深めるためには、積極的な体験への参加と意見交換（質問）が求められます。

授業科目	作業療法学概論	担当者	中山 広宣 ほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

リハビリテーションと作業療法  
 作業療法（作業活動）の治療的意義  
 作業療法の領域と対象

## ■ 目 標

作業療法士の専門性・役割を理解する。  
 生活における作業活動の意義を理解する。  
 リハビリテーションにおけるチームアプローチの在り方を知る。

## ■ 授 業 計 画

第1回 作業療法の歴史，生活と作業について  
 第2回 リハビリテーションにおける作業療法の意義，作業療法および各種の定義  
 第3回 作業活動の治療的意義，  
 第4回 作業療法の領域  
 第5回 身体障害の作業療法  
 第6回 発達障害の作業療法  
 第7回 地域リハビリテーションと作業療法  
 第8回 精神障害の作業療法

## ■ 評 価 方 法

筆記試験

## ■ 教 科 書

使用しない（配布資料）

## ■ 参 考 図 書

書 名：標準作業療法学 作業療法概論第2版  
 著者名：岩崎テル子編集  
 出版社：医学書院

## ■ 留 意 事 項

--

授業科目	医学総論	担当者	板倉徹・板倉登志子・松井理直・ 山本永人・平林容子・田中千津子・ 吉機俊雄		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

言語聴覚士に必要な医学的知識について学ぶ。

## ■ 目 標

国家試験の受験に必要な知識を身につける。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 専門基礎分野 解剖学・生理学・病理学 (板倉徹)
- 第2回 専門基礎分野 臨床神経学・神経系医学 (板倉徹)
- 第3回 専門基礎分野 音響学 (松井理直)
- 第4回 専門基礎分野 音響学 (松井理直)
- 第5回 専門基礎分野 言語学 (松井理直)
- 第6回 専門基礎分野 言語学 (松井理直)
- 第7回 専門基礎分野 学習認知心理学 (田中千津子)
- 第8回 専門基礎分野 学習認知心理学 (田中千津子)
- 第9回 専門基礎分野 音声学 (平林容子)
- 第10回 専門基礎分野 音声学 (平林容子)
- 第11回 専門基礎分野 社会福祉制度 (山本永人)
- 第12回 専門基礎分野 障害者のサービス (山本永人)
- 第13回 専門分野 失語・高次脳機能障害 (板倉登志子)
- 第14回 専門分野 失語・高次脳機能障害 (板倉登志子)
- 第15回 専門分野 失語・高次脳機能障害 (吉機俊雄)

## ■ 評 価 方 法

試験100% (200点満点の試験を2回実施、問題は五者択一問題)

## ■ 教 科 書

書 名：言語聴覚士テキスト  
 著者名：廣瀬肇 監修  
 出版社：医歯薬出版

## ■ 参 考 図 書

書 名：言語聴覚士のための基礎知識 (シリーズ各本)  
 出版社：医学書院

書 名：標準言語聴覚障害学 (シリーズ各本)  
 出版社：医学書院

書 名：言語聴覚療法シリーズ改訂版 (シリーズ各本)  
 出版社：建帛社

## ■ 留 意 事 項

授業科目	解剖学	担当者	柴田 雅朗		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

頭・頸部の解剖学的な構造を学び、言語聴覚領域の学習の礎とする。

## ■ 目 標

## ■ 授業計画

- 第1回 頭蓋骨および神経系 I  
1. 頭蓋骨の概略 2. 神経系の構成 3. 中枢神経系とは 4. 脊髄 5. 延髄と橋  
6. 中脳 7. 小脳
- 第2回 神経系 II  
1. 間脳（視床と視床下部） 2. 大脳（大脳皮質、大脳基底核、大脳白質）
- 第3回 脳神経  
1. 脳神経の概略 2. 脳神経（三叉神経、顔面神経、内耳神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経）
- 第4回 脳室系と脳の血管  
1. 脳室 2. 髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜） 3. 脳脊髄液  
4. 脳の血管（内頸動脈とその枝、椎骨動脈とその枝、ウイリス動脈輪、硬膜静脈洞）
- 第5回 顔面と口腔の解剖  
1. 口蓋 2. 口腔底 3. 舌と味蕾 4. 舌の発生 5. 咀嚼筋 6. 嚥下に働く筋
- 第6回 喉頭の解剖と  
1. 舌骨と喉頭の軟骨 2. 声帯靭帯と声帯ヒダ 3. 声門 4. 喉頭の筋 5. 喉頭の神経
- 第7回 平衡・聴覚器の解剖  
1. 外耳・中耳・内耳の構造 2. 聴覚と平衡覚の伝導路と反射路
- 第8回 三層性胚盤および鰓弓と総復習  
1. 三層性胚盤 2. 鰓弓 3. 鰓弓由来の筋とその支配神経

## ■ 評価方法

定期試験 100%

## ■ 教科書

書名：「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学（第4版）」  
著者名：渡辺正仁監修  
出版社：廣川書店

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

毎回、プリントを配布して、教科書を参照しながら、板書、図を書いて講義を進めます。



授業科目	生理学	担当者	宮井 潔		
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

生理学は人体機能のしくみを知る基礎的な学問であるが、かなり範囲が広く深いので、各項目ごとにできるだけ基本的な考え方や重点事項を解説する

## ■ 目 標

各分野において、それぞれ基礎となる解剖学と、臨床医学特に内科学との関連づけを理解するように努める

## ■ 授 業 計 画

第1回 細胞と内部環境  
 第2回 血液・生体防御  
 第3回 循環系  
       小テストと解説  
 第4回 呼吸機能  
 第5回 消化と吸収  
 第6回 胃臓と排泄  
 第7回 酸・塩基平衡  
 第8回 内分泌・代謝

## ■ 評 価 方 法

筆記試験95% 筆記小テスト5%

## ■ 教 科 書

書 名：標準理学療法・作業療法専門分野 生理学  
 著者名：石澤光郎、富永淳  
 出版社：医学書院

## ■ 参 考 図 書

書 名：スタンダード生理学  
 著者名：二宮石雄、安藤啓司、彼末一之、木川寛二  
 出版社：文光堂

## ■ 留 意 事 項

講義では重点のみ（主としてキーワードの説明）述べるので、それをもとに教科書などでしっかり自習してほしい

授業科目	病理学	担当者	橋本 和明		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

疾患の原因は内因と外因に大別される。内因として遺伝+免疫などがあり、外因として種々の要因がある。その結果、人体は下記1～8の変化を示す。これらの各項目について講義を行う。

### ■ 目 標

病気の成り立ちや仕組みを追求する病理学を学ぶことによって、患者の持つ種々の障害の本質の理解を深め、障害とそれに対する治療・リハビリテーションの考察・理解がより深く行えるようになることを目標とする。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 退行性病変
- 第2回 進行性病変
- 第3回 奇形を含む先天異常
- 第4回 炎症アレルギー
- 第5回 循環障害
- 第6回 腫瘍
- 第7回 腫瘍
- 第8回 外傷性変化等

### ■ 評 価 方 法

試験100%

### ■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学基礎分野 病理学 第3版  
 著者名：梶原 博毅／横井 豊治 編集  
 出版社：医学書院

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

授業科目	内科学 (老年医学含む)	担当者	宮井 潔		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

まず健常人の解剖・生理・生化学の基礎知識を簡単に復讐してそれを把握した上で、内科学の総論・各論の全領域にわたる基礎的な重要項目について臨床現場での経験も交えて講義する。

## ■ 目 標

内科学は臨床医学の基礎であるが、その範囲は余りにも広く、内容も深いため短期間でそのすべてをマスターするのは大変むずかしい。そこで基礎的な内科学の考え方、必要最小限の知識、専門用語などを理解するよう努める。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 内科学総論－病因論（遺伝・感染・腫瘍・代謝異常等）  
診断学・検査学
- 第2回 内科学総論－治療医学、予防医学
- 第3回 内科学各論－血液疾患
- 第4回 内科学各論－膠原病・アレルギー・免疫疾患
- 第5回 内科学各論－膠原病・アレルギー・免疫疾患  
小テスト及び解説
- 第6回 内科学各論－感染症
- 第7回 内科学各論－内分泌疾患
- 第8回 内科学各論－代謝疾患
- 第9回 内科学各論－循環器疾患
- 第10回 内科学各論－呼吸器疾患
- 第11回 内科学各論－胃・泌尿器疾患
- 第12回 内科学各論－消化管疾患
- 第13回 内科学各論－肝・胆・膵疾患
- 第14回 内科学各論－中毒・環境要因による疾患
- 第15回 老年医学

## ■ 評価方法

筆記試験95% 筆記小テスト5%

## ■ 教科書

書名：標準理学療法・作業療法専門分野 内科学

著者名：大成浄志

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書名：新臨床内科学

著者名：高久史磨・尾形悦郎

出版社：医学書院

書名：標準理学療法・作業療法専門分野 老年医学

著者名：大内尉義

出版社：医学書院

書名：NEW 臨床検査診断学

著者名：宮井潔

出版社：南江堂

## ■ 留意事項

講義では要点（基本的な考え方・各事項の用語説明などいわば“さわり”）

だけを述べることになるので、それをもとに教科書などでしっかり自習してほしい

授業科目	小児科学	担当者	小川 實・仲野 由季子		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

小児科学

## ■ 目 標

小川：学生の資質により対応

仲野：小児疾患（特に発達障害）の理解を深める

## ■ 授業計画

- 第1回 小児の発育と発達（小川）
- 第2回 小児の生活と栄養（小川）
- 第3回 小児の保健（小川）
- 第4回 出生前小児科学（小川）
- 第5回 新生児疾患（小川）
- 第6回 小児の感染症（小川）
- 第7回 小児の呼吸器疾患とアレルギー疾患（小川）
- 第8回 小児の循環器・消化器・泌尿器疾患（小川）
- 第9回 まとめ（1）（場合によっては第1回～8回の講義の補講）（小川）
- 第10回 まとめ（2）（場合によっては第1回～8回の講義の補講）（小川）
- 第11回 小児代謝内分泌，血液疾患（仲野）
- 第12回 中枢神経系疾患，筋疾患（仲野）
- 第13回 発達障害児のリハビリテーション（仲野）
- 第14回 軽度発達障害（仲野）
- 第15回 心身症，その周辺の疾患（仲野）

## ■ 評価方法

学生の資質により講義後半までに決定

## ■ 教科書

書名：最新育児小児病学 改訂第6版

著者名：黒田泰弘 ほか

出版社：南江堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	精神医学	担当者	小畔 美弥子		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

主な精神疾患について症状・診断・治療を学ぶ

### ■ 目 標

精神医学に興味を持ち，基本知識を身につける

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 精神医学とは
- 第2回 器質性精神障害
- 第3回 統合失調症
- 第4回 気分障害
- 第5回 不安障害
- 第6回 パーソナリティー障害
- 第7回 治療
- 第8回 まとめ

### ■ 評 価 方 法

筆記試験70%，出席・受講態度30%

### ■ 教 科 書

書 名：専門医がやさしく語るはじめての精神医学  
 著者名：渡辺雅幸  
 出版社：中山書店

### ■ 参 考 図 書

書 名：標準精神医学 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)  
 著者名：野村 総一郎 (編集)，樋口 輝彦 (編集)，尾崎 紀夫 (編集)  
 出版社：医学書院

### ■ 留 意 事 項

授業科目	リハビリテーション医学	担当者	澤井 里香子・ST 教員		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

- ・言語聴覚療法に必要なリハビリテーション医学の基礎知識について講義する。
- ・言語聴覚療法の各領域の臨床について、現任者が講義する。

## ■ 目 標

- ・言語聴覚療法に必要な医学的基礎知識を身につける。
- ・さまざまな臨床現場における言語聴覚療法の臨床を知り、各現場でのリハビリテーションについて理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーションとは (吉機)
- 第2回 言語聴覚士の現場の声をきく会 - 臨床の実際を知る-1
- 第3回 言語聴覚士の現場の声をきく会 - 臨床の実際を知る-2
- 第4回 言語聴覚士の役割とは ディスカッション
- 第5回 言語聴覚士の役割とは ディスカッション及び課題学習
- 第6回 言語聴覚士の役割とは ディスカッション及び課題学習
- 第7回 言語聴覚士の現場の声をきく会から学んだこと 発表
- 第8回 リハビリテーション医学の概念と障害学 (澤井)
- 第9回 廃用症候群・過用/誤用症候 中枢性神経麻痺の回復 (澤井)
- 第10回 脳卒中のリハビリテーション チーム医療 リハビリテーション看護 (澤井)
- 第11回 プログラミング 心理的問題 意識障害・ターミナルケア (澤井)
- 第12回 神経変性疾患 (PD, ALS, SCD) のリハビリテーション (澤井)
- 第13回 ケア・マネジメント 施設・住宅での嚥下ケア (澤井)
- 第14回 授業全体の総合的演習 (澤井)
- 第15回 授業全体の総合的復習 (澤井)

## ■ 評価方法

- 第1回～7回 出席状況
- 第8回～15回 筆記試験

## ■ 教科書

使用しない

## ■ 参考書

- 書名：動画で学ぶ脳卒中のリハビリテーション  
著者名：園田 茂  
出版社：医学書院
- 
- 書名：リハビリテーション医療心理学キーワード  
著者名：才藤栄一ほか  
出版社：n & nBOOKS
- 
- 書名：認知症のとらえ方・対応の仕方  
著者名：森 敏  
出版社：金芳堂
- 
- 書名：事例で学ぶ痴呆老人の問題行動へのアプローチ  
著者名：宮永和夫  
出版社：医療ジャーナル社

## ■ 留意事項

授業科目	耳鼻咽喉科学	担当者	岩井 詔子ほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

耳鼻咽喉科疾患の病態と診断・治療について講義を行う。

## ■ 目 標

耳鼻咽喉科疾患について、言語聴覚士に必要な知識を身につけることを目標とする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 聴覚・平衡感覚器の機能解剖（画像診断を含む）
- 第2回 聴覚・平衡感覚器の機能解剖（画像診断を含む）
- 第3回 鼻腔・咽頭腔の機能解剖
- 第4回 聴覚障害の原因（症候群を含む）
- 第5回 小児耳鼻科臨床①
- 第6回 小児耳鼻科臨床②
- 第7回 まとめ
- 第8回 鼻・咽喉頭疾患の病態と治療
- 第9回 外耳疾患の病態と治療
- 第10回 中耳疾患の病態と治療
- 第11回 内耳疾患の病態と治療
- 第12回 聴力改善術
- 第13回 前庭・平衡系の構造と機能
- 第14回 めまい疾患
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

試験100%

## ■ 教 科 書

書 名：言語聴覚士のための聴覚障害学  
 著者名：喜多村健  
 出版社：医歯薬出版

書 名：言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版  
 著者名：鳥山 稔  
 出版社：医学書院

## ■ 参 考 書

## ■ 留 意 事 項



授業科目	臨床神経学	担当者	小倉 光博		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

スライドを中心に、臨床的に頻度の高い神経疾患をわかりやすく解説する。あわせて、神経解剖、神経生理、神経症候学、神経放射線診断についても解説する。

### ■ 目 標

神経解剖、神経生理などの基本的知識をもとに、臨床でよく経験する神経疾患の病態、診断、治療を理解すること。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 神経解剖・神経生理
- 第2回 神経解剖・神経生理
- 第3回 脳血管障害
- 第4回 脳血管障害
- 第5回 脳腫瘍
- 第6回 脳腫瘍
- 第7回 頭部外傷
- 第8回 頭部外傷
- 第9回 小児頭部外傷・先天奇形
- 第10回 神経血管症候群
- 第11回 パーキンソン病
- 第12回 認知症
- 第13回 頭痛
- 第14回 神経変性疾患・感染症
- 第15回 神経画像診断

### ■ 評 価 方 法

筆記試験100%

### ■ 教 科 書

### ■ 参 考 図 書

書 名：絵でみる脳と神経 第3版  
 著者名：馬場元毅  
 出版社：医学書院

### ■ 留 意 事 項

授業科目	形成外科学	担当者	大倉 正也		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

言語聴覚士に必要な顎顔面外科学

### ■ 目 標

基礎知識の習得と理解

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 総論（嚙下を含む）
- 第2回 口唇口蓋裂
- 第3回 口腔腫瘍
- 第4回 顎変形症
- 第5回 顎顔面の再建
- 第6回 唾液の機能と唾液腺
- 第7回 口腔の様々な疾患
- 第8回 試験対策

### ■ 評 価 方 法

筆記試験（80%）、出席状況（無断欠席や遅刻はマイナス評価）、の結果を総合的に評価する。

### ■ 教 科 書

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

無断欠席や遅刻に注意してください。

授業科目	臨床歯科医学	担当者	小原 浩		
学 科 名	言語聴覚専攻科	学 年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

歯科疾患と口腔の構造について詳説する

### ■ 目 標

STに必要な口腔の構造、歯科疾患について理解する

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 歯科概論、歯科とSTのかかわり 口腔の構造・機能と構音について
- 第2回 歯と歯周組織の解剖学
- 第3回 歯と歯周組織の発生学、組織学
- 第4回 歯の疾患（齲蝕、先天異常など）
- 第5回 硬組織欠損の治療について
- 第6回 歯周病、予防歯科について
- 第7回 口蓋裂治療とSTについて
- 第8回 まとめ

### ■ 評 価 方 法

筆記試験による評価とする（100%）

### ■ 教 科 書

書 名：言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学  
 著者名：道 健一 ほか  
 出版社：医歯薬出版

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

授業科目	口腔外科学	担当者	中嶋 正博		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

口腔の構造と機能、顎骨および口腔軟組織に発現する疾患について講義する。

### ■ 目 標

言語聴覚士として必要な口腔の機能および口腔疾患について理解する。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 口腔の構造と機能
- 第2回 言語障害と関係のある疾患（1）口唇、頬、舌の奇形と異常、顎・顔面・口腔の奇形、変形
- 第3回 言語障害と関係のある疾患（2）顎関節疾患、唾液線疾患、神経疾患、炎症
- 第4回 言語障害と関係のある疾患（3）嚢胞、外傷、口腔粘膜疾患
- 第5回 言語障害と関係のある疾患（4）口腔領域の良性腫脹
- 第6回 言語障害と関係のある疾患（5）口腔領域の悪性腫脹
- 第7回 顎・口腔領域の再編と機能回復
- 第8回 中枢神経疾患による口腔機能障害、加齢による口腔機能障害

### ■ 評 価 方 法

筆記試験100%

### ■ 教 科 書

書名：言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学  
 著者名：道健一編  
 出版社：医歯薬出版

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

授業科目	呼吸発声系医学	担当者	本多 知行・楯谷 一郎		
学 科 名	言語聴覚専攻科	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

嚥下障害分野：リハビリテーション医師の立場から嚥下障害への取り組みについて講義する。  
音声障害分野：音声障害の基礎及び臨床について、医学的な観点から講義を行う。

## ■ 目 標

嚥下障害分野：嚥下障害の理解を深め、人間の根源的欲求である「口から食べる」という QOL の向上を目的として言語聴覚士が支援できる技術・考え方を習得する。  
音声障害分野：音声障害のリハビリテーションを行う際に必要となる耳鼻咽喉科学的知識を習得する。

## ■ 授業計画

- 第1回 嚥下障害の理解のために必要な解剖・生理（本多）
- 第2回 嚥下障害の理解のために必要な評価と訓練（本多）
- 第3回 嚥下障害の理解のために必要な評価と訓練（本多）
- 第4回 嚥下障害におけるチームアプローチと関連事項（本多）
- 第5回 偽（仮）性球麻痺タイプの嚥下障害の特徴とアプローチ  
球麻痺タイプの嚥下障害の特徴とアプローチ（本多）
- 第6回 変性疾患の嚥下障害に対する特徴とアプローチ（本多）
- 第7回 嚥下障害の重症度分類と最近の話題（本多）
- 第8回 喉頭の解剖（楯谷）
- 第9回 発声の生理機構（楯谷）
- 第10回 喉頭検査法（楯谷）
- 第11回 喉頭疾患の診断と治療：器質的病変（楯谷）
- 第12回 喉頭疾患の診断と治療：器質的病変（楯谷）
- 第13回 喉頭疾患の診断と治療：非器質的病変（楯谷）
- 第14回 音響分析・音声検査法（楯谷）
- 第15回 まとめ（楯谷）

## ■ 評価方法

試験100%です。

## ■ 教 科 書

## ■ 参考図書

(本多先生)  
.....  
書 名：摂食・嚥下リハビリテーション 第2版  
著者名：金子芳洋・千野直一監修  
出版社：医歯薬出版  
.....  
書 名：嚥下障害の臨床 第2版  
著者名：日本嚥下障害臨床研究会監修  
出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

授業科目	聴覚系医学	担当者	金丸 眞一 ほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

聴覚系の構造・機能・病態と疾患について解説する。

## ■ 目 標

聴覚系の構造や機能を理解し、その疾患について言語聴覚士に必要な知識を身につける。

## ■ 授業計画

- 第1回 耳科学の概説と聴覚系の構造①（外耳・中耳・内耳）
- 第2回 聴覚系の機能①（外耳・中耳）
- 第3回 聴覚系の機能②（内耳）
- 第4回 聴覚系の機能③（聴神経と視聴中枢経路）
- 第5回 聴覚系の機能④（聴覚中枢機構、両耳聴能と方向感覚）
- 第6回 聴覚検査と耳疾患
- 第7回 聴覚器官の病態①（外耳・中耳疾患①）
- 第8回 聴覚器官の病態②（外耳・中耳疾患②）
- 第9回 鼓室形成手術
- 第10回 聴覚器官の病態③（内耳疾患①）
- 第11回 聴覚器官の病態④（内耳疾患②）
- 第12回 内耳再生医学
- 第13回 聴覚器官の病態⑤（後迷路・中枢性難聴疾患）
- 第14回 聴覚と音声・言語・音楽
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

試験100%

## ■ 教科書

書名：言語聴覚士のための聴覚障害学  
 著者名：喜多村健 編著  
 出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業科目	神経系医学	担当者	板倉 徹・西林 宏起		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

中枢神経系の機能解剖、神経放射線画像について講義を行う。

### ■ 目 標

中枢神経系の重要な機能解剖について、系統的に理解する。  
日常臨床で遭遇する症例の画像所見を読影できる。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 大脳皮質①（西林）
- 第2回 大脳皮質②（西林）
- 第3回 脳血管系、脳脊髄系（西林）
- 第4回 間脳、大脳基底核（西林）
- 第5回 脳幹（西林）
- 第6回 脳神経（西林）
- 第7回 小脳、脊髄（西林）
- 第8回 脳血管系①（板倉）
- 第9回 脳血管系②（板倉）
- 第10回 脳脊髄液系（板倉）
- 第11回 画像診断 CT①（板倉）
- 第12回 画像診断 CT②（板倉）
- 第13回 画像診断 MRI（板倉）
- 第14回 画像診断 その他の画像診断（板倉）
- 第15回 まとめ（板倉）

### ■ 評 価 方 法

筆記試験（100%）

### ■ 教 科 書

西林先生

書 名：絵でみる脳と神経

著者名：馬場元毅

出版社：医学書院

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

無断欠席や遅刻に注意してください。

授業科目	臨床心理学 1	担当者	藤井 章乃		
学科名	言語聴覚専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

臨床心理学の基本的な理論を学び、実習において具体的に理解を深める。

## ■ 目 標

人間理解を深め、理想的な人間関係を模索し、実践において役立てることを目標とする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 臨床心理学の概要
- 第2回 心とは何か？ カウンセリングマインドについて
- 第3回 臨床心理学演習
- 第4回 人格理論 フロイトの精神分析理論Ⅰ
- 第5回 人格理論 フロイトの精神分析理論Ⅱ
- 第6回 人格理論 ユングの分析的心理学Ⅰ
- 第7回 人格理論 ユングの分析的心理学Ⅱ
- 第8回 人格理論 ロジャーズの自己理論
- 第9回 発達理論 対象関係論
- 第10回 発達理論 エリクソンの心理・社会的発達理論
- 第11回 精神的問題の分類と概説①
- 第12回 精神的問題の分類と概説②
- 第13回 臨床心理学演習①
- 第14回 臨床心理学演習②
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

出席・受講態度20% 試験80%

## ■ 教 科 書

書 名：心とかかわる臨床心理  
 著者名：川瀬正裕・松本真理子・松本英夫  
 出版社：ナカニシヤ出版

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項



授業科目	臨床心理学 2	担当者	藤井 章乃		
学科名	言語聴覚専攻	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

臨床心理学の基本的な理論を学び、実習において具体的に理解を深める。

## ■ 目 標

人間理解を深め、理想的な人間関係を模索し、実践において役立てることを目標とする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 心理アセスメントの概要
- 第2回 心理アセスメント ～心理テスト・質問紙法～
- 第3回 心理アセスメント 心理テスト・質問紙法の実習
- 第4回 心理アセスメント ～心理テスト・投影法～
- 第5回 心理アセスメント 心理テスト・投影法の実習
- 第6回 心理療法 クライアント中心療法①
- 第7回 心理療法 クライアント中心療法②
- 第8回 心理療法 精神分析療法
- 第9回 心理療法 分析的心理療法
- 第10回 心理療法 行動療法
- 第11回 心理療法 認知行動療法
- 第12回 心理療法 芸術療法①
- 第13回 心理療法 芸術療法②
- 第14回 心理療法 その他
- 第15回 心理療法 その他

## ■ 評 価 方 法

出席・受講態度20% 試験80%

## ■ 教 科 書

書 名：心とかかわる臨床心理  
 著者名：川瀬正裕・松本真理子・松本英夫  
 出版社：ナカニシヤ出版

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

参考図書については講義時に適宜、紹介します。

授業科目	生涯発達心理学 1	担当者	工藤 芳幸		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

胎内から始まる個体発達について、乳幼児期を中心に学童期までを解説します。これまでの発達研究を概観しつつ、現在の子どもを取り巻く状況も取り上げていきます。

## ■ 目 標

子どもの生活世界を理解していくための視点と方法を得ることを目的とします。人間として、また言語聴覚士として、どのように子どもたちと向き合い、関わっていくのか、考える機会としてみて下さい。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 発達の理論
- 第2回 親子関係と発達（1）
- 第3回 親子関係と発達（2）
- 第4回 運動の発達
- 第5回 感情の発達
- 第6回 注意・記憶の発達
- 第7回 認知発達（1）
- 第8回 認知発達（2）
- 第9回 遊び・社会性の発達（1）
- 第10回 遊び・社会性の発達（2）
- 第11回 言語発達（1）
- 第12回 言語発達（2）
- 第13回 発達支援・家族支援（1）
- 第14回 発達支援・家族支援（2）
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

試験による評価 100%

## ■ 教 科 書

書 名：「図で理解する発達 新しい発達心理学への招待」  
 著者名：川島一夫、渡辺弥生 編著  
 出版社：福村出版

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	生涯発達心理学 2	担当者	森田喜治・阪本裕子・小野栄 ほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

森田：幼児期から中年期までの心理的発達と各時期の課題と問題との治療について

阪本・小野ほか：老年期のエイジングとパーソナリティー、認知症の問題、死への対応について解説する。

## ■ 目 標

対人関係学の立場から情緒の発達の理解と課題及び、病理とその治療についての理解を深め、人間の心の成長、対人関係の成長及び葛藤についての理解を深める。

各発達段階の課題や病理について理解し、適切なアプローチについて考えることができる。

## ■ 授 業 計 画

第1回 対人関係学の立場からの乳幼児における母子関係、対人関係についての解説

第2回 ライフサイクルにおける幼児期の課題と対人関係について、対象関係論、心理学的現象学の観点から解説する

第3回 ライフサイクルにおける幼児期の問題行動と治療について解説する

第4回 ライフサイクルにおける児童期の課題と対人関係について、対象関係論、心理学的現象学の観点から解説する

第5回 ライフサイクルにおける児童期の問題行動と治療について解説する

第6回 ライフサイクルにおける青年期前期（思春期）の課題と対人関係について、対象関係論、心理学的現象学の観点から解説する

第7回 ライフサイクルにおける青年期前期（思春期）の問題行動と治療について解説する

第8回 成人期、中年期の課題と問題、その家族との人間関係について治療を含めた観点から解説する

第9回 失語症患者とその家族の心理（小野）

第10回 老年期のエイジングとパーソナリティー（小野）

第11回 高齢者の諸問題と接し方について（小野）

第12回 老年期の知的機能－認知症について（阪本）

第13回 老年期の知的機能－認知症のケアについて（阪本）

第14回 死への対応 1

第15回 死への対応 2

## ■ 評 価 方 法

森田：出席 70% レポート 30%

小野・阪本ほか：レポート100%

## ■ 教 科 書

特に指定しません

## ■ 参 考 書

特に指定しません・講義内で適宜紹介していきます

## ■ 留 意 事 項

--

授業科目	学習・認知心理学 1	担当者	横山 武昌		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必須

## ■ 内 容

本講義では、言語聴覚士に必要とされる学習・認知心理学について学びます。前期は感覚・知覚・学習・記憶についてお話しします。

## ■ 目 標

人間がどのように外の世界をとらえているのか（感覚・知覚）、またどのように新しい行動や知識を獲得していくのか（学習・記憶）を理解することを目標とします。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 心理学とは何か？
- 第2回 感覚の分化と統合Ⅰ（感覚・知覚）
- 第3回 感覚の分化と統合Ⅱ（感覚・知覚）
- 第4回 視知覚Ⅰ（感覚・知覚）
- 第5回 視知覚Ⅱ（感覚・知覚）
- 第6回 古典的条件づけ（学習）
- 第7回 オペラント条件づけ（学習）
- 第8回 強化スケジュール（学習）
- 第9回 技能学習（学習）
- 第10回 社会的学習（学習）
- 第11回 記憶の過程（記憶）
- 第12回 短期記憶（記憶）
- 第13回 長期記憶（記憶）
- 第14回 記憶の神経過程（記憶）
- 第15回 前期のまとめ

## ■ 評 価 方 法

出席状況・試験の結果を総合的に評価する。（試験100%）

## ■ 教 科 書

テキストは使用しない。配布資料により授業を進める。

## ■ 参 考 図 書

書名：心理学（第4版）  
 著者名：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編  
 出版社：東京大学出版会

## ■ 留 意 事 項

--

授業科目	学習・認知心理学2	担当者	横山 武昌		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必須

## ■ 内 容

本講義では、言語聴覚士に必要とされる学習・認知心理学について学びます。後期は、より高次の認知過程を必要とする思考・言語についてお話しします。

## ■ 目 標

学習・認知心理学において扱われる人間の問題解決の仕方や知識の構造（思考）、また言語を獲得するにあたり必要な認知発達（言語）に関して理解することを目標とします。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 前期のおさらい
- 第2回 問題解決（思考）
- 第3回 問題解決と認知発達（思考）
- 第4回 知識（思考）
- 第5回 推論と発見（思考）
- 第6回 言語獲得（言語）
- 第7回 非言語コミュニケーション（言語）
- 第8回 前期・後期のまとめ

## ■ 評 価 方 法

出席状況・試験の結果を総合的に評価する。（試験100％）

## ■ 教 科 書

テキストは使用しない。配布資料により授業を進める。

## ■ 参 考 図 書

書名：心理学（第4版）  
 著者名：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編  
 出版社：東京大学出版会

## ■ 留 意 事 項

授業科目	心理測定法	担当者	松井 理直		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

精神物理学的手法・各種心理テスト法・統計学の基本概念

## ■ 目 標

聴力テスト・心理テストの基盤となる心理測定法の各種概念について理解を深める。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 心理テストの特徴とテストの信頼性・再現性。
- 第2回 精神物理学の測定法（1）—調整法
- 第3回 精神物理学の測定法（2）—極限法と恒常法
- 第4回 尺度構成について。
- 第5回 一対比較法と感覚尺度。
- 第6回 統計処理の基本。
- 第7回 仮説検定の基礎。
- 第8回 各種統計処理の特徴。
- 第9回 実験計画法と分散分析（1）
- 第10回 実験計画法と分散分析（2）
- 第11回 臨床心理学で用いられるテスト法
- 第12回 発達心理学で用いられる各種テストの特徴（1）
- 第13回 発達心理学で用いられる各種テストの特徴（2）
- 第14回 認知能力とことばの心理。
- 第15回 心理測定法の総復習。

## ■ 評 価 方 法

テスト70%, ミニテストを含む平常点30%

## ■ 教 科 書

書 名：教材心理学  
 著者名：難波精一郎ほか  
 出版社：ナカニシヤ出版

## ■ 参 考 図 書

授業中に適宜紹介する。

## ■ 留 意 事 項

分からないことがあれば、必ずその場で質問してください。疑問点を残さないようにしましょう。

授業科目	言語学 1	担当者	松井 理直		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

ことばの音声面についての理解を深める。

### ■ 目 標

言語聴覚士の仕事に必要な「ことば」に関する理解を深める。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 言語学入門—「ことば」とはどのようなものか。
- 第2回 記号というシステムの特徴。
- 第3回 音声学入門—調音器官について
- 第4回 子音の分類
- 第5回 母音の分類
- 第6回 IPA 記号について
- 第7回 日本語の母音の特徴
- 第8回 日本語の子音音素と異音（1）
- 第9回 日本語の子音音素と異音（2）
- 第10回 日本語の子音音素と異音（3）
- 第11回 特殊音素—撥音について
- 第12回 特殊音素—促音について
- 第13回 モーラと音節構造
- 第14回 東京方言のアクセント
- 第15回 アクセントとイントネーション

### ■ 評 価 方 法

テスト70%, ミニテストを含む平常点30%

### ■ 教 科 書

プリントを配布

### ■ 参 考 図 書

授業中に適宜紹介する。

### ■ 留 意 事 項

分からないことがあれば、必ずその場で質問してください。疑問点を残さないようにしましょう。

授業科目	言語学2	担当者	松井 理直		
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

ことばの意味・文法に関わる性質を深く理解する。

### ■ 目 標

言語聴覚士の仕事に必要な「ことば」に関する理解を深める。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 音声と文字
- 第2回 日本語の語彙層について
- 第3回 文字と語彙層の関係
- 第4回 日本語の形態音韻論について
- 第5回 形態素の考え方
- 第6回 形態素の種類
- 第7回 動詞形態素とその後続形
- 第8回 テンスとアスペクト
- 第9回 ヴォイス・ムード・モダリティ
- 第10回 日本語の助詞について
- 第11回 生成文法の考え方
- 第12回 構造としての文法
- 第13回 意味と論理
- 第14回 語用論について
- 第15回 言語と社会

### ■ 評 価 方 法

テスト70%, ミニテストを含む平常点30%

### ■ 教 科 書

プリントを配布

### ■ 参 考 図 書

授業中に適宜紹介する。

### ■ 留 意 事 項

分からないことがあれば、必ずその場で質問してください。疑問点を残さないようにしましょう。



授業科目	音声学 1	担当者	松井 理直		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

日本語の音素と異音の関係を理解する。

### ■ 目 標

日本語の発音について、詳細な点まではっきりと理解する。

### ■ 授業計画

- 第1回 STにとって音声学で学ばなければならないこと。
- 第2回 調音器官の説明。
- 第3回 IPAの子音チャートについて。
- 第4回 有声音と無声音。
- 第5回 調音方法（1）—破裂音と摩擦音
- 第6回 調音方法（2）—はじき音と接近音
- 第7回 調音位置の詳細について。
- 第8回 母音の発音。
- 第9回 日本語の発音—五十音を巡って。
- 第10回 いわゆる四つ仮名について。
- 第11回 ハ行発音について。
- 第12回 特殊拍（1）—撥音について。
- 第13回 特殊拍（2）—促音と長音。
- 第14回 IPAの補助記号と構音障害の表記法。
- 第15回 音声学の復習。

### ■ 評価方法

テスト70%, ミニテストを含む平常点30%

### ■ 教科書

書名：日本語音声学入門  
 著者名：齊藤純男  
 出版社：三省堂

### ■ 参考図書

授業中に適宜紹介する。

### ■ 留意事項

分からないことがあれば、必ずその場で質問してください。疑問点を残さないようにしましょう。

授業科目	音声学2	担当者	松井 理直		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

日本語の音節構造・アクセント・イントネーションの関係を理解する。

### ■ 目 標

言語聴覚士の仕事に必要な音声の知識の完成を目指す。

### ■ 授業計画

- 第1回 アクセントとは何か。
- 第2回 東京方言のアクセントシステム。
- 第3回 アクセント核と音韻論の基礎。
- 第4回 関西方言と鹿児島方言のシステム。
- 第5回 東京方言のイントネーションについて。
- 第6回 ダウンステップとデクリネーション。
- 第7回 音素と異音。
- 第8回 調音結合と二重調音の違い。
- 第9回 韻律構造について。
- 第10回 モーラと音節を巡る韻律理論。
- 第11回 日本語のリズムと語形成。
- 第12回 日本語の語彙層と音声体系。
- 第13回 オノマトペの特異性。
- 第14回 日本語音声の総復習。
- 第15回 音声学の総復習。

### ■ 評価方法

テスト70%, ミニテストを含む平常点30%

### ■ 教科書

書名：日本語音声学入門  
 著者名：齊藤純男  
 出版社：三省堂

### ■ 参考図書

授業中に適宜紹介する。

### ■ 留意事項

分からないことがあれば、必ずその場で質問してください。疑問点を残さないようにしましょう。

授業科目	音響学 1	担当者	松井 理直		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

言語聴覚士として知っておくべき「音」の性質について理解する。

### ■ 目 標

音声の客観的な診断に役立つ基本的な知識を習得する。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 音とは何か—疎密波と音の伝播。
- 第2回 音の伝播の仕組みと音速。
- 第3回 周波数の概念。
- 第4回 周波数と周期の関係。
- 第5回 周波数と波長の関係。
- 第6回 指数と対数の計算について。
- 第7回 周波数レベルとメル尺度。
- 第8回 音の強さと音圧。
- 第9回 強さと音圧の関係について。
- 第10回 パワーレベルの計算方法。
- 第11回 様々なタイプのデジベル値。
- 第12回 デジベルに関する理解を深める。
- 第13回 等ラウドネス曲線について。
- 第14回 フォンとソン。
- 第15回 前期の総復習。

### ■ 評 価 方 法

テスト70%, ミニテストを含む平常点30%

### ■ 教 科 書

プリントを配布する。

### ■ 参 考 図 書

授業中に適宜紹介する。

### ■ 留 意 事 項

分からないことがあれば、必ずその場で質問してください。疑問点を残さないようにしましょう。

授業科目	音響学2	担当者	松井 理直		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

言語聴覚士として知っておくべき「音」の性質について理解する。

### ■ 目 標

実際に音声の客観的な分析ができるようになることが目標である。

### ■ 授業計画

- 第1回 複合音の特性。
- 第2回 倍音と基本周波数。
- 第3回 失われた基音と場所説・時間説。
- 第4回 スペクトルについて。
- 第5回 短時間スペクトルの特性。
- 第6回 声帯のスペクトルの特徴。
- 第7回 共鳴とは何か。
- 第8回 共鳴管（1）一閉管の特徴。
- 第9回 共鳴管（2）一開管の特徴。
- 第10回 フォルマントと調音位置。
- 第11回 子音の調音方法と音響特性。
- 第12回 サウンドスペクトログラムの読み方。
- 第13回 音声の音響的特徴のまとめ。
- 第14回 デジタル信号処理。
- 第15回 音響学の総復習。

### ■ 評価方法

テスト70%, ミニテストを含む平常点30%

### ■ 教 科 書

### ■ 参考図書

授業中に適宜紹介する。

### ■ 留意事項

分からないことがあれば、必ずその場で質問してください。疑問点を残さないようにしましょう。

授業科目	言語発達学	担当者	齋藤 典昭		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

子どもたちの発達の中でも言語の領域の発達について学びます。範囲は0歳から学齢までです。

## ■ 目 標

1. 言語発達障害を理解するために、正常発達についての基礎知識を獲得する。
2. その知識を用いて子どもたちを観察し、ことばの発達について概要を評価できるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 前言語期の言語発達 その1 コミュニケーションの発達
- 第2回 前言語期の言語発達 その2 コミュニケーションの発達
- 第3回 前言語期の言語発達 その3 聞き分けることの発達
- 第4回 前言語期の言語発達 その4 聞き分けることの発達
- 第5回 前言語期の言語発達 その5 言語音を産生することの発達
- 第6回 前言語期の言語発達 その6 感覚運動的知能の発達
- 第7回 前言語期の発達について 復習
- 第8回 語彙獲得の発達
- 第9回 語意味獲得の発達 その1 制約という仮説
- 第10回 語意味獲得の発達 その2 社会相互作用アプローチという仮説
- 第11回 文法獲得の発達 統語と形態の発達
- 第12回 語用論的側面からみた言語発達 その1 会話の発達
- 第13回 語用論的側面からみた言語発達 その2 語りの発達
- 第14回 読み書きの発達
- 第15回 言語獲得理論

## ■ 評価方法

筆記試験による評価100%

## ■ 教科書

書名：新・子どもたちの言語獲得

著者名：小林春美ほか

出版社：大修館書店

書名：言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学

著者名：今泉敏ほか

出版社：医学書院

書名：標準言語聴覚障害学 言語発達障害学

著者名：玉井ふみ, 深浦順一ほか

出版社：医学書院

書名：言語聴覚士テキスト 第2版

著者名：廣瀬肇ほか

出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：子どもとことば

著者名：岡本夏木

出版社：岩波書店 新書

書名：ことばと発達

著者名：岡本夏木

出版社：岩波書店 新書

書名：0歳児がことばを獲得するとき

著者名：正高信男

出版社：中央公論社 新書

書名：子どもはことばを身体で覚える

著者名：正高信男

出版社：中央公論社 新書

書名：ことばはどこで育つか

著者名：藤永保

出版社：大修館書店

## ■ 留意事項

授業科目	リハビリテーション概論	担当者	ST 教員		
学 科 名	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

言語聴覚障害の方にご来校いただき対話会を行う。

### ■ 目 標

言語聴覚障害者とのコミュニケーションについて理解を深め、コミュニケーションに関する自己の課題を知る。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 対話会実施の意義について
- 第2回 第1回 言語聴覚障害の方との対話会
- 第3回 第1回 言語聴覚障害の方との対話会
- 第4回 第1回 言語聴覚障害の方との対話会
- 第5回 第2回 言語聴覚障害の方との対話会
- 第6回 第2回 言語聴覚障害の方との対話会
- 第7回 第2回 言語聴覚障害の方との対話会
- 第8回 対話会を振り返って－コミュニケーションの課題－

### ■ 評 価 方 法

レポート100%

### ■ 教 科 書

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

授業科目	社会保障制度	担当者	山本 永人		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

わが国の社会保障制度および社会福祉制度の概略をプリントと教科書を使用しながら解説を行います。

## ■ 目 標

言語聴覚士に最低限必要な社会保障・社会福祉の制度の内容成り立ち、その理念を学習し、セラピストとしての基礎的な素養を身につけます。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 社会福祉の定義とその価値観について
  - 第2回 社会福祉の基本的な理念として—ノーマライゼーション
  - 第3回 社会福祉の基本的な理念として—リハビリテーション
  - 第4回 わが国における社会福祉の歴史と概観
  - 第5回 社会保障制度の基本的な枠組み
  - 第6回 社会保険制度（1） 医療保険
  - 第7回 社会保険制度（2） 年金保険
  - 第8回 社会保険制度（3） 雇用保険・労働者災害補償保険
  - 第9回 社会保険制度（4） 高齢者福祉と介護保険制度
  - 第10回 公的扶助制度
  - 第11回 障害者自立支援法（1）
  - 第12回 障害者自立支援法（2）
  - 第13回 児童福祉と社会手当
  - 第14回 基本的な社会福祉の援助技術
  - 第15回 総括・テスト
- わが国の社会保障や社会福祉に関わるこれからの課題

## ■ 評 価 方 法

テスト（70%）を中心に、授業態度（15%）や提出物等の状況（15%）を総合的に判断して評価する。

## ■ 教 科 書

書 名：よくわかる社会福祉（最新版）  
 著者名：山縣文治・岡田忠克編  
 出版社：ミネルヴァ書房

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

できるだけ、楽しく明るく授業を行います。積極的な参加をお願いします。とくに欠席しないようにしてください。



授業科目	医療福祉教育・関係法規	担当者	山本永人・柏木敏宏・柴田浩志		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

言語聴覚士の仕事にまつわる関係法規や言語聴覚士法の成り立ち、聴覚障害者福祉に関する講義を行う。また、ICF やインクルージョン等の理念の解説もこの授業の中で行う。

## ■ 目 標

- ・言語聴覚士として必要最低限の法律の知識とともに、その運用やその理念の柱となる ICF やインクルージョンの考え方を習得する。
- ・言語聴覚士法制定までの道のりや聴覚障害者福祉の歴史と現状について知る。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 聴覚言語士の仕事に関連する法律（山本）
- 第2回 障害者施策に関連した関係法規（山本）
- 第3回 ICF とインクルージョンの理念（山本）
- 第4回 成年後見制度と権利擁護  
知的障害者の虐待から考える（山本）
- 第5回 聴覚障害者福祉の歴史と現状（柴田）
- 第6回 聴覚障害者を巡る状況 福祉分野の取り組みと課題（柴田）
- 第7回 言語聴覚士法の歴史（柏木）
- 第8回 言語聴覚士に求めるもの（柏木）

## ■ 評 価 方 法

テスト（70％）を中心に、授業態度（15％）や提出物等の状況（15％）を総合的に判断して評価する。

## ■ 教 科 書

適宜、プリントを配布します。

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

できるだけ、楽しく明るく授業を行います。積極的な参加をお願いします。とくに欠席しないようにしてください。

授業科目	言語聴覚障害学概論 1	担当者	ST 教員ほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

- ・ 神経系、発声発語器官、頭頸部解剖学への導入
- ・ I 期実習ガイダンス（実習に必要な知識や技術に関する講義と演習）

### ■ 目 標

- ・ 神経系や発声発語器官、頭頸部の概要を理解する。
- ・ 実習に先だち、言語聴覚士として必要な各領域の知識や技術の基礎的事項を身につける。

### ■ 授 業 計 画

第1回	言語聴覚障害とは（吉機）		
第2回	神経系の解剖学（吉機）		
第3回	発声発語器官の解剖学（前田）		
第4回	頭頸部の解剖学（前田）		
第5回	I 期実習ガイダンス	実習とは	
第6回	I 期実習ガイダンス	車椅子操作と移乗動作	講義
第7回	I 期実習ガイダンス	車椅子操作と移乗動作	演習
第8回	I 期実習ガイダンス	車椅子操作と移乗動作	演習
第9回	I 期実習ガイダンス	実習日誌の書き方	
第10回	I 期実習ガイダンス	実習日誌の書き方	
第11回	I 期実習ガイダンス	感染症について	講義
第12回	I 期実習ガイダンス	感染症について	演習
第13回	I 期実習ガイダンス	バイタルサインについて	基礎知識と聴取の演習
第14回	I 期実習ガイダンス	バイタルサインについて	基礎知識と聴取の演習
第15回	I 期実習ガイダンス	諸注意	

### ■ 評価方法

出席状況 100%

### ■ 教 科 書

### ■ 参考図書

### ■ 留意事項

授業科目	言語聴覚障害学概論 2	担当者	ST 教員ほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

Ⅱ期実習ガイダンス（評価実習に必要な知識や技術に関する講義と演習）

### ■ 目 標

言語聴覚障害の評価に必要な知識や技術を身につける。

### ■ 授 業 計 画

第1回	Ⅱ期実習ガイダンス	評価とは - 成人領域 -
第2回	Ⅱ期実習ガイダンス	評価とは - 小児領域 -
第3回	Ⅱ期実習ガイダンス	嚥下障害の評価 講義
第4回	Ⅱ期実習ガイダンス	嚥下障害の評価 演習
第5回	Ⅱ期実習ガイダンス	症例報告書の書き方
第6回	Ⅱ期実習ガイダンス	実習日誌の書き方
第7回	Ⅱ期実習ガイダンス	レポートの書き方
第8回	Ⅱ期実習ガイダンス	成人臨床講義
第9回	Ⅱ期実習ガイダンス	成人臨床講義
第10回	Ⅱ期実習ガイダンス	成人臨床講義を振り返って
第11回	Ⅱ期実習ガイダンス	小児臨床講義
第12回	Ⅱ期実習ガイダンス	小児臨床講義
第13回	Ⅱ期実習ガイダンス	小児臨床講義を振り返って
第14回	Ⅱ期実習ガイダンス	カルテの見方
第15回	Ⅱ期実習ガイダンス	諸注意

### ■ 評 価 方 法

出席状況 100%

### ■ 教 科 書

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

授業科目	言語聴覚障害診断学 1	担当者	齋藤典昭・工藤芳幸・岡美代子		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

人工内耳装用の子どもさんに協力してもらい、プレイルームで一緒に遊び、その後で子どもさんの課題と関わる学生の課題について検討します。

## ■ 目 標

1. 子どもの多様性について識る
2. 子どもとの関わり方を学ぶ
3. 遊びを通じて発達を評価する能力と指導方針を立てる能力を獲得する

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 設定第1回 (5月, 6月, 7月) 設定遊び及び自由遊びを行う A班
- 第2回 設定第1回 設定遊び及び自由遊びを行う A班
- 第3回 設定第1回 フィードバックと全体ディスカッション
- 第4回 設定第2回 設定遊び及び自由遊びを行う B班
- 第5回 設定第2回 設定遊び及び自由遊びを行う B班
- 第6回 設定第2回 フィードバックと全体ディスカッション
- 第7回 設定第3回 設定遊び及び自由遊びを行う C班
- 第8回 設定第3回 設定遊び及び自由遊びを行う C班
- 第9回 設定第3回 フィードバックと全体ディスカッション
- 第10回 設定第4回 設定遊び及び自由遊びを行う D班
- 第11回 設定第4回 設定遊び及び自由遊びを行う D班
- 第12回 設定第4回 フィードバックと全体ディスカッション
- 第13回 設定第5回 (Ⅲ期実習終了後, 11月) 設定遊び及び自由遊びを行う E班
- 第14回 設定第5回 設定遊び及び自由遊びを行う E班
- 第15回 設定第5回 フィードバックと全体ディスカッション
- 第16回 設定第6回 設定遊び及び自由遊びを行う F班
- 第17回 設定第6回 設定遊び及び自由遊びを行う F班
- 第18回 設定第6回 フィードバックと全体ディスカッション

## ■ 評 価 方 法

毎回提出するレポートの評価100%

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

6班作り, 各回の設定を担当していただきます。

授業科目	言語聴覚障害診断学2	担当者	前田留美子・大塚佳代子・名徳倫明・金子みどりほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

摂食・嚥下リハビリテーションに必要な知識と技術を演習を交えて学ぶ

## ■ 目 標

臨床上に必要な知識を身につけ、手技を実践できるようになる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 カニューレの構造・役割・種類と取り扱いについて（前田留美子）
- 第2回 摂食・嚥下障害と気管カニューレについて（大塚佳代子）
- 第3回 摂食・嚥下障害とカニューレ抜去の訓練について（大塚佳代子）
- 第4回 薬の基礎知識①用法・用量など（名徳倫明）
- 第5回 薬の基礎知識②副作用・相互作用など（名徳倫明）
- 第6回 薬の薬理作用（摂食・嚥下に影響する薬剤）（名徳倫明）
- 第7回 輸液の基礎と栄養（名徳倫明）
- 第8回 NST について
- 第9回 院内での NST の取り組みについて
- 第10回 嚥下食の紹介
- 第11回 認知症を伴う方の食事介助①（金子みどり）
- 第12回 認知症を伴う方の食事介助②（金子みどり）
- 第13回 口腔ケアの実技演習（金子みどり）
- 第14回 摂食・嚥下障害のリハビリテーションにおいて病棟ナースがSTに期待すること①
- 第15回 摂食・嚥下障害のリハビリテーションにおいて病棟ナースがSTに期待すること②

## ■ 評 価 方 法

出席50%、受講態度50%

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	失語症 I - 1	担当者	大西 環		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

失語症とはどのような言語障害であるか、基礎的な内容を中心に講義を行う。

## ■ 目 標

失語症の言語症状やタイプ分類等、失語症の基礎を理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 失語症とは  
定義とその障害の特徴  
臨床の流れ
- 第2回 失語症の言語症状 流暢性発話と非流暢性発話
- 第3回 失語症の言語症状 認知神経心理学的モデルについて
- 第4回 失語症の言語症状 発話症状 (各症状と用語の解説)
- 第5回 失語症の言語症状 発話症状 (各症状と用語の解説)
- 第6回 失語症の言語症状 聴覚的理解障害 (各症状と用語の解説)
- 第7回 失語症の言語症状 読み書きの障害 (各症状と用語の解説)
- 第8回 失語症のタイプ分類 古典分類の各タイプについて解説
- 第9回 失語症のタイプ分類 古典分類の各タイプについて解説
- 第10回 失語症のタイプ分類 皮質下性失語、交叉性失語、小児失語 ほか
- 第11回 純粹失読と失読失書
- 第12回 症状の観察の仕方
- 第13回 症状の観察の仕方
- 第14回 復習
- 第15回 まとめ

## ■ 評 価 方 法

試験100%

## ■ 教 科 書

書 名：脳卒中後のコミュニケーション障害  
 著者名：竹内愛子、河内十郎 編著  
 出版社：協同医書出版社

---

書 名：なるほど！失語症の評価と治療  
 著者名：小嶋知幸 編著  
 出版社：金原出版株式会社

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	失語症 I - 2	担当者	吉機 俊雄		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

失語症評価の流れを解説する。失語症の各検査技法を解説し、その演習を行う。  
各検査の使用目的を解説し、結果の解釈について演習を行う。SLTA 実技試験。

## ■ 目 標

スクリーニングが実施できる。SLTA が実施でき、その結果を分析できる。各失語症検査の内容を理解し、対象者に対して適切に選択できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 失語症分類の必要性 古典分類とシュール分類他との対比
- 第2回 流暢性とは何かを考え、伝導失語と発語失行の特徴の類似点と相違について検討
- 第3回 症例 VTR を提示し、そこから得られる観察事項を記述  
レポート作成
- 第4回 前回の症例の残存する能力に着目し、現時点で出来る ADL を検討
- 第5回 スクリーニングの意義と方法 意識障害の診かた 問診の方法
- 第6回 問診場面の VTR を提示し、そこから何が得られ、どの情報が不足しているかを検討
- 第7回 スクリーニングの演習 デモンストレーション後に患者シナリオに沿って学生同士で練習
- 第8回 スクリーニングの演習 デモンストレーション後に患者シナリオに沿って学生同士で練習
- 第9回 スクリーニングの記録の仕方 スクリーニング報告書の書き方
- 第10回 失語症に関する検査の説明  
コントロールテストとディープテスト 標準化されたテストとされていないテスト
- 第11回 標準失語症検査 (SLTA) 説明と演習 1 症例の検査場面 VTR を提示し、実施手順を解説しながら反応を記載
- 第12回 標準失語症検査 (SLTA) 説明と演習 2 症例の検査場面 VTR を提示し、実施手順を解説しながら反応を記載
- 第13回 標準失語症検査 (SLTA) 説明と演習 3 症例の検査場面 VTR を提示し、実施手順を解説しながら反応を記載
- 第14回 標準失語症検査 (SLTA) 説明と演習 4 症例の検査場面 VTR を提示し、実施手順を解説しながら反応を記載
- 第15回 標準失語症検査 (SLTA) 説明と演習 5 別症例の検査場面 VTR を提示し、反応を記載
- 第16回 標準失語症検査 (SLTA) 説明と演習 6 別症例の検査場面 VTR を提示し、反応を記載
- 第17回 標準失語症検査 (SLTA) 説明と演習 7 別症例の検査場面 VTR を提示し、反応を記載
- 第18回 標準失語症検査 (SLTA) 説明と演習 8 別症例の検査場面 VTR を提示し、反応を記載
- 第19回 標準失語症検査 (SLTA) 説明と演習 9 別症例の検査場面 VTR を提示し、反応を記載
- 第20回 標準失語症検査補助検査 (SLTA-ST) 説明と演習
- 第21回 実用コミュニケーション能力検査 (CADL 検査) 説明と演習
- 第22回 重度失語症検査・トークン検査・構文検査試案 II A・失語症語彙検査 モーラ分解・抽出検査
- 第23回 ディープ検査の必要性と作成方法

## ■ 評価方法

記述試験50% 標準失語症検査 (SLTA) 実技試験50%

## ■ 教科書

書名：標準失語症検査マニュアル 改訂第2版  
著者名：日本高次脳機能障害学会  
出版社：新興医学出版社

## ■ 参考図書

書名：言語聴覚士のための失語症訓練ガイダンス  
著者名：日本言語療法士協会編集  
出版社：医学書院

---

書名：演習で学ぶ言語聴覚療法評価入門  
著者名：山田弘幸  
出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

検査手順・結果解釈をしっかりと身につけて下さい。



授業科目	失語症 I - 3	担当者	林 正弘		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

単なる暗記や知識の集積に留まらず、障害構造の仮説を設定する評価から、その考察に基づいた訓練法の選択をしていける実践的な内容にしたいと思っています。

## ■ 目 標

実際にアプローチをするための評価から、訓練プランの立案までを学習します。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 訓練における評価とは？ 認知神経心理学的手法
- 第2回 失語症訓練の目標
- 第3回 失語症訓練の歴史と前提
- 第4回 失語症訓練法 刺激法（一般原則）
- 第5回 失語症訓練法 訓練プランの構築
- 第6回 【症例考察】 刺激法による要素的訓練法
- 第7回 失語症訓練法 刺激促通法（遮断除去法）
- 第8回 【症例考察】 遮断除去法による要素的訓練法
- 第9回 失語症訓練法 機能再編成法
- 第10回 【症例考察】 認知神経心理学的アプローチ
- 第11回 失語症訓練法 失語にまつわる発話障害（発語失行症）
- 第12回 【症例考察】 介入的評価の実際
- 第13回 時期・重症度・タイプによる訓練プランの視点
- 第14回 失語症訓練法 実用コミュニケーション技法
- 第15回 訓練計画と訓練手続き（療法の実際）

## ■ 評価方法

定期試験・実習課題・出席日数・受講態度を総合して評価します。

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	失語症Ⅱ	担当者	吉機 俊雄・大西 環		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必須

## ■ 内 容

①失語症者の機能障害・能力障害・心理・社会参加、QOL について考え、支援のポイントを学ぶ。②臨床講義で失語症者のスクリーニング・評価・訓練計画立案・訓練までを行い、グループで検討する。適宜次の内容を指導する（失語症回復の理論と介入の実際 回復時期に合わせた援助 ゴール設定とプログラム立案 訓練の実施 評価報告書の作成）。

## ■ 目 標

失語症者のスクリーニング・評価・訓練計画立案・訓練までの一連の流れに沿ったアプローチが指導を受けながら実施できる。

## ■ 授業計画

第1回	臨床講義1回目	セッションの準備
第2回	臨床講義1回目	成人失語症者が来校し、セッション後のフィードバックにも参加していただく。
第3回	臨床講義1回目	グループでのレポート作成
第4回	臨床講義2回目	セッションの準備
第5回	臨床講義2回目	成人失語症者が来校し、セッション後のフィードバックにも参加していただく。
第6回	臨床講義2回目	グループでのレポート作成
第7回	臨床講義3回目	セッションの準備
第8回	臨床講義3回目	成人失語症者が来校し、セッション後のフィードバックにも参加していただく。
第9回	臨床講義3回目	グループでのレポート作成
第10回	臨床講義4回目	セッションの準備
第11回	臨床講義4回目	成人失語症者が来校し、セッション後のフィードバックにも参加していただく。
第12回	臨床講義4回目	グループでのレポート作成
第13回	臨床講義5回目	セッションの準備
第14回	臨床講義5回目	成人失語症者が来校し、セッション後のフィードバックにも参加していただく。
第15回	臨床講義5回目	グループでのレポート作成

## ■ 評価方法

出席50% レポート50%

## ■ 教科書

書名：失語症者の実用コミュニケーション臨床ガイド  
 著者名：竹内愛子編集  
 出版社：協同医書出版社

## ■ 参考図書

書名：失語症臨床ガイド 症状別－理論と42症例による訓練・治療の実際  
 著者名：竹内愛子編集  
 出版社：協同医書出版

書名：言語聴覚士のための失語症訓練ガイダンス  
 著者名：日本言語療法士協会編集  
 出版社：医学書院

## ■ 留意事項

活発なグループワーク・質問・討議を期待します。

授業科目	高次脳機能障害 1	担当者	森岡 悦子		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

高次脳機能障害の症状とその捉え方について基本的な知識を学ぶ。

## ■ 目 標

高次脳機能障害の基礎的知識を学び、簡易評価を通して障害像を理解するとともに、処理機能に基づいて症状を捉えることができるようになる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 高次脳機能障害の概要
- 第2回 脳と高次脳機能：高次脳機能に関わる大脳の各領域の名称および脳の構造
- 第3回 記憶障害 (1) 記憶の基本概念と分類
- 第4回 記憶障害 (2) 記憶障害の種類と評価
- 第5回 記憶障害 (3) 記憶障害の評価とリハビリテーション
- 第6回 行為の障害 (1) 失行の基本概念と症状および評価方法
- 第7回 行為の障害 (2) その他の行為障害
- 第8回 失認 (1) 視覚認知障害(物体失認・相貌失認)の症状とメカニズム
- 第9回 失認 (2) 視知覚機能の評価と評価分析、リハビリテーション
- 第10回 失認 (3) 聴覚認知障害・触覚認知障害の症状とメカニズム
- 第11回 視空間障害 (1) 半側空間無視の基本概念と症状
- 第12回 視空間障害 (2) 半側空間無視の評価と評価分析
- 第13回 視空間障害 (3) 地誌的見当識障害・バリント症候群・視覚性運動失調・構成障害
- 第14回 遂行機能障害 (1) 基本的概念と症状
- 第15回 遂行機能障害 (2) 評価と評価分析

## ■ 評 価 方 法

定期試験80%、小テスト20%とする。

## ■ 教 科 書

書 名：高次脳機能障害学  
 著者名：石合純夫  
 出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	高次脳機能障害 2	担当者	森岡 悦子		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

前期の高次脳機能障害学の基礎知識を臨床に応用できるよう、症候の評価と考察を通して高次脳機能障害についての知識を深める。

## ■ 目 標

高次脳機能障害の症状から、適切な評価・鑑別方法を選択し実施できること、また検査結果、画像情報からそれぞれの症候を多面的に捉え、障害機序を考察できるようになることを、到達目標とする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 高次脳機能障害の評価と結果分析、演習（1）
- 第2回 高次脳機能障害の評価と結果分析、演習（2）
- 第3回 高次脳機能障害の評価と結果分析、演習（3）
- 第4回 脳梁離断 脳梁離断の種類と脳梁の機能局在
- 第5回 認知症 定義と診断手順、認知症の種類とケア
- 第6回 脳外傷 基本概念と症状、コミュニケーション障害の特徴、社会支援
- 第7回 認知リハビリテーション 基本原則、訓練と援助、社会参加
- 第8回 高次脳機能障害の症候学のまとめ（1）
- 第9回 高次脳機能障害の症候学のまとめ（2）
- 第10回 高次脳機能障害の症候学のまとめ（3）
- 第11回 画像診断学（1） 脳画像検査の種類と特徴 水平断における主な脳溝と脳回の同定
- 第12回 画像診断学（2） 水平断における主要領域の同定
- 第13回 画像診断学（3） 冠状断の見かた、矢状断の見方
- 第14回 画像診断学（4） 高次脳機能障害の基本事例の画像
- 第15回 画像診断学（5） 症候と画像からの障害の検証

## ■ 評 価 方 法

定期試験70%、小テスト20%、実技試験と提出物10%とする。

## ■ 教 科 書

書 名：標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学

著者名：藤田郁代 監修

出版社：医学書院

書 名：高次脳機能障害ポケットマニュアル【参考テキスト】

著者名：監修 原寛美

出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 参 考 図 書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ②画像の見かた使い方

著者名：三村將、ほか

出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 留 意 事 項

--

授業科目	言語発達障害 I - 1	担当者	齋藤 典昭・工藤 芳幸 ほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

前半は対人援助職として必要とされる基本的な知識や技術について学びます。  
後半では脳性麻痺児のコミュニケーション指導および摂食指導について学びます。

## ■ 目 標

1. 面接ができるようになる。
2. 対象者の様子を観察できるようになる。
3. 観察内容を記述できるようになる。

## ■ 授 業 計 画

第1回	上手なコミュニケーションについて学ぶ	その1	挨拶, 非言語的技術, 言語的技術
第2回	上手なコミュニケーションについて学ぶ	その2	傾聴, 共感, 返信 ほか
第3回	上手なコミュニケーションについて学ぶ	その3	心理的防衛機制, コーピングスタイル, リフレミング
第4回	上手なコミュニケーションについて学ぶ	その4	転移, 患者さんの理解度をアップするスキル ほか
第5回	上手なコミュニケーションについて学ぶ	その5	危機的状態の患者心理を理解する ほか
第6回	上手なコミュニケーションについて学ぶ	その6	面接の逐語録を読んで考える
第7回	観察し記述する	その1	観察するとはどういうことか
第8回	観察し記述する	その2	観察するポイント
第9回	観察し記述する	その3	記述するとはどういうことか
第10回	観察し記述する	その4	記述の技術
第11回	観察し記述する	その5	課題に取り組む
第12回	脳性麻痺児の評価とアプローチ	その1	(姿勢・運動・コミュニケーション)
第13回	脳性麻痺児の評価とアプローチ	その2	(姿勢・運動・コミュニケーション)
第14回	脳性麻痺児の評価とアプローチ	その3	(コミュニケーション・摂食)
第15回	脳性麻痺児の評価とアプローチ	その4	(コミュニケーション・摂食)

## ■ 評価方法

筆記試験による評価50%，提出物の評価50%.

## ■ 教科書

書名：24の臨床シーンでわかるコミュニケーションの上手な方法

著者名：保坂隆，町田いづみ

出版社：照林社

書名：絵でわかる言語障害

著者名：毛束真知子

出版社：学研

書名：インリアルアプローチ

著者名：竹田契一，里見恵子

出版社：日本文化科学社

## ■ 参考図書

書名：対人援助のための相談面接技術

著者名：岩間伸之

出版社：中央法規

書名：悩みを聴く技術

著者名：ジェローム・リス 国永史子訳

出版社：春秋社

書名：アドバンスシリーズコミュニケーション障害の臨床 脳性麻痺

著者名：日本聴能言語士協会講習会実行委員会

出版社：協同医書出版社

## ■ 留意事項

授業科目	言語発達障害 I - 2	担当者	齋藤 典昭・吉田 紀子 ほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

様々な言語発達障害について、基礎的な概念を学ぶ。  
 子ども虐待と高齢者虐待について学ぶ。  
 保育への参加をとおして視野を広げる。

## ■ 目 標

言語発達障害のそれぞれの特性を理解する。  
 近年社会的に周知されてきた「虐待」についての理解を深める。  
 社会の一員として自分自身が虐待に気づいた時の対応について考える。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 知的障害
- 第2回 広汎性発達障害①
- 第3回 広汎性発達障害②
- 第4回 注意欠陥／多動性障害①
- 第5回 注意欠陥／多動性障害②
- 第6回 学習障害・発達性読み書き障害
- 第7回 特異的言語発達遅滞
- 第8回 姿勢・運動の発達, 脳性麻痺
- 第9回 脳性麻痺
- 第10回 子ども虐待 歴史, 制度の変遷, 虐待の種類
- 第11回 虐待に関わる発達の課題 (被虐待児の心理的特徴等)
- 第12回 虐待を取り巻く社会的背景
- 第13回 虐待に対する対応 被虐待児の支援について
- 第14回 AAC 入門
- 第15回 保育所見学学習 (10月, 11月)

## ■ 評価方法

筆記試験による評価100%, レポートによる評価100%を合算して評価します.

## ■ 教科書

書名: 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学

著者名: 玉井ふみ, 深浦順一ほか

出版社: 医学書院

書名: 写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法 改訂7版

著者名: 前川喜平, 小枝達也

出版社: 南山堂

書名: よくわかる障害児保育

著者名: 尾崎康子ほか

出版社: ミネルヴァ書房

## ■ 参考図書

書名: よくわかる発達障害第2版

著者名: 小野次朗, 上野一彦, 藤田継道ほか

出版社: ミネルヴァ書房

書名: 作業療法士が行うIT活用支援

著者名: 宮永敬市ほか

出版社: 医歯薬出版

書名: こども虐待という第4の発達障害

著者名: 杉山登志郎

出版社: 学研

書名: AAC入門

著者名: 中邑賢龍

出版社: こころリソースブック出版会

## ■ 留意事項

10月に保育所見学学習があります.

今年度の ATAC in 京都は8月19日~20日に開催されます. 最新の AAC について学ぶには絶好の機会です. 自主的な参加をお勧めします.



授業科目	言語発達障害 I - 3	担当者	齋藤 典昭・工藤 芳幸 岡 美代子・赤尾 清子		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

各種の発達検査, 知能検査, 言語検査の実際について見学や演習をとおして学びます。

## ■ 目 標

1. 目的や実施手順など, 検査の内容について知る.
2. 検査結果を分析する能力を獲得する.

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 新版 K 式発達検査2001 子どもさんに来ていただき, 検査の実際を観察, 学習する
- 第2回 新版 K 式発達検査2001 子どもさんに来ていただき, 検査の実際を観察, 学習する
- 第3回 新版 K 式発達検査2001 採点方法, プロフィールの作成について学習する
- 第4回 新版 K 式発達検査2001 結果の分析と解釈について学習する
- 第5回 WISC-III 子どもさんに来ていただき, 検査の実際を観察, 学習する
- 第6回 WISC-III 子どもさんに来ていただき, 検査の実際を観察, 学習する
- 第7回 WISC-III 採点方法, プロフィールの作成について学習する
- 第8回 WISC-III 結果の分析と解釈について学習する
- 第9回 ITPA 子どもさんに来ていただき, 検査の実際を観察, 学習する
- 第10回 ITPA 子どもさんに来ていただき, 検査の実際を観察, 学習する
- 第11回 ITPA 採点方法, プロフィールの作成について学習する
- 第12回 ITPA 結果の分析と解釈について学習する
- 第13回 WISC-III その2 理論, 採点方法, プロフィールの作成
- 第14回 WISC-III その2 学生同士で検査者・被検者になり演習
- 第15回 WISC-III その2 学生同士で検査者・被検者になり演習
- 第16回 WISC-III その2 まとめ
- 第17回 ITPA その2 理論, 採点方法, プロフィールの作成
- 第18回 ITPA その2 学生同士で検査者・被検者になり演習
- 第19回 ITPA その2 学生同士で検査者・被検者になり演習
- 第20回 ITPA その2 まとめ
- 第21回 語用論の評価・アプローチ (INREAL) 語用論的アプローチの理論的背景と方法 (インリアルを中心に)
- 第22回 語用論の評価・アプローチ (INREAL) VTR の観察と記述法, 分析法 (演習)
- 第23回 語用論の評価・アプローチ (INREAL) 相互作用分析, 言語心理学的技法 (演習)
- 第24回 語用論の評価・アプローチ (INREAL) 相互作用分析, 言語心理学的技法 (演習)
- 第25回 語用論の評価・アプローチ (INREAL) 目標設定と指導計画立案 (演習)
- 第26回 国リハ式< S-S 法>言語発達遅滞検査 考え方と理論
- 第27回 国リハ式< S-S 法>言語発達遅滞検査 考え方と理論, 学生同士で演習 (音声記号獲得以降)
- 第28回 国リハ式< S-S 法>言語発達遅滞検査 学生同士で演習 (音声記号獲得以降・獲得以前)
- 第29回 国リハ式< S-S 法>言語発達遅滞検査 ロールプレイ
- 第30回 国リハ式< S-S 法>言語発達遅滞検査 記録方法, 検査のまとめ, 評価のまとめ

### ■ 評価方法

筆記試験による評価100%

### ■ 教科書

書名：標準言語聴覚障害学 言語発達障害学

著者名：玉井ふみ, 深浦順一ほか

出版社：医学書院

### ■ 参考図書

### ■ 留意事項

授業科目	言語発達障害Ⅱ	担当者	工藤 芳幸・齋藤 典昭 ほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	2単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

各言語発達障害児に対する支援プログラムについて学ぶ。  
AACによるコミュニケーション支援を学ぶ。  
PIC シンボルによるコミュニケーション支援の方法を学ぶ。

## ■ 目 標

言語発達障害児の指導計画の立案ができるようになる。  
各種 AAC 手段の特徴や指導方法を理解する。  
PIC シンボルを使用したコミュニケーション支援の意義や方法について理解する。

## ■ 授 業 計 画

第1回	広汎性発達障害の定義		
第2回	広汎性発達障害の行動・認知特性		
第3回	高機能広汎性発達障害（アスペルガー障害，高機能自閉症を中心に）		
第4回	自閉症をめぐる諸理論		
第5回	広汎性発達障害の特性に合わせた支援		
第6回	学習障害の定義と原因		
第7回	学習障害をめぐる諸理論		
第8回	学習障害の特性に合わせた支援		
第9回	特異的言語発達障害をめぐる理論と支援		
第10回	注意欠陥多動性障害をめぐる理論と支援		
第11回	発達障害のライフステージに応じた援助	その1	乳幼児期
第12回	発達障害のライフステージに応じた援助	その2	学齢期
第13回	発達障害のライフステージに応じた援助	その3	思春期
第14回	発達障害のライフステージに応じた援助	その4	成人期
第15回	様々な訓練課題に応じて必要となる教材について，作成を通して考える		評価のまとめ→訓練目標
第16回	様々な訓練課題に応じて必要となる教材について，作成を通して考える		訓練目標→セッションプログラム
第17回	様々な訓練課題に応じて必要となる教材について，作成を通して考える		教材作成
第18回	様々な訓練課題に応じて必要となる教材について，作成を通して考える		教材作成
第19回	様々な訓練課題に応じて必要となる教材について，作成を通して考える		発表・質疑応答
第20回	シンボルの研究の概要、PIC シンボルの概要		
第21回	PIC シンボルを使った指導方法		
第22回	事例（知的障害、自閉症）		
第23回	事例（失語）、シンボルを使ったメールシステムの開発研究等		
第24回	マカトンサイン，サウンズ&シンボル	AAC 概論	
第25回	マカトンサイン，サウンズ&シンボル	理論	
第26回	マカトンサイン，サウンズ&シンボル	演習	
第27回	マカトンサイン，サウンズ&シンボル	理論	
第28回	マカトンサイン，サウンズ&シンボル	演習	
第29回	マカトンサイン，サウンズ&シンボル	当事者の方に来ていただき演習	
第30回	マカトンサイン，サウンズ&シンボル	当事者の方に来ていただき演習	

## ■ 評価方法

筆記試験50%, グループワーク50%

## ■ 教科書

書名：よくわかる発達障害第2版  
著者名：小野次朗, 上野一彦, 藤田継道ほか  
出版社：ミネルヴァ書房

---

書名：自閉症支援のスタンダード Ver. 1  
著者名：中山清司ほか  
出版社：自閉症 e サービス

## ■ 参考図書

書名：言語発達遅滞訓練マニュアル<1><2>  
著者名：佐竹恒夫, 小寺富子, 倉井成子, 東江浩美, 那須道子  
出版社：エスコアール

---

書名：日本語版 PIC 活用編  
著者名：藤澤和子  
出版社：ブレーン出版

---

書名：言語発達遅滞訓練ガイダンス  
著者名：佐竹恒夫, 小寺富子, 倉井成子  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

授業科目	音声障害	担当者	藤田 邦子・大西 環		
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	2年	総単位数	2単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

音声障害の種類と治療法、音声治療の手技

## ■ 目 標

音声障害の種類と治療法、音声治療の手技を学ぶ

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 音声障害とは 発声のしくみ  
解剖 呼吸
- 第2回 音声障害の評価方法
- 第3回 音声障害を来たす疾患 I 声帯の器質的疾患（声帯ポリープ、声帯結節、ポリープ様声帯等）
- 第4回 音声障害を来たす疾患 II 喉頭麻痺
- 第5回 音声障害を来たす疾患 III 声帯に著変を認めない音声障害（変声障害、痙攣性発声障害、機能的発声障害等）
- 第6回 音声障害の診療の流れ  
音声障害の治療法 1. 薬物治療 2. 音声外科 3. 音声治療
- 第7回 声帯結節の音声治療
- 第8回 喉頭麻痺の音声治療
- 第9回 声帯に著変を認めない音声障害に対する音声治療
- 第10回 喉頭全摘出後の代用音声
- 第11回 声の衛生指導
- 第12回 音声治療の手技 I
- 第13回 音声治療の手技 II
- 第14回 音声治療の手技 III
- 第15回 音声治療の手技 IV
- 第16回 食道発声教室の見学
- 第17回 食道発声教室の見学
- 第18回 国家試験対策
- 第19回 国家試験対策
- 第20回 国家試験対策
- 第21回 国家試験対策
- 第22回 国家試験対策
- 第23回 国家試験対策

#### ■ 評価方法

筆記試験100%

#### ■ 教科書

書名：言語聴覚療法シリーズ14 音声障害

著者名：荻安 誠

出版社：建帛社

#### ■ 参考図書

書名：STのための音声障害診療マニュアル

著者名：廣瀬 肇 監修 城本 修 ほか 著

出版社：インテルナ出版

#### ■ 留意事項

定期的に GRBAS 尺度の演習を行う

授業科目	構音障害 I - 1	担当者	松本 治雄		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

機能性構音障害について音の産生のメカニズム、評価法、指導法について詳述する。

## ■ 目 標

話しことばの三要素である「音声」「構音」「パタン」のうち、構音の障害はもっとも中核をなす障害要因である。言語聴覚士の仕事の大半は構音指導であるとも言える。本講義は言語聴覚士が構音指導上、基本として体得しておくべき内容を演習的に習得することを目指している。

## ■ 授業計画

- 第1回 障害児の音声の聞き取りと構音障害の定義
- 第2回 発声発語の仕組みと各器官の機能、名称
- 第3回 日本語音声学の成り立ち（母音）
- 第4回 日本語音声学の成り立ち（子音）
- 第5回 日本語音声学の成り立ち（五十音表の音声学的検討）
- 第6回 構音障害児の評価1（構音障害に関わる要因）
- 第7回 構音障害児の評価2（構音検査の種類と目的）
- 第8回 構音障害児の評価3（異常構音の種類と聞き取り演習）
- 第9回 構音障害児の評価4（情報のまとめと分析）
- 第10回 構音障害児の指導1（指導の段階1）
- 第11回 構音障害児の指導2（指導の段階2）
- 第12回 構音障害児の指導3（事例による演習1）
- 第13回 構音障害児の指導4（事例による演習2）
- 第14回 異常構音についての検討
- 第15回 構音障害指導に関する総まとめ

## ■ 評価方法

平常点とレポート（10%）、期末テスト（90%）を加味して評価する予定

## ■ 教科書

書名：改訂機能性構音障害  
 著者名：本間慎治編著  
 出版社：建帛社

## ■ 参考図書

書名：発声発語障害学  
 著者名：熊倉勇美他編著  
 出版社：医学書院

---

書名：日本語音声学  
 著者名：城生伯太郎  
 出版社：kk サン・エデュケーショナル

## ■ 留意事項

受講に際しては知識として頭で覚えるのではなく、聴覚、視覚、触覚、筋運動覚を駆使して身体で身につけてもらうことを目指している

授業科目	構音障害 I-2	担当者	吉田 紀子		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

日本語の音声や子どもの発達をふまえ、機能性構音障害の基礎知識および評価・指導法を学ぶ。また音声の聴取、指導法の演習を行う。

### ■ 目 標

音声を聴き取り、表記することができる。  
機能性構音障害に対して適切な評価および指導ができる。

### ■ 授業計画

- 第1回 構音障害について
- 第2回 日本語の音声
- 第3回 幼児期の発達と構音発達
- 第4回 機能性構音障害および関連疾患について
- 第5回 構音の誤り
- 第6回 機能性構音障害の評価・指導の流れ
- 第7回 機能性構音障害の評価
- 第8回 構音検査（演習）
- 第9回 構音の聴取および分析（演習）
- 第10回 機能性構音障害の指導
- 第11回 構音指導方法①（演習）
- 第12回 構音指導方法②（演習）
- 第13回 ケーススタディ①
- 第14回 ケーススタディ②
- 第15回 まとめ

### ■ 評価方法

筆記試験100%

### ■ 教科書

書名：言語聴覚療法シリーズ 改訂機能性構音障害  
著者名：本間 慎治  
出版社：建帛社

### ■ 参考図書

### ■ 留意事項



授業科目	構音障害 I-3	担当者	藤原 百合		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

器質性構音障害（口蓋裂）について、基礎的知識や口蓋裂に伴う様々な問題点を知り、チームアプローチについて学ぶ。また、構音検査や鼻咽腔閉鎖機能検査の実施と、それに基づいた治療計画の立て方や構音訓練方法について、演習を交えながら学ぶ。

## ■ 目 標

1. 器質性構音障害（口蓋裂）について、評価方法や治療方法を理解することができる。2. 評価に基づき訓練プログラムを立てることができる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 正常な発話機能について
- 第2回 口蓋裂に関する基礎的知識
- 第3回 口蓋裂に伴う問題点
- 第4回 評価：口腔顔面の形態・機能
- 第5回 評価：鼻咽腔閉鎖機能の検査
- 第6回 評価：声と共鳴、構音の特徴
- 第7回 演習：構音障害の聴覚的評価
- 第8回 医学的アプローチ：外科的、歯科補綴的治療
- 第9回 言語治療：機能訓練法
- 第10回 言語治療：構音訓練法
- 第11回 言語治療：視覚的フィードバック訓練
- 第12回 演習：症例の評価
- 第13回 演習：症例の治療計画
- 第14回 チームアプローチ：各職種役割と連携
- 第15回 治療経過と治療のゴール

## ■ 評 価 方 法

筆記試験 100%

## ■ 教 科 書

書 名：標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 器質性構音障害  
 著者名：熊倉勇美、小林範子、今井智子編集  
 出版社：医学書院

## ■ 参 考 図 書

書 名：目で見える日本語音の産生 エレクトロパラトグラフィを用いて  
 著者名：RPG 研究会  
 出版社：フリークセブン

## ■ 留 意 事 項

--

授業科目	構音障害 I - 4	担当者	熊倉 勇美		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

運動障害性構音障害と成人の後天性の器質性構音障害について、広く定義、症状、鑑別診断、評価、訓練について学習し、それらを十分に理解した上で、STとしての臨床技術を習得する。

## ■ 目 標

観察、検査などから得られる情報を整理・分析し、具体的に訓練目標の設定、訓練の実施ができるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 運動障害性構音障害の定義、問題、臨床的な6つの分類
- 第2回 症例紹介：痙性構音障害
- 第3回 症例紹介：弛緩性構音障害
- 第4回 症例紹介：失調性構音障害
- 第5回 症例紹介：運動低下性、運動亢進性、混合性構音障害
- 第6回 運動障害性構音障害の診かた、各種検査法
- 第7回 SLTA-STの紹介：演習①
- 第8回 演習②
- 第9回 訓練の考え方と具体的方法
- 第10回 補助手段（AAC）
- 第11回 器質性構音障害とがんの基礎知識
- 第12回 口腔がん・中咽頭がんの特性と治療
- 第13回 患者の抱える問題とSTの果たす役割
- 第14回 発話の評価と分析：演習
- 第15回 発話訓練と補綴治療、まとめ

## ■ 評価方法

筆記試験 (100%)

## ■ 教科書

書名：改訂運動障害性構音障害

著者名：熊倉勇美編著

出版社：建帛社

書名：口腔・中咽頭がんのリハビリテーション—構音障害、摂食・嚥下障害—

著者名：溝尻源太郎・熊倉勇美編著

出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：標準言語聴覚障害学シリーズ「発声発語障害学」

著者名：熊倉勇美・小林範子・今井智子編著

出版社：医学書院

書名：改訂・AAC

著者名：久保健彦編著

出版社：建帛社

書名：ベッドサイドの神経の診かた

著者名：田崎義昭・斉藤佳雄著

出版社：南山堂

## ■ 留意事項

授業科目	構音障害Ⅱ	担当者	福永真哉・前田留美子・山本一郎		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

- ・ディサースリア（運動障害性構音障害）の障害レベルに応じた訓練法について解説する。（福永）
- ・発声発語・嚥下障害学分野の国家試験対策を行う。（前田）
- ・口腔の果たす2大機能である食べるということ、話すことについてその発生と発達について学ぶ。（山本）

## ■ 目 標

- ・ディサースリア（運動障害性構音障害）の障害レベルに応じた適切な訓練目標を設定して実施できるようにする。ディサースリアの検査の評価データから総合的な分析を適切に行ない、訓練立案が出来るようにする。（福永）
- ・発声発語・嚥下障害学分野の国家試験問題を解くために必要な知識を身につける。（前田）
- ・口腔機能を発生と発達の視点から学び、様々な病態に対処できる知識を養う。（山本）

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 総論：ディサースリアの障害レベルとそれに対応した訓練について（福永）
- 第2回 呼吸機能の治療アプローチ（福永）
- 第3回 発声機能の治療アプローチ（福永）
- 第4回 鼻咽腔閉鎖機能の治療アプローチ（福永）
- 第5回 口腔構音機能の治療アプローチ（福永）
- 第6回 発話速度の調節法1（福永）
- 第7回 発話速度の調節法2、構音訓練、プロソディ訓練など（福永）
- 第8回 ディサースリア訓練法全般についてのまとめ（福永）
- 第9回 発声発語・嚥下障害学分野の国家試験対策（前田）
- 第10回 発声発語・嚥下障害学分野の国家試験対策（前田）
- 第11回 発声発語・嚥下障害学分野の国家試験対策（前田）
- 第12回 発声発語・嚥下障害学分野の国家試験対策（前田）
- 第13回 顔面・口腔の発生  
口腔機能の発達（山本）
- 第14回 唇顎口蓋裂児における哺乳・摂食障害とその対処法（山本）
- 第15回 唇顎口蓋裂児における異常構音の分析と治療について  
エレクトロパラトグラフィー（EPG）を用いた異常構音の分析と治療について（山本）

## ■ 評価方法

出席10%、定期試験90%（福永）

出席100%（前田）

レポート100%（山本）

## ■ 教科書

福永

書名：ディサースリア標準テキスト

著者名：西尾正輝

出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

講義では教科書のみならず、プリント等も多く使用して行う。（福永）

授業科目	嚥下障害 I - 1	担当者	前田 留美子・高木 卓司		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

正常嚥下のメカニズムや嚥下障害の評価等基本的な事項について学ぶ  
 高齢重度障害者の摂食・嚥下障害の現状を福祉先進国との相違から把握する  
 長期臥床により生じる嚥下障害の発生機序を実技を通して理解する

## ■ 目 標

嚥下障害の基礎的な知識を理解する  
 検査を実施できる  
 高齢重度障害者の援助における具体的方略を導き出す思考能力の獲得

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 嚥下障害総論（前田留美子）
- 第2回 摂食・嚥下のメカニズム①（前田留美子）
- 第3回 摂食・嚥下のメカニズム②（前田留美子）
- 第4回 摂食・嚥下のメカニズム③（前田留美子）
- 第5回 情報収集・問診と観察①（前田留美子）
- 第6回 情報収集・問診と観察②（前田留美子）
- 第7回 各部位の評価①（前田留美子）
- 第8回 各部位の評価②（前田留美子）
- 第9回 各部位の評価③（前田留美子）
- 第10回 嚥下障害のスクリーニングテスト①（前田留美子）
- 第11回 嚥下障害のスクリーニングテスト②（前田留美子）
- 第12回 実技演習（前田留美子）
- 第13回 嚥下実習ガイダンス① スウェーデンと日本のリハビリ・ケアの比較（高木卓司）
- 第14回 嚥下実習ガイダンス② 二次障害による咽頭期嚥下の変化、ロールプレイ（高木卓司）
- 第15回 嚥下実習（高木卓司）

## ■ 評価方法

試験100%に嚥下実習の出欠（欠席は減点）を加味する  
15コマ以外に、検査の実技試験を実施する

## ■ 教科書

書名：「動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション」  
著者名：藤島一郎、柴本勇監修  
出版社：中山書店

## ■ 参考図書

書名：「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」  
著者名：聖隷三方原病院嚥下チーム  
出版社：医歯薬出版株式会社

---

書名：「脳卒中の摂食・嚥下障害 第2版」  
著者名：藤島一郎  
出版社：医歯薬出版株式会社

---

書名：「日本の理学療法士が見たスウェーデン」  
著者名：山口真人  
出版社：新評論

## ■ 留意事項

授業科目	嚥下障害 I - 2	担当者	田上恵美子・戸倉晶子・前田留美子		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

摂食・嚥下障害の基本的な訓練法について学び、訓練計画を考える  
 嚥下造影検査（VF）・嚥下内視鏡検査（VE）の目的、手順、解析方法について学習し、実際の画像を持ちて症例検討を行う

## ■ 目 標

摂食・嚥下障害の基本的な訓練法について学び、訓練計画を考える  
 VF・VE の評価方法を習得し、嚥下障害の症状を理解できるようになる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 嚥下関連筋の解剖、呼吸・構音器官評価の復習（田上恵美子）
- 第2回 間接訓練（呼吸筋・呼吸・咳嗽・息こらえ・pushing・pulling など）演習（田上恵美子）
- 第3回 間接訓練（頸部・顎・シャキア・メンデルソンなど）演習（田上恵美子）
- 第4回 間接訓練（舌・口唇・軟口蓋・ガムラビングなど）演習（田上恵美子）
- 第5回 直接訓練（頸部聴診・意識嚥下・横向き嚥下・ひと口量・丸のみ・顎引き・頭頸部など）（田上恵美子）
- 第6回 直接訓練（複数回嚥下・交互嚥下・一側嚥下・姿勢など）演習（田上恵美子）
- 第7回 訓練周辺事項（バルーン・カニューレなど）とチームアプローチ（田上恵美子）
- 第8回 経口移行の目安と訓練計画、その他まとめ（田上恵美子）
- 第9回 嚥下造影検査の目的・手順について（戸倉晶子）
- 第10回 嚥下造影検査の解析①（戸倉晶子）
- 第11回 嚥下造影検査の解析②（戸倉晶子）
- 第12回 症例検討①（戸倉晶子）
- 第13回 症例検討②（戸倉晶子）
- 第14回 嚥下内視鏡検査による評価①（戸倉晶子）
- 第15回 嚥下内視鏡検査による評価②、VF と VE の比較（戸倉晶子）

## ■ 評 価 方 法

試験100%、15コマ以外に訓練の実技試験を実施する

## ■ 教 科 書

書 名：嚥下障害の臨床 第2版 リハビリテーションの考え方と実際  
 著者名：日本嚥下障害臨床研究会  
 出版社：医歯薬出版

## ■ 参 考 図 書

書 名：脳卒中の摂食・嚥下障害 第2版  
 著者名：藤島一郎  
 出版社：医歯薬出版

書 名：目で見える嚥下障害～嚥下内視鏡・嚥下造影の所見を中心として～  
 著者名：藤島一郎  
 出版社：医歯薬出版

## ■ 留 意 事 項



授業科目	嚥下障害Ⅱ	担当者	田上恵美子・糸田昌隆・前田留美子		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	選択

## ■ 内 容

摂食・嚥下リハビリテーションの取り組みの実際について学ぶ  
成人・高齢者における摂食・嚥下障害の病態診断とリハビリテーション

## ■ 目 標

個々のケースについて評価し、訓練プランを立案できるようになる  
卒後、臨床での実践のためのスキルアップと国家試験合格にむけた基礎的事項の習熟

## ■ 授業計画

- 第1回 変性疾患の嚥下障害概論（田上恵美子）
- 第2回 ALS 事例による嚥下リハの進め方（田上恵美子）
- 第3回 ALS 事例に対する意思伝達演習（空書・読唇・50音表・透明版・読み上げ法）（田上恵美子）
- 第4回 パーキンソン病事例による嚥下リハの進め方（田上恵美子）
- 第5回 多系統萎縮症・筋ジストロフィー・重症筋無力症などの事例による嚥下リハの進め方（田上恵美子）
- 第6回 ST 訪問訓練について、その実際と課題（田上恵美子）
- 第7回 事例による嚥下リハの進め方（脳血管障害・廃用症候群）（前田留美子）
- 第8回 事例による嚥下リハの進め方（脳血管障害・廃用症候群）（前田留美子）
- 第9回 摂食・嚥下障害の社会的背景（糸田昌隆）
- 第10回 生理・解剖学的正常嚥下について（糸田昌隆）
- 第11回 咀嚼・嚥下運動の中樞神経・筋機構（糸田昌隆）
- 第12回 成人・高齢者の嚥下障害の病態診断（糸田昌隆）
- 第13回 摂食・嚥下障害のリハビリテーション（糸田昌隆）
- 第14回 摂食・嚥下障害のリハビリテーションⅡと栄養管理（糸田昌隆）
- 第15回 嚥下障害の周辺事項（グループワーク：症例検討 or 倫理問題）と国家試験対策（糸田昌隆）

## ■ 評価方法

試験100%

## ■ 教科書

書名：ケーススタディ摂食嚥下リハビリテーション in DVD  
～50症例から学ぶ実践的アプローチ～  
著者名：里宇明元，藤原俊之監修  
出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：事例でわかる摂食・嚥下リハビリテーション 現場力を高めるヒント  
著者名：出江紳一、近藤健男、瀬田拓 編集  
出版社：中央法規

## ■ 留意事項

--

授業科目	吃音	担当者	福永真哉 ほか		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

- ・吃音は発話症状だけでなく身体的症状、心理的症状があり、しかも症状が進展したり戻ったりする。本人の心理的状态は他者との関わりによって、変化し、社会的場面か個人的場面かによっても変化する。このように他の言語障害にはない特徴を理解した上で、何を治療の対象とし、どのような方法を用いるかを学習する。
- ・ディサースリア（運動障害性構音障害）の障害レベルに応じた評価法について解説する。

## ■ 目 標

- ・吃音の基礎知識と臨床の基本的能力を習得する。
- ・ディサースリア（運動障害性構音障害）の障害レベルに応じた適切な評価法である標準ディサースリア検査を適切に実施できるようにする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 吃音の定義、発生率、有病率、進展段階
- 第2回 吃音の症状（獲得性吃音の症状も含む）
- 第3回 吃音の原因論
- 第4回 指導・訓練法（直接法）
- 第5回 指導・訓練法（環境調整法）
- 第6回 指導・訓練法（間接法）
- 第7回 指導・訓練法（間接法）
- 第8回 指導・訓練法（間接法）
- 第9回 総論：ディサースリアの障害レベルとそれに対応した評価について（福永）
- 第10回 発話の聴覚的評価（福永）
- 第11回 呼吸機能の評価（福永）
- 第12回 発声機能の評価（福永）
- 第13回 鼻咽腔閉鎖機能の評価（福永）
- 第14回 口腔構音機能の評価－舌・口唇－（福永）
- 第15回 口腔構音機能の評価－交互反復運動、筋力－（福永）
- 第16回 症例報告書の作成とまとめ（福永）

## ■ 評価方法

定期試験100%

## ■ 教科書

書名：言語聴覚療法シリーズ13 改訂吃音

著者名：都筑澄夫編著

出版社：建帛社

書名：標準ディサースリア検査

著者名：西尾正輝

出版社：インテルナ出版

## ■ 参考図書

福永

書名：吃音の基礎と臨床

著者名：バリー・ギター著、長澤泰子監訳

出版社：学苑社

## ■ 留意事項

- ・この授業では吃音を持つ人の状態を把握し、理論的に対処することを学びます。まず幼児期から成人期までに吃音がどのように変わっていくかを把握するために、教科書の第1章を読み、感想文を第1回目の授業で提出してください。(A4用紙、枚数自由)
- ・講義では教科書のみならず、プリント等も多く使用して行う。(福永)

授業科目	小児聴覚障害	担当者	福田 章一郎・長 知子・田村 薫 野田 祥子・矢吹 裕栄・山口 忍
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年
		開講時期	後期
		総単位数	2単位
		選択・必修	必修

## ■ 内 容

- ・聴覚障害が言語および社会性の発達にどのような影響を与えるかを具体的なシミュレーション等を通して理解を促す。また、難聴発見から介入に必要な保護者のカウンセリング、幼児聴覚検査、digital補聴器および人工内耳の適応とそれらを活用するためのいろいろな療育法を分かりやすく解説する。(福田)
- ・聴覚の検査法とその評価、及び聴覚発達を中心とした援助について講義を行う。(山口ほか)

## ■ 目 標

- ・小児聴覚障害の理解に必要な解剖、生理、聴覚心理、補聴、リハビリテーションの基礎的事項について理解する。(福田)
- ・聴覚障害を有する対象者に基本的な検査が実施でき、その結果を評価するとともに、発達を含めた援助を提案することができるようになる。(山口ほか)

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 小児聴覚障害の理解に必要な基礎的な知識を解説する(福田)
- 第2回 新生児聴覚スクリーニングから精密検査までの経過を解説する(福田)
- 第3回 難聴の原因のについて遺伝を含めて解説する(福田)
- 第4回 聴覚の発達および幼児聴力検査を映像を通して具体的に解説する(福田)
- 第5回 聴覚障害児の補聴に必要な知識と fitting 法および人工内耳の適応について解説する(福田)
- 第6回 聴覚障害児の療育場面を通していろいろな療育法の目標と評価を解説する(福田)
- 第7回 聴覚障害の原因疾患(矢吹)
- 第8回 聴覚器・疾患・検査結果の関連(矢吹)
- 第9回 人工内耳の仕組み1(矢吹)
- 第10回 人工内耳の仕組み2(矢吹)
- 第11回 マスキングとは(矢吹)
- 第12回 マスキングの考え方(矢吹)
- 第13回 マスキングの考え方2(矢吹)
- 第14回 標準聴力検査について(野田または田村)
- 第15回 標準聴力検査の検査演習(野田または田村)
- 第16回 Bekesy 検査について(野田または田村)
- 第17回 Bekesy 検査の演習(野田または田村)
- 第18回 閾値上聴覚検査について(野田または田村)
- 第19回 閾値上聴覚検査の演習(野田または田村)
- 第20回 聴性脳幹反応の測定方法(野田または田村)
- 第21回 聴性脳幹反応の検査演習(野田または田村)
- 第22回 インピーダンスオーディオメータについて(野田または田村)
- 第23回 語音聴力検査について(野田または田村)
- 第24回 聴覚検査結果の解説 検査の目的とその意義について 症例提示①(長)
- 第25回 聴覚検査結果の解説 検査の目的とその意義について 症例提示②(長)
- 第26回 幼小児の聴力検査(山口)
- 第27回 幼小児の聴力検査(山口)
- 第28回 臨床の実際-発達遅滞の聴力評価-(山口)
- 第29回 臨床の実際-補聴器のフィッティング-(山口)
- 第30回 まとめ(山口)

## ■ 評価方法

筆記試験100%

## ■ 教科書

書名：聴覚検査の実際（改訂3版）

著者名：日本聴覚医学会 編集

出版社：南山堂

書名：言語聴覚士のための聴覚障害学

著者名：喜多村健

出版社：医歯薬出版

書名：言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版

著者名：鳥山 稔

出版社：医学書院

書名：聴覚活用の実際

著者名：田中美郷 廣田栄子

出版社：聴覚障害者教育福祉協会

## ■ 参考書

## ■ 留意事項

授業科目	成人聴覚障害 I	担当者	矢吹 裕栄・山口 忍		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

- ・聴覚障害学の基礎となる聴覚の器官の解剖と機能を確認し、難聴と聴覚検査との関係を学習する。(矢吹)
- ・成人聴覚障害の病態を知り、検査及び評価について学ぶ。(山口)

## ■ 目 標

- ・聴こえの仕組みの基礎知識を習得する。難聴の分類と聴覚検査法の基礎を習得し、検査結果から難聴のタイプを推定できるようになる。(矢吹)
- ・聴覚障害をきたす疾患を知り、必要な検査の選択と評価を理解する。(山口)

## ■ 授業計画

- 第1回 基礎用語の確認 音とは何か、「きこえる」ということ。(矢吹)
- 第2回 聴覚器の解剖 外耳・中耳の解剖と機能(矢吹)
- 第3回 聴覚器の解剖 内耳の解剖・機能(矢吹)
- 第4回 前半のまとめと復習(矢吹)
- 第5回 聴覚障害とは何か(矢吹)
- 第6回 難聴の分類(矢吹)
- 第7回 聴覚検査法1(矢吹)
- 第8回 聴覚検査法2(矢吹)
- 第9回 聴覚障害の実態(山口)
- 第10回 聴覚障害をきたす疾患(山口)
- 第11回 聴覚障害への対応(山口)
- 第12回 補聴器の仕組みと適応(山口)
- 第13回 人工内耳の仕組みと適応(山口)
- 第14回 聴力検査の復習と結果の見方(山口)
- 第15回 まとめ(山口)

## ■ 評価方法

試験100%

## ■ 教科書

書名：聴覚検査の実際(改訂3版)

著者名：日本聴覚医学会 編集

出版社：南山堂

書名：言語聴覚士のための聴覚障害学

著者名：喜多村健

出版社：医歯薬出版

書名：言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版

著者名：鳥山 稔

出版社：医学書院

書名：聴覚活用の実際

著者名：田中美郷 廣田栄子

出版社：聴覚障害者教育福祉協会

## ■ 参考書

## ■ 留意事項

授業科目	成人聴覚障害Ⅱ	担当者	田中 美郷・大森 千代美 箕谷 健三・山口 忍		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

- ・人間の聴覚を脳の側から、聴覚機能の発達と言語との関係、手話の重要性、ノーマライゼーションにまで及んで講義する。(田中)
- ・難聴の発見、難聴幼児の療育などについて講義する。(大森)
- ・聴覚学習、補聴支援機器の装用指導、聴覚障害者の教育課程などについて学ぶ(箕谷)
- ・聴覚障害の臨床の目的と実際について学ぶ。(山口)

## ■ 目 標

- ・聴覚障害を診るのではなく聴覚障害者(児)を診るための姿勢を養う。(田中)
- ・難聴幼児の療育の実際について学び、理解を深める。(大森)
- ・聴覚障害教育について学び、成人聴覚障害者の理解と支援の在り方について知識を深める。(箕谷)
- ・聴覚障害児・者の適切な援助について、検査結果をふまえ適切な援助について提案できるようになる。(山口)

## ■ 授業計画

- 第1回 「聴覚障害を診る」と「聴覚障害者(児)を診る」の違い(田中)
- 第2回 言語とその構造：音声言語と手話言語の比較(田中)
- 第3回 言語獲得：聴覚言語も視覚言語もその心理学的プロセスは同じ(田中)
- 第4回 聴覚障害の早期検出・早期診断法(田中)
- 第5回 人間の聴覚機能(田中)
- 第6回 聴覚活用法について(田中)
- 第7回 早期療育の成果とこれによって判ってきたこと(田中)
- 第8回 早期療育支援法(田中)
- 第9回 人工内耳について(田中)
- 第10回 聴覚障害児教育の難しさ、奥深さと何を目標とすべきか(田中)
- 第11回 聴覚障害の心理的援助1(山口)
- 第12回 聴覚障害の心理的援助2(山口)
- 第13回 聴覚障害の遺伝子診断(山口)
- 第14回 聴覚障害の検査と評価1(山口)
- 第15回 聴覚障害の検査と評価2(山口)
- 第16回 聴覚障害の検査と評価3(山口)
- 第17回 聴覚障害の検査と評価4(山口)
- 第18回 聴覚障害のケースワーク1(山口)
- 第19回 聴覚障害のケースワーク2(山口)
- 第20回 聴覚障害のケースワーク3(山口)
- 第21回 聴覚障害のケースワーク4(山口)
- 第22回 聴覚障害のケースワーク5(山口)
- 第23回 乳児の聴覚発達と難聴の発見(大森)
- 第24回 ことばの獲得の基盤について(大森)
- 第25回 難聴幼児の療育の実際①(大森)
- 第26回 難聴幼児の療育の実際②(大森)
- 第27回 聴覚障害教育(聴覚障害児の理解と聴覚障害教育の歴史と現状など)(箕谷)
- 第28回 聴覚障害児の装用指導(聴覚学習、幼小児補聴器フィッティングの基本的な考え方)(箕谷)
- 第29回 補聴器管理と補聴器管理(耳型・ダンパー等のアクセサリを含む)と保護者支援(箕谷)
- 第30回 まとめ(山口)

## ■ 評価方法

試験100%

## ■ 教科書

書名：聴覚検査の実際（改訂3版）

著者名：日本聴覚医学会 編集

出版社：南山堂

書名：言語聴覚士のための聴覚障害学

著者名：喜多村健

出版社：医歯薬出版

書名：言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第2版

著者名：鳥山 稔

出版社：医学書院

書名：聴覚活用の実際

著者名：田中美郷 廣田栄子

出版社：聴覚障害者教育福祉協会

## ■ 参考書

## ■ 留意事項



授業科目	補聴器・人工内耳	担当者	竹田 利一・柴田 尚美・山口 忍		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

- ・補聴器のフィッティングにおける総合的な知識、補聴器適応の決定、補聴器の調整選択について学ぶ。(竹田)
- ・人工内耳の仕組みや適応、マッピングについて学ぶ。(山口・柴田)

## ■ 目 標

- ・補聴器フィッティングにおける総合的な知識、補聴器適応の決定、調整と選択の基礎を身につけ、イヤモールドの採形について理解を深める。(竹田)
- ・補聴器・人工内耳の原理を知り、その適応と装着の手順について説明ができる。装用者に適切なかわりができ、適切な調整を提案することができる。(山口・柴田)

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 補聴器の種類と仕組み (竹田)
- 第2回 補聴器の性能 (補聴器の最新デジタル技術) (竹田)
- 第3回 補聴器に関する測定、JIS、補聴器特性検査装置を使った実習 (竹田)
- 第4回 補聴器調整器の使い方、調整器の意味と実習 (竹田)
- 第5回 イヤモールドに関する講義 (竹田)
- 第6回 イヤモールドの採形実習 (竹田)
- 第7回 補聴器のフィッティングの考え方 (リニア、ノンリニア) (竹田)
- 第8回 補聴器装用効果の評価と補聴器適合検査の解説 (竹田)
- 第9回 人工内耳の仕組み (柴田)
- 第10回 人工内耳の音声処理方式について (柴田)
- 第11回 成人人工内耳装用者のリハビリテーションの進め方 (柴田)
- 第12回 小児人工内耳装用児のリハビリテーション、支援体制 (柴田)
- 第13回 聴覚障害総復習 (山口)
- 第14回 聴覚障害総復習 (山口)
- 第15回 聴覚障害総復習 (山口)

## ■ 評 価 方 法

試験100%

## ■ 教 科 書

書 名：補聴器のフィッティングの考え方 (改訂第3版)  
 著者名：小寺一興  
 出版社：診断と治療社

## ■ 参 考 書

## ■ 留 意 事 項

授業科目	視覚聴覚二重障害	担当者	ST 教員		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

視覚障害、聴覚障害関連施設の見学及び講義

### ■ 目 標

視覚障害者、聴覚障害者を取りまく現状を知り、理解を深める。

### ■ 授 業 計 画

- 第1回 聴覚障害者を取りまく環境について（京都市聴覚言語障害センター）
- 第2回 聴覚障害者福祉の歴史について（京都市聴覚言語障害センター）
- 第3回 聴覚障害者福祉の歴史について（京都市聴覚言語障害センター）
- 第4回 視覚障害者福祉の歴史について（日本ライトハウス）
- 第5回 視覚障害者福祉の歴史について（日本ライトハウス）
- 第6回 視覚障害者福祉の歴史について（日本ライトハウス）
- 第7回 国家試験対策
- 第8回 国家試験対策

### ■ 評 価 方 法

出席状況100%

### ■ 教 科 書

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

授業科目	臨床実習 I	担当者	ST 専攻科教員		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

I 期臨床実習（見学実習）  
期間：1 週間

### ■ 目 標

言語聴覚士の業務の流れを理解し、関連職種との連携を理解する。

### ■ 授 業 計 画

授業計画：実習協力施設、病院様にて、ご指導を頂くスーパーバイザー（SV）の言語聴覚療法を見学させて頂く。

毎日実習日誌を作成し、SV の添削を適宜頂く。

SV から与えられた課題のレポートなどを作成する。

実習のまとめを作成する。

詳細については、後日配布の「臨床実習の手引き」を参照すること。

### ■ 評 価 方 法

- ① 実習の進捗状況・実習への取り組み具合
  - ② SV からの種々の情報
  - ③ SV 記載の成績表・所見
  - ④ 症例報告書
  - ⑤ 実習日誌
  - ⑥ 出席状況
  - ⑦ 実習報告会のレジメ・パワーポイント・発表・質疑応答
  - ⑧ 実習報告会までの教員指導時の取り組み
- を総合し、専攻科教員が評価する。

### ■ 教 科 書

### ■ 参 考 図 書

### ■ 留 意 事 項

出席日数が規定の 4 / 5 に満たないものは、科目履修の認定はされない。

授業科目	臨床実習Ⅱ	担当者	ST専攻科教員		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	1年	総単位数	5単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

Ⅱ期臨床実習（評価実習）  
期間：5週間

## ■ 目 標

臨床実習Ⅰ及び学内で学んだ検査手順や評価に関する知識を基に、言語聴覚療法における検査、及び評価を実際に行い、指導援助プログラムの立案までが指導を受けながら可能となる。

## ■ 授 業 計 画

実習協力施設、病院様にて、ご指導いただくSVの指示、監督のもと、患者（児）様に検査を行い、その結果を分析して他の所見と併せて総合評価を行う。さらにその評価に基づき、指導援助プログラムを立案する。

実習日誌を毎日作成し、SVから与えられたレポート課題などを作成する。

実習のまとめとして、症例報告書を作成する。

詳細については、後日配布の「臨床実習の手引き」を参照すること。

## ■ 評 価 方 法

- ① 実習の進捗状況・実習への取り組み具合
  - ② SVからの種々の情報
  - ③ SV記載の成績表・所見
  - ④ 症例報告書
  - ⑤ 実習日誌
  - ⑥ 出席状況
  - ⑦ 実習報告会のレジメ・パワーポイント・発表・質疑応答
  - ⑧ 実習報告会までの教員指導時の取り組み
- を総合し、専攻科教員が評価する。

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

出席日数が規定の4/5に満たないものは、科目履修の認定はされない。

授業科目	臨床実習Ⅲ	担当者	ST専攻科教員		
学科名	言語聴覚専攻科	学年	2年	総単位数	6単位
		開講時期	前期・後期	選択・必修	必修

### ■ 内 容

Ⅲ期臨床実習  
期間：8週間

### ■ 目 標

検査および評価に基づき指導援助プログラムの立案を行い、言語聴覚療法を指導を受けながら実施できる。言語聴覚士としての役割を理解し、言語聴覚療法の臨床に於いて必要な知識と技術を習得する。また、職務に対する倫理や基本的な姿勢など、言語聴覚士としての適性を養う。

### ■ 授業計画

実習施設・病院で、臨床実習指導者（スーパーバイザー・SV）のご指導、監督のもと、患者（児）様の検査、評価、指導訓練プログラムの立案から、実際の言語聴覚療法を経験する。  
実習日誌を毎日作成してSVのご指導を頂くと共に、SVから与えられるレポート課題などに取り組む。  
実習のまとめとして、症例報告書を作成する。  
詳細については、後日配布の「臨床実習の手引き」を参照すること。

### ■ 評価方法

- ① 実習の進捗状況・実習への取り組み具合
  - ② SVからの種々の情報
  - ③ SV記載の成績表・所見
  - ④ 症例報告書
  - ⑤ 実習日誌
  - ⑥ 出席状況
  - ⑦ 実習報告会のレジメ・パワーポイント・発表・質疑応答
  - ⑧ 実習報告会までの教員指導時の取り組み
- を総合し、専攻科教員が評価する。

### ■ 教 科 書

### ■ 参考図書

### ■ 留意事項

出席日数が規定の4/5に満たないものは、科目履修の認定はされない。

授業科目	作業療法概論	担当者	中山 広宣		
学科名	理学療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

1. 人（身体機能，精神機能）における作業活動の意義（活動分析）.
2. リハビリテーションにおける作業療法の役割と機能.
3. 身体障害，老年期障害，精神障害，発達障害の作業療法.

## ■ 目 標

1. 作業活動の意義や作業療法の機能と役割を理解する.
2. 身体障害，老年期障害，精神障害，発達障害の作業療法を理解する.
3. 上記を理解することで，対象者中心のチームリハビリテーションのあり方を考える.

## ■ 授業計画

- 第1回 作業療法の歴史
- 第2回 作業療法における対象者の理解
- 第3回 作業療法における対象者との治療的関係
- 第4回 人における作業活動の意義
- 第5回 リハビリテーションにおける作業療法の役割
- 第6回 作業療法に関係する定義と国際生活機能分類（ICF）における作業療法の機能
- 第7回 作業療法の理論的背景
- 第8回 治療的作業活動と作業活動分析（作業活動に必要な身体機能と精神機能の実際）
- 第9回 分野別作業療法の概略（精神障害，発達障害，身体障害，老年期障害，高次脳機能障害など）
- 第10回 精神障害の作業療法（中山）
- 第11回 発達障害の作業療法（吉田）
- 第12回 身体障害の作業療法（福井）
- 第13回 職業リハビリテーション（福井）
- 第14回 地域における作業療法（橋本）
- 第15回 集団療法（デイケア）における作業療法の意義

## ■ 評価方法

ペーパー試験（小テスト含む）100%  
 欠席は1回につき5点，遅刻・早退および受講態度不良は1回につき3点減点

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

書 名：標準作業療法学作業療法学概論  
 著者名：岩崎テル子編集  
 出版社：医学書院

## ■ 留意事項

リハビリテーションの歴史において，理学療法と作業療法は共に発展してきた。真のチームリハビリテーションは他の専門職の理解と尊重が大切である。専門領域外ではあるが興味を持って受講して欲しい。なお，講義は配布資料で行う。

授業科目	医療情報学	担当者	周藤 俊治		
学科名	作業療法学専攻	学年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

現代の保健・医療・福祉の分野において欠かせない ICT の活用に必要な基礎知識として①デジタルデータがどのように発生しネットワーク上を流れているのか、②医療機関にどのようなシステムが導入・利用されているのか、③情報の収集や活用に関して講義を行なう。

## ■ 目 標

医療に関する情報がどのように発生し記録・活用されているのか、ICT の発展により医療環境がどのように変わったのか理解する力と、これからの技術の進展や医療環境の変化に対応して最適な医療環境の構築に向けて発想する力を身につけることを目標とする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 情報学（Ⅰ）情報の表現と処理について
- 第2回 情報学（Ⅱ）ネットワーク技術について
- 第3回 保健医療情報システム（Ⅰ）電子カルテについて
- 第4回 保健医療情報システム（Ⅱ）オーダーエントリーシステムについて
- 第5回 保健医療情報システム（Ⅲ）医用画像システムについて
- 第6回 保健医療情報システム（Ⅳ）医療ネットワークシステムについて
- 第7回 医療統計（Ⅰ）尺度・度数分布について
- 第8回 医療統計（Ⅱ）代表値・散布度について
- 第9回 医療統計（Ⅲ）評価指標について
- 第10回 医療統計（Ⅳ）仮説検定について
- 第11回 評価・検査・測定（Ⅰ）精度と妥当性について
- 第12回 評価・検査・測定（Ⅱ）効果判定について
- 第13回 調査研究（Ⅰ）コホート研究とケースコントロール研究について
- 第14回 調査研究（Ⅱ）因果関係について
- 第15回 医療情報の倫理 医の倫理・情報の倫理・関連法規について

## ■ 評 価 方 法

筆記試験 100%

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

書名：医療情報医療情報システム編  
 著者名：日本医療情報学会医療情報技師育成部会  
 出版社：篠原出版新社

## ■ 留 意 事 項

適宜資料を配布します  
<http://www.medbb.net> に講義情報を掲載しています

授業科目	理学療法概論 (OT)	担当者	石倉 隆		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法や理学療法士の概略を理解し、その資質向上と業務把握を目的とする。「理学療法学」は学問体系が構築されつつあるが、人を対象とする医療では、学問としてだけでなくヒューマニズムにも力点を置きながら教授し、実学としての「理学療法学」理解を目指す。具体的には、理学療法がリハビリテーション医学に包含されるようになるまでの歴史の変遷やリハビリテーション医学における位置づけについて述べるとともに、理学療法の対象について、理学療法学を構築する各種療法の概念や具体的な方法、使用する機器などについて解説する。

## ■ 目 標

リハビリテーションはOTのみではなくPTとの協業で障害者の生活を援助することを理解する。また、OTとしてPT的視点をもつことが、OTの治療の幅を広げることを理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 理学療法とは、組織
- 第2回 地域連携パスと機能予後予測
- 第3回 理学療法過程から見えてくるもの
- 第4回 生活とは何か、医療が立ち入れるところ
- 第5回 EBPT 再考、シングルケーススタディ再考
- 第6回 関節可動域運動と筋力トレーニングの理論と EBPT 演習
- 第7回 ストレッチとバランストレーニングの理論と EBPT 演習
- 第8回 中枢神経障害理学療法1：脳卒中
- 第9回 中枢神経障害理学療法2：パーキンソン病
- 第10回 中枢神経障害理学療法3：脊髄小脳変性症
- 第11回 小児疾患理学療法：脳性麻痺を中心に
- 第12回 運動器障害理学療法
- 第13回 症例と課題の提示
- 第14回 課題の実施
- 第15回 レポートの作成

## ■ 評価方法

授業計画13～15回で作成したレポート 100%

## ■ 教科書

資料を配布する。

## ■ 参考図書

適宜紹介する。

## ■ 留意事項

講義では、個人情報に係る資料も提示する。その取り扱いには十分注意し、学外でみだりに他言しないように心がけること。



授業科目	日常生活活動学	担当者	洲崎 俊男		
学科名	作業療法学専攻	学年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

日常生活に関与する諸活動の概念，代表的評価法，評価尺度の概念，生活関連活動の概念と範囲，国際障害分類と国際機能分類の知識をもつ。自助具，福祉・生活支援機器，コミュニケーション機器の知識を持つ。主な疾患・病態（脳卒中片麻痺，頸髄・脊髄損傷，脊髄小脳変性症，パーキンソン病，筋萎縮性側索硬化症，筋ジストロフィー，関節リウマチ，切断，脳性麻痺，コミュニケーション障害，高次機能障害，認知症含む高齢者等）の日常生活活動の特徴並びに介助法や指導法について学習する。

## ■ 目 標

日常生活に関与する諸活動の概念，分析，評価，及び練習についての知識を深める。国際障害分類から国際機能分類へ移行した経緯や主な概念についての理解を深める。更に，従来からの主な評価法を修得する。作業療法士が必要とする自助具，福祉・生活支援機器，コミュニケーション機器の知識を習得する。代表的疾患の日常生活活動の特徴並びに介助法や指導法について修得する。

## ■ 授業計画

- 第1回 作業療法の中での日常生活活動学の位置づけ  
日常生活活動の概念・定義・意義（評価の目的・範囲と項目、数量化）
- 第2回 国際障害分類から生活機能分類への流れ
- 第3回 代表的評価法
- 第4回 日常生活活動と運動学
- 第5回 基本的 ADL と生活関連活動（拡大 ADL）
- 第6回 日常生活活動と自助具
- 第7回 日常生活活動を支援するリハビリテーション機器（福祉・生活支援機器）
- 第8回 日常生活活動とコミュニケーション機器
- 第9回 【各論】障害別の日常生活活動指導の実際
  - ①片麻痺
- 第10回 ②脊髄損傷（四肢麻痺，対麻痺）
- 第11回 ③切断（上肢，下肢）
- 第12回 ④関節リウマチ
- 第13回 ⑤筋萎縮性疾患（筋ジストロフィー，筋萎縮性側索硬化症）  
神経筋疾患（脊髄小脳変性症，パーキンソン病）
- 第14回 ⑥脳性麻痺
- 第15回 ⑦高齢者（在宅，認知症など），廃用症候群

### ■ 評価方法

筆記試験 (35%), 提出課題 (20%), 小テスト (30%), 出席状況 (15%, 無断欠席や遅刻はマイナス評価), の結果を総合的に評価する.

### ■ 教科書

書名: 日常生活活動 (動作) —評価と訓練の実際—  
著者名: 土屋弘吉 他編  
出版社: 医歯薬出版

### ■ 参考図書

書名: 日常生活活動 作業療法技術論 2 第10巻  
著者名: 早川宏子編  
出版社: 協同医書出版

---

書名: ADL —作業療法の戦略・戦術・技術—  
著者名: 生田宗博編  
出版社: 三輪書店

### ■ 留意事項

2回の提出課題 (利き手不使用体験, 福祉・生活支援機器・バリアフリー住宅等の見学) あり.  
第2回目から前回の復習を兼ねた小テストを実施する.